

27687 / inTopicNo.1) 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ レフリー富山 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/06(Tue) 17:09:19)
<http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

再建主義の新鋭の旗手富井先生と、ここICFでもかの「ハリポタ論争」の張本人となった救世軍のまこと先生（山谷大尉）とのガチンコ対決が勃発した。

<http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

果てしなく続く応酬に次ぐ応酬。結末はいかに！？

27736 / inTopicNo.2) お願いします。

□投稿者/ 観覧人 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/07(Wed) 12:19:09)

論争するのはいいけど、その為にクリスチャンが分裂して、一人の人の救いを遅らす事にならないようにして下さい。

27764 / inTopicNo.3) Re[2]: お願いします。

□投稿者/ ター茶 しもべ(889回)-(2004/01/07(Wed) 22:54:49)

No27736に返信(観覧人さんの記事)

> 論争するのはいいけど、その為にクリスチャンが分裂して、一人の人の救いを遅らす事にならないようにして下さい。

まああ、どっちも偽者であることを証明して、めでたしめでたし、と、なったらいいね。

27821 / inTopicNo.4) Re[3]: お願いします。

□投稿者/ 偽ター茶 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/09(Fri) 03:09:36)

> まああ、どっちも偽者であることを証明して、めでたしめでたし、と、なったらいいね。

ター茶もなー。（藁

27838 / inTopicNo.5) Re[4]: お願いします。

□投稿者/ ター茶 しもべ(892回)-(2004/01/09(Fri) 21:26:51)

No27821に返信(偽ター茶さんの記事)

>> まああ、どっちも偽者であることを証明して、めでたしめでたし、と、なったらいいね。

>

> ター茶もなー。（藁

私のばあやいは、初めから偽者だと言っていると思うのですが。。。。

待てよ、するとあなたは本物のター茶ってことになるのかな？
ご苦労様です。

27851 / inTopicNo.6) Re[1]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 緋色の獣 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/10(Sat) 04:03:51)

No27687に返信(レフリー富山さんの記事)

> 再建主義の新鋭の旗手富井先生と、ここICFでもかの「ハリポタ論争」の張本人となった救世軍のまこと先生（山谷大尉）とのガチンコ対決が勃発した。

>

> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>

> 果てしなく続く応酬に次ぐ応酬。結末はいかに！？

富井はまともに議論のできない奴です。

私の批判に反論できないので、削除と投稿禁止で答えました。

27906 / inTopicNo.7) 獣追放

□投稿者/ 反獣勢力 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/11(Sun) 13:50:54)

できないんじゃなくて相手にならないんだよ。

頭おかしいんじゃない。

あと、その名前やめてくれない？！

27909 / inTopicNo.8) Re[3]: 獣追放

□投稿者/ 自称・エデンの園を追放されたものの子孫 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/11(Sun) 14:37:16)

No27906に返信(反獣勢力さんの記事)

> あと、その名前やめてくれない？！

動物愛護団体の方ですか？

27916 / inTopicNo.9) Re[3]: 獣追放

□投稿者/ 細木 はしため(762回)-(2004/01/11(Sun) 17:15:45)

No27906に返信(反獣勢力さんの記事)

> できないんじゃなくて相手にならないんだよ。

> 頭おかしいんじゃない。

人はいろいろな判断があります。

頭からこんな決め付けたような書き方は止めてください。

> あと、その名前やめてくれない？！

27938 / inTopicNo.10) Re[1]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/12(Mon) 00:06:44)

No27687に返信(レフリー富山さんの記事)

> 再建主義の新鋭の旗手富井先生と、ここICFでもかの「ハリポタ論争」の張本人となった救世軍のまこと先生（山谷大尉）とのガチンコ対決が勃発した。

>

> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>

> 果てしなく続く応酬に次ぐ応酬。結末はいかに！？

>

>

残念ながら、ミレニアム掲示板では、本日をもって、わたくしは

アクセス禁止とされた模様です。

「男らしく出て来い」と名指しでお呼びがあったので、出かけて行ったのですが、退場を命ぜられる結果となってしまいました。

最後に言い足りなかったことを、まったくの場所違いではありますが、ここに書かせていただきます。

奴隷問題と女性問題

わたしは、この部分が明快に説明できないところが、再建主義の落とし穴なのではないかと疑っています。

旧約聖書は、奴隷制度を容認しており、また、新約聖書も、「キリストにあって奴隷も自由人もない」とパウロは言いつつも、別の手紙では、奴隷制度を容認している。

そうすると、奴隷解放運動というのは、聖書のどの聖句によって支持されることになるのか？というのが、当然のことながら沸いてくる疑問なのです。

再建主義が、前提主義と、ひとつひとつの聖句が命題的真理であるという建前であるならば、奴隷解放運動についてもそれを支持する明快な聖句が、存在しなければならないはずです。

もし、存在しないなら、論理的に考えて、それは「自律的原理」になってしまうのです。

前提主義とは、「神が是とすることが是である」「神が否とすることが否である」と考えるわけですから、「奴隷制度のような残忍な制度を神が容認するはずがない」と決めてかかるなら、それこそ、ヒューマニズムになってしまうではありませんか？

しかし、「キリストにあって奴隷も自由人もない」というパウロの言葉を根拠にして、奴隷解放運動を「是」とすることができるのであれば、「キリストにあって男も女もない」という同じパウロの言葉を根拠にして、女性解放運動も「是」とすることができるはずなのです。

そうして、女性解放運動を、パウロの言う「新経綸」の聖句によって「社会における男女平等」として認めることが可能なのであれば、「教会における男女平等」として認めることも可能なではありませんか？ なぜなら、罪の奴隷を「予型」として示す奴隷制度が廃止可能なのであれば、キリストと教会を「予型」として示す男への女の服従も、廃止可能ということになるからです。

この場合、再建主義の建前からすれば、女性の参政権についても、男女雇用機会均等法についても、男女共同参画社会についても、「神の絶対的な命令である聖書」の中から、支持する聖句を必ず見つけて提示できなければならないはずです。

しかし、現実には、それは、至難のわざでありましょう。

富井さまの「再建主義は女性解放運動は否定しないが、ウーマンリブには反対する」というお言葉が、その難しい

立場をよく表していると思いました。

女性解放運動とは、ウィメンズ・リベレーションであり、ウーマンリブとは、ウィメンズ・リベレーションを指すからです。

すると、「再建主義は女性解放運動は否定しないが、女性解放運動には反対する」という、論理的矛盾が生じるのです。

では、なぜ、このような論理的矛盾が生じてしまうのか？

再建主義は、神と人の間には「中間領域」というものは存在してはならないと主張します。この中間領域とは、政治・司法・税制・経済などであり、聖書の司法律法をこれらに適用することによって、真空の中間領域をクリスチャンは神の意思のもとに統制しなければならないとします。

しかし、現実には、神と人との間には「中間領域」というものが存在しており、しかも、新約聖書のパラダイムは、その存在を支持しているのです。

つまり、再建主義の考え方が、現実からも、新約聖書のパラダイムからもずれているために、上記に挙げたような論理矛盾が起きるのだと思われるのです。

27994 / inTopicNo.11) Re[2]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/13(Tue) 13:07:31)

ミレニアム掲示板よりアクセス禁止措置を受けましたが、富井様より、
>以下の質問にメールで答えてくれたら、再開しましょう。
と、お誘いがありました。そこで、この場所をお借りして、持論を述べさせていただいてよろしいでしょうか？ 再建主義については、他にも興味を持っている方がおられると思いますので。

以下、富井様からの設問のひとつひとつに応じて、レスします。

>（１）「聖書は救いに関してのみ、絶対権威である」と主張しつつ、女性の権利
>と権威について、なぜ聖書に基づいて議論するのでしょうか？

わたしの個人的立場は、「聖書は人を救いに至らせる知識についての絶対的権威である」というものです。
そうして、聖書の中の司法律法を、そのまま実社会に適用する必要はない、という立場でもあります。この立場は、再建主義を排斥したスコットランド長老教会と同じであり、また、ウェストミンスター信仰告白とも同じものです。

ですので、わたしの立場からすれば、女性の権利と権威について、聖書に基づいて議論する必要は、まったくないのです。

しかし、再建主義は、聖書の中の司法律法を、そのまま実社会に適用しなければならないと主張しています。そのために、ウェストミンスター信仰告白を「修正せよ」とまで、ゲイリー・ノース氏は主張しているわけです。

そこで、聖書の中の司法律法を、本当に実社会に適用しなければならないので

あれば、再建主義者が好む「同性愛者の死刑、子どもへの体罰、堕胎の禁止、姦通者の死刑、固定資産税の全廃、政府による社会福祉と社会保障の廃止」などのほかにも、当然のことながら、次の問題－

- ・女性の参政権と男女協同参画社会
- ・奴隷制度
- ・利子付債務

についても、聖書に基づいて議論しなければならないはずです。そうでないと、再建主義者が言うように、神と人の間に「真空の中間領域」が生まれてしまい、そこでは、聖書を離れた自律的原理（再建主義が言うところのヒューマニズム）が支配することになるからです。

しかし、実際には、わたしが信じているように（あるいは、ウェストミンスター信仰告白がそうであるように）、新経綸においては、司法律法をそのまま実社会に適用する必要性は、ないのです。（なぜないのかは、後で説明します）

必要性のないものを無理やり適用しようとする、論理的な不整合がいろいろと出てきてしまいます。その不整合の代表的例が、女性の権利と、奴隷制の問題です。

今回の議論では、再建主義が前提としている「前提主義」の土俵に本当に立つならば、再建主義者のユートピアにおいては、女性の権利が喪失し、奴隷制が合法化し、そればかりでなく、利子付債務が一律に禁止されて、現代経済の根幹である国際金融システムが崩壊することになる、ということをはっきりと示したかったのです。

しかし、「利子付債務」の議論に話が進む前に、アクセス禁止にされてしまいました。

>（２）「クリスチャンは律法に支配されない」のであれば、律法において禁止され
>れていることーレイプ、殺人、誘拐、堕胎、異端、冒涇、魔法、魔術、占星
>術、姦淫、近親相姦、親を殴ること、非行、婚前交渉などーをクリスチャンは
>自由にやってよいのでしょうか。

新経綸においては、クリスチャンは律法に支配されません。「律法に支配されない」「律法は廃棄された」「律法に対して死んだ」と新約聖書は明確に述べています。

しかし、クリスチャンは、イエスキリストによって支配されます。これは、クリスチャンに内住する聖霊の働きを通して、ひとりひとりのクリスチャンがキリストに結合され、一体化し（パウロのエンクリストーの神学）、
「キリストがわたしの内に生きてくださる」のです。

こうして、キリストに支配されているクリスチャンは、富井様が列挙されたような行為、すなわち「レイプ、殺人、誘拐、堕胎、異端、冒涇、魔法、魔術、占星術、姦淫、近親相姦、親を殴ること、非行、婚前交渉など」をしないのです。なぜなら、キリストがわたしを生きてくださるからです。

しかし、キリストによる支配は、ひとりひとりのクリスチャンが、自分の自由意志によって、自分のからだを「生きた聖なるいけにえ」としてキリストにささげる限りにおいて、キリストが支配してくださるのです。これをパウロは「御霊によって歩む」「霊にまかす」「上からキリストを着る」と表現しています。

信仰によって「自分はキリストと共に十字架につけられて死んだ。今復活のキリストがわたしを生きていてくださる」と信じ続けることを通して、

キリストが御霊の実を結ばせてくださるのです。これは「信仰の法則によって進む」「信仰から信仰へと進む」と表現されています。

反対に、ひとりひとりのクリスチャンは、自らの意志によって、聖霊に反抗し、「肉によって歩む」「肉にまぐ」「キリストを捨てる」「信じることをやめる」ことも可能です。

その結果、肉の働きが顕現して来て、場合によっては、富井様がリストアップしたような「レイプ、殺人、誘拐、堕胎、異端、冒涇、魔法、魔術、占星術、姦淫、近親相姦、親を殴ること、非行、婚前交渉など」が、行われることがあります。

これは、律法に照らせば、「律法違反」ということになります。しかし、新経綸においては、「キリストにしっかり結びつかず、御霊に従って歩んでおらず、自分のからだを聖なるいけにえとしてささげていない」結果として現れて来た「肉の働き」ということになります。

肉の働きが現れているということは、キリストに結びついていないということの目に見える事実であるわけですから、信仰共同体は、当事者に対して訓戒を与えて、悔い改める機会を提供します。しかし、訓戒を無視し、肉の働きを現し続けるならば、もはやそれは「キリストから決定的に離れた」と認定されて、「キリストのからだから断たれ、サタンに引き渡される」ことになります。

これは、教会の戒規的には「破門」「除籍」であり、サタンに引き渡すとは、神から司法権をゆだねられて国家社会を支配している天使的勢力に対して引き渡すことです。日本であれば、日本の御使いの司法権、アメリカであれば、アメリカの御使いの司法権に引き渡し、それぞれの司法制度のもとで、要求される刑罰を受けることになります。

上記の「信仰共同体と国の司法」の関係は、中世の教会法と世俗法の関係によく現されています。

27995 / inTopicNo.12) Re[3]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/13(Tue) 13:08:20)

> (3) 救世軍軍律で「聖書の精神と教えに明かに反する信念、主義、または実
> 践」を禁止していますが、この聖書の精神と教えの中に律法は含まれないのでし
> ょうか？その根拠は？

聖書の精神と教えとは、世界信条（使徒信条、ニケア信条、アナタシウス信条）と、その他のそれに続く歴史的な信仰告白によって明らかにされています。ですので、三位一体やキリストの神人二性一人格、父なる神と子なる神の同質などを否定するような「信念、主義、実践」を禁止しているということになります。

司法律法の実社会への適用については、救世軍は、ルターやカルヴァン、ウェストミンスター信仰告白と同様に、「その必要はない」としています。

> (4) 「人間は自律的存在である」という命題と、「イエスは主である」という
> 命題と、どのように調和できるのでしょうか。それとも、救世軍は、「イエスは
> 主である」と信じなくても、将校にしてくれるのでしょうか。

イエスは主であるから、政治・経済・司法の分野においても「自律的領域が存在してはならない」というのが、再建主義の主張です。

しかし、このような考え方は、実際に運用しようとしてみると、論理的に破綻してしまうのです。そのよい例が、奴隷制度・女性解放・利子付債務などの個別問題です。

では、なぜ再建主義が論理的に破綻してしまうのかというと、それが「神・人」の二階構造という、近代以降の世界観的パラダイムに立って物事を考えているからです。

つまり、前提主義が正しいとしても、聖書を近代以降の世界観的パラダイムという色眼鏡を通して解釈しているために、論理が破綻する結果になってしまうのです。

二階構造の世界観が近代のパラダイムであるという指摘は、世界宣教学者のピーター・ワグナーが指摘したことで、よく知られています。

新約聖書神学のハインリッヒ・シュリーアやオスカー・クルマンが明らかにしているように、新約聖書の世界観的パラダイムとは「神・天使的勢力・人」という三階構造になっているのです。

そして、パウロ神学においては、天使的勢力のカテゴリーの中に、次のものが入れられています。

- ・ 神から国家権力を委ねられて、国を統治する諸霊（位・主権・支配・権威）
- ・ 律法の仲介者、監視者、養育係、後見人として働く諸霊
- ・ 反逆天使またはヘレニズムの異教の諸霊

これらの天使的勢力は、「旧経綸」において神に仕える霊的存在です。（ヨブ記では、サタンは、信者を神に告発する役割を帯びて、働いています。サムエル記上では、サウルを悩ます、神から出る悪霊が、出てきます）

キリストの出来事によって、これら天使的勢力は打ち破られ、さらしものにされ、キリストが「あらゆるものにまさる名」を得られました。ですから、これらの天使的勢力は、キリストに対して従属させられています。

しかし、天使的勢力は、消滅させられてしまったわけではなく、キリスト初臨と再臨のあいだの「中間時」において残存し、その活動を今なお続けているのです。（打ち破られているが、残存し、活動し続けているという中間時の中間領域を、ピーター・ワグナーは、Dデイ以降ベルリン陥落までのドイツ軍に例えています。パウロは、中間領域を支配する御使いを「空中の権を持つ君」と呼んでいます）

そうしますと、現在の世界は、次の二つが並存する図式になります。

- ・ 新経綸である「キリストのからだ」（信仰共同体）
- ・ 旧経綸である「天使的勢力」（国家権力、律法主義、反逆天使）

パウロは、「信仰による救い」の福音を離れて、律法主義に戻ろうとするガラテヤの信徒に対して、「なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか」（4:9）と呼びかけています。

上記の図式が変化するのは、キリスト再臨のときです。このときに、旧経綸に仕える天使的勢力は一掃され、「キリストのからだ」が国家権力の領域までもを統治することになります。その統治については、主権・位・支配・権威の天使に代わり、十二使徒と諸聖徒が行うことになります。

つまり、「中間時」である現在においては、国家権力は天使的勢力が「神から委ねられた権力を行使している」のであり、キリストのからだの構成メンバーである信者は、その「国家権力に服従するように」と

ローマ13章で命じられていますので、現在の経緯においては「司法律法を
実社会に適用しなくても、真空の中間領域が存在することにはならないし、
また、神から独立した自律的原理が機能していることにもならない」のです。

新約聖書神学が明らかにしているように、国家権力（政治・経済・司法・
税制）の領域が天使的勢力によって統治されている、というのが、
新約聖書の世界観的パラダイムですが、これを思考の出発点とするならば、
再建主義の言う「クリスチャンが司法律法を適用して、真空の中間領域を
解消しなければならない必要性」は、現時点において生じないのです。

では、その必要性がいつ生じるかといえば、それは、天使的勢力が一掃され
るとき、つまり「キリスト再臨」の時か、それ以降ということになります。

そこで、再建主義が論理的に破綻しないために取り得る可能な選択肢が
もしあるとすれば、ブルトマンのように聖書の「非神話化」を行うか、
あるいは、フル・プレテリズムのように、「紀元一世紀にすでに身体の復活と
キリストの再臨は起こった」とするしかないと思われれます。

非神話化するなら、新約聖書の「天使的勢力」は、古代人の作り話であり、
迷信であるということで処理することが可能になります。
しかし、ピーター・ワグナーが言うように、「近代的世界観を聖書に読み
込むことになる」という非難は、免れることが出来なくなります。

そうなりますと、フル・プレテリズムを採用することが、現時点において
司法律法を実社会に適用しなければならないと主張する再建主義を可能にする、
唯一の道であるように思われれます。

27996 / inTopicNo.13) Re[4]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/13(Tue) 13:22:15)

ちなみに、新約聖書のパラダイムにおける国家権力については、
フランシスコ会聖書研究所訳注の新約聖書の脚注において、
次のように解説されています。

エフェソ1:12の「支配の霊、権威の霊、力の霊、主権の霊」について

本節でその名が挙げられている天において権力を持つ四つの霊とは、
天の最下層に住み、政府、支配者、公共機関などの地上の権力を
制御し、あるいは動かしている超人間的な存在と考えられていた。

28017 / inTopicNo.14) Re[4]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/13(Tue) 20:18:01)

No27995に返信(山谷さんの記事)

> では、その必要性がいつ生じるかといえば、それは、天使的勢力が一掃され
> るとき、つまり「キリスト再臨」の時か、それ以降ということになります。
>
> そこで、再建主義が論理的に破綻しないために取り得る可能な選択肢が
> もしあるとすれば、ブルトマンのように聖書の「非神話化」を行うか、
> あるいは、フル・プレテリズムのように、「紀元一世紀にすでに身体の復活と
> キリストの再臨は起こった」とするしかないと思われれます。

「身体の復活がある」と聖書には書かれていません。
詳しくは下記をお読み下さい。

http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/The_Resurrection_From_The_Dead.html

- >
- > 非神話化するなら、新約聖書の「天使的勢力」は、古代人の作り話であり、
- > 迷信であるということで処理することが可能になります。
- > しかし、ピーター・ワグナーが言うように、「近代的世界観を聖書に読み
- > 込むことになる」という非難は、免れることが出来なくなります。
- >
- > そうなりますと、フル・プレテリズムを採用することが、現時点において
- > 司法律法を実社会に適用しなければならないと主張する再建主義を可能にする、
- > 唯一の道であるように思われます。

28018 / inTopicNo.15) Re[5]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(5回)-(2004/01/13(Tue) 20:48:23)

- > 「身体の復活がある」と聖書には書かれていません。
- > 詳しくは下記をお読み下さい。
- > http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/The_Resurrection_From_The_Dead.html

再建主義陣営の中では、パーシャル・プレテリズムか、フル・プレテリズムかをめぐって、議論が進行中ですが、論理的には、フル・プレテリズムに向かって収束して行くのではないかと予想します。

その場合、次のようなことが問題になってきます。

- ・ 紀元70年の神殿崩壊の際に、キリストは再臨した。
- ・ 紀元70年の神殿崩壊の際に、キリスト者は復活した。
- ・ 復活とは、身体の復活ではなく、永遠の霊的生命を得ることである。
- ・ 現在は、千年王国の最中か、または、千年王国が終焉した後に位置する。
- ・ あるいは、現在はすでに「新天新地」に位置する。

紀元1世紀に、すでにキリストは再臨しており、キリスト者の復活もすでに起きたという主張は、2000年のキリスト教の歴史の中で、おそらくは、いまだかつてだれも唱えたことも、信じられたこともない主張だと思います。

上記のような主張を押し通そうとした場合、世界信条（使徒信条、ニケア・コンスタンティノポリス信条、アタナシオス信条）や、歴史的信仰告白（ルターの大教理問答書、ハイデルベルク信仰告白、ウェストミンスター信仰告白）にも、一部変更や修正を加えなければならなくなるでしょう。

本気でそうすべきだとお考えなのでしょうか？

あるいは、絶対的権威である聖書の上に依拠すればよいのであって、世界信条や歴史的信仰告白、あるいは、信仰共同体によるカバリング（たとえば、スコットランド長老教会大会声明など）には、拘束される必要はない、ということなののでしょうか？

28035 / inTopicNo.16) Re[6]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/14(Wed) 02:59:37)

<http://www.geocities.jp/inri7000/>

横レスで失礼致します。

- > （ルターの大教理問答書、ハイデルベルク信仰告白、ウェストミンスター
- > 信仰告白）にも、一部変更や修正を加えなければならなくなるでしょう。
- > 本気でそうすべきだとお考えなのでしょうか？

山谷さんが、聖書と同様に権威有る信仰告白として挙げておられ、変更や修正を加てはな

らないとしている『ルターの大教理問答書』、『ハイデルベルク信仰告白』、『ウェストミンスター信仰告白』ですが、その何れもが、「神によって制定され、主キリストによって命じられた礼典は、洗礼と聖餐であり、罪の赦しと永遠の命の約束を保証するしるしである」としています。

山谷さんが、従軍しておられる救世軍においては、洗礼と聖餐が廃棄されていたと思いますが、これは如何なる聖句を根拠に廃棄されたのでしょうか？

マタイの福音書28章19-20節には「バプテスマを受けなさい。わたしが命じたすべての命令を守るよう教えなさい。見よ。世の終わりまで、あなた方と共にいます」とキリストが命じておられますが、バプテスマを廃棄したということは、既に世の終わりが来たということでしょうか？

コリント前書11章26節で「このパンを食べ、この杯を飲み度に、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」とパウロは述べていますが、聖餐を廃棄したということは、既に主が来られたということでしょうか？

あるいは、絶対的権威である聖書のみによればよいのであって、世界信条や歴史的信仰告白、あるいは、信仰共同体によるカバリング（たとえば、スコットランド長老教会大会声明など）には、拘束される必要はない、ということなのでしょうか？

聖書が絶対的権威であるとするならば、論理的必然的に救世軍の制度は、キリストが既に再臨されたことを表し、既に世の終わりが来たことを表していると思われそうですが、如何でしょうか？

> 紀元1世紀に、すでにキリストは再臨しており、キリスト者の復活もすでに
> 起きたという主張は、2000年のキリスト教の歴史の中で、おそらくは、
> いまだかつてだれも唱えたことも、信じられたこともない主張だと思います。

とのことですが、これは既に救世軍によって信じられ主張されているということで宜しいのでしょうか？

平信徒ゆえ特別な教育を受けた訳ではございませんので、思い違いがございましたら平にお許しを。

以上、素朴な疑問でございます。

28039 / inTopicNo.17) ふーん

□投稿者/ 毛物ちゃん 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/14(Wed) 08:31:55)

ふーん、勉強になるね。
だんだんこのサイトもレベルアップ？！

28042 / inTopicNo.18) Re[6]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/14(Wed) 08:50:22)

No28018に返信(山谷さんの記事)

>> 紀元1世紀に、すでにキリストは再臨しており、キリスト者の復活もすでに
> 起きたという主張は、2000年のキリスト教の歴史の中で、おそらくは、
> いまだかつてだれも唱えたことも、信じられたこともない主張だと思います。

マタイ、16、28、は主イエスご自身の言葉です。
主はウソをついたと考えるべきなのでしょうか？

>

> 上記のような主張を押し通そうとした場合、世界信条（使徒信条、ニケア・
> コンスタンティノポリス信条、アタナシオス信条）や、歴史的信仰告白
> （ルターの大教理問答書、ハイデルベルク信仰告白、ウェストミンスター

> 信仰告白) にも、一部変更や修正を加えなければならなくなるでしょう。

>

> 本気でそうすべきだとお考えなのでしょうか？

聖書をより正しく解釈した方が良いのではないのでしょうか？

>

> あるいは、絶対的権威である聖書のみによればよいのであって、

> 世界信条や歴史的信仰告白、あるいは、信仰共同体によるカバリング

> (たとえば、スコットランド長老教会大会声明など) には、拘束される

> 必要はない、ということなのではないでしょうか？

その必要はない、と私は思います。

http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/interpret_the_Bible.html

28046 / inTopicNo.19) Re[7]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(6回)-(2004/01/14(Wed) 13:13:25)

> 山谷さんが、聖書と同様に権威有る信仰告白として挙げておられ、変更や修正を
> 加てはならないとしている『ルターの大教理問答書』、『ハイデルベルク信仰告
> 白』、『ウェストミンスター信仰告白』ですが、その何れもが、「神によって制定
> され、主キリストによって命じられた礼典は、洗礼と聖餐であり、罪の赦しと永遠
> の命の約束を保証するしるしである」としています。

聖書と同等の権威は存在しません。聖書のみです。

しかし、その聖書をどう読み、どう信じるか、ということについては、歴史的な教会の中で、標準的な信仰告白(スタンダード)が形成されてきました。

それらには、「世界信条」と呼ばれる、世界のあらゆる教派に共通する最も基本的なものと、それぞれの教派の成立過程でまとめられた「歴史的な信仰告白」とがあります。

歴史的な信仰告白については、それぞれの教派の独自の理解が打ち出されていますので、それぞれの信仰告白の間に、かなりいろいろな違いがあります。その違いとは「教皇の頭主権を認めるか否か、幼児洗礼を認めるか否か、キリスト教徒は行政官に就任できるか否か、予定説を認めるか否か」などです。

それぞれの教派は、自分たちの歴史的経緯に関わるそれぞれの歴史的信仰告白に従っています。救世軍の場合は、1883年のメソジスト新派の教理をベースにして、「救世軍の教理」という11か条の信仰告白を制定しています。

> 山谷さんが従軍しておられる救世軍においては、洗礼と聖餐が廃棄されてい
> たと思いますが、これは如何なる聖句を根拠に廃棄されたのでしょうか？

廃棄したのではなく、入隊式という洗礼に相当する sacrament を行っていますし、また、毎日の食事のたびにイエスの犠牲を想起するという、聖餐に相当することを行っています。また、他者に奉仕するという洗足に相当することを行っています。Sacrament というラテン語は、元来は「軍隊における入隊式」を意味していました。

> マタイの福音書28章19-20節には「バプテスマを授けなさい。わたしが命じたすべての命令を守るよう教えなさい。見よ。世の終わりまで、あなた方と共にいます」とキリストが命じておられますが、バプテスマを廃棄したということは、既に世の終わりが来たということでしょうか？

洗礼を廃棄したのではなく、入隊式という洗礼に相当するものを行っています。
また「聖霊と火のバプテスマ」という転機的聖化を重視しています。

つまり、毎週日曜日の午前中にパンとぶどう酒を用いた儀式をやっていないにもかかわらず、救世軍には「聖礼典をしていない」という意識はないのです。なぜなら、毎日の食事を聖餐として自覚するわけですから、論理的には、「救世軍人が聖餐をまったくしないのであれば、救世軍人は飢え死にして、地上から姿を消す」ことになるのです。

このようなわけで、「紀元70年にキリストが再臨し、信者が復活したとは救世軍は考えない」としても、別に救世軍人の思考と実践に論理的矛盾が生じることはありません。

>コリント前書11章26節で「このパンを食べ、この杯を飲む度に、主が来られる
>まで、主の死を告げ知らせるのです」とパウロは述べていますが、聖餐を廃棄し
>たということは、既に主が来られたということでしょうか？

毎日の食事において、食べまた飲むたびに、主の犠牲を想起することによって、すべての食事が聖餐であると考えます。ですので、聖餐を廃棄したということではありません。

毎日の食事の文脈ではなく、儀式としてのパンとぶどうジュースを用いた聖餐をイースターなど特別の機会に行うことが、救世軍でもまれにあります。
しかし、あくまで毎日の食事が聖餐だという考えですので、毎日の食事の文脈から切り離された儀式としての聖餐を「必ずしなければならない」とは考えません。

言い換えれば、毎日の食事は必ずしなければ生きられないものですから、毎日の食事を聖餐として自覚している救世軍人は、その意味では「必ず聖餐をしなければならない」という生活を行っていることになります。このような生き方を「サクラメンタルな生活」（聖礼典的生活）と呼んでいます。

しかしもし、「このパンを食べ、この杯を飲むたびに」といわれている主の言葉が、毎日の食事を指すのではなく「特殊な食事を指す」と解釈するのであれば、当然のことながら、それは、過越の食事における非発酵のパンと、四回交わされる過越のカップが終わった後の、五回目のカップを特定している、ということになります。しかも、その物質は、乾しブドウを水につけてもどし、すりつぶしたものでなければならないことになります。さらに、儀式が行われる時間帯は、夕刻でなければならないことになります。

しかし、歴史的教会は、それを「特殊な食事を指す」とは考えなかったもので、一年に一回の過越の夜だけでなく、毎週の朝に行うようになり、物質についても、「ウェハース、発酵させたパン、ぶどう酒、ぶどうジュース、水で割ったぶどう酒」など、さまざまな物質を使用するようになり、さらに、五回目のカップではなく、一回のカップだけで済ませるようになりました。

このように、歴史的教会がその実践において、主イエスの言葉を「特殊な食事を指しているのではない」と解釈して来たのであれば、時間帯、回数、食事の形式、食事の材料については、過去も、また現在も、そして今後も、それぞれの信仰共同体の生活に応じて、柔軟に解釈して実行することができるはずです。

そして、救世軍は、その中でも「毎日の食事のたびにイエスの犠牲を想起する」という、柔軟な解釈のひとつを採用しているに過ぎません。

しかし、回数や、場所や、時間帯や、食事の材質、材料について、絶対的な

基準が存在すると仮定するのであれば、おそらくは、救世軍だけでなく、全世界の教会の半分以上が、「有効な聖餐を行っていない」ということに、論理的にはなるはずです。なぜなら、聖餐の物質と方法について絶対的な指示が存在するのであれば、それは必ず「発酵パンか非発酵パンか」「ぶどう酒かぶどうジュースか」という二者択一になるはずだからです。

>聖書が絶対的権威であるとするならば、論理的必然的に救世軍の制度は、キリストが既に再臨されたことを表し、既に世の終わりが来たことを表していると思われませんが、如何でしょうか？

救世軍の教理は、世界信条や歴史的信仰告白と同じく「身体の復活」を告白します。そして、身体の復活は、現時点では、まだ起きていないと考えます。これは、使徒信条の「われは身体のよみがえりを信ず」と、ニケア・コンスタンティノポリス信条の「われは死者の復活を待ち望む」と同一のものです。

もし、身体の復活というものはないのであり、また、キリストの再臨がすでに起こったと考えるのであれば、救世軍教理を修正しなければならなくなるばかりか、使徒信条もニケア・コンスタンティノポリス信条も、書きかえなければならなくなるでしょう。

もし再建論者が司法律法の適用を実社会に行なおうとするなら、必然的にフル・プレテリストになるしかない、わたしは考えます。

そして、フル・プレテリストになるのであれば、それは、世界信条とも歴史的信仰告白とも不整合が生ずることになるのですから、フル・プレテリストの選択肢は、カンバーランド長老教会がウェストミンスター信仰告白に「解釈学的修正条項」を加えたように、フル・プレテリストによる修正版ウェストミンスター信仰告白を制定することであろうと思われます。

実際、ゲイリー・ノース氏は、この路線を提唱しておられるではありませんか？

これですと、「特定の考え方をする人たちの間でのコンセンサス」をまとめたスタンダードとなりますので、他の歴史的信仰告白と相違していても、問題はありません。

しかし、世界信条にまで修正条項を加えてしまいますと、それはもはや「世界信条」ではなくなってしまいます。なぜなら、世界のあらゆる教会が共有する信仰告白を示すからこそ、「世界信条」と呼ばれるからです。

ですが、聖書にのみ絶対的権威を認めるという前提に立つならば、当然のことながら、「世界信条を放棄する」という孤高の道も、確かに存在するでしょう。

もっとも、再建主義陣営内部においては、フル・プレテリストにはまず、パーシャル・プレテリストを説得するという、途方もない挑戦が立ちはだかっています。パーシャル・プレテリストからすれば、「フル・プレテリズムとは、セオノミーという良い麦と一緒に、サタンがまいた毒麦である」わけですし、「フル・プレテリズムは、歴史的・伝統的な教会の教義の体系を根底から覆す、悪魔の教え」でもあるからです。

わたしとしては、再建主義者がフル・プレテリストとして、世界信条を放棄する道を選んだとしても、「悪魔だ」などとは思いません。しかし、パーシャル・プレテリストである再建主義者は、わたしなどよりもっと強い言葉を使って反論するはずだと思います。

フル・プレテリズムへの最も頑強な反対論者は、ウェスレアン・アルミニアンの

わたしなどではなく、再建主義陣営の内部にこそ、存在するのではありませんか？

28051 / inTopicNo.20) Re[7]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(7回)-(2004/01/14(Wed) 14:59:19)

> マタイ、16:28、は主イエスご自身の言葉です。
> 主はウソをついたと考えるべきなののでしょうか？

ファンダメンタリストが尊重する「聖書テキストの、最も平易な字義通りの意味における解釈法」は、幼稚な解釈として、再建主義者がつねづね否定するものです。

再建主義者が通常行う解釈学的操作を駆使するなら、マタイ16:28は実にさまざまな意味に取ることが可能になるでしょう。

しかし、絶対に、字義通りの平易な意味において聖書を解釈しなければならないのだとしたら、「創造の六日間」は、文字通り一日が24時間の日が、六日あって、世界が創造されたことになります。これが、六日間創造説です。

すると、同じ解釈原則を適用して、地上におけるキリストの一千年間の支配は、文字通りの一年が、1000年あることになります。文字通りの千年王国です。

そうしますと、紀元70年にキリストが再臨し、信者が復活したのですから、その直後に千年王国が開始され、西暦1070年に千年王国は終了して、サタンが解き放たれ、終末の戦いが戦われて、最後の審判が行われ、そうして、古い天と古い地は消滅し、西暦2004年現在は「新天新地」になっている、ということになります。実際に、そのように考える再建主義者もおられるようです。

わたしたちが現在、新天新地を生きており、また、新しいエルサレムの大通りの風を吸って生きていると考えるのは、なんとも心地よい気持ちにさせられます。

しかし、「天地が過ぎ去るまでは、律法の一点一画も廃れることはない」という主イエスの言葉は、古い天地が過ぎ去って、新天新地が到来した場合に、どう受け取るべきなののでしょうか？

28053 / inTopicNo.21) Re[2]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 貧井 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/14(Wed) 15:58:51)

また熱くなっちゃってるね。
山谷さんの言っていることには頷けるけど。また独り相撲じゃん。

論理矛盾というか、富井さんが「女性解放運動」といわゆる「ウーマンリブ」を分けているんだから、別の概念を指しているんだ、と素直にとれないのかなあ？

28063 / inTopicNo.22) Re[8]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(5回)-(2004/01/14(Wed) 19:20:58)

No28051に返信(山谷さんの記事)

>> マタイ、16:28、は主イエスご自身の言葉です。
>> 主はウソをついたと考えるべきなののでしょうか？

>

> ファンダメンタリストが尊重する「聖書テキストの、最も平易な字義通りの

> 意味における解釈法」は、幼稚な解釈として、再建主義者がつねづね否定する
 > ものです。
 >
 > 再建主義者が通常行う解釈学的操作を駆使するなら、マタイ16:28は実に
 > さまざまな意味に取ることが可能になるでしょう。
 >
 > しかし、絶対に、字義通りの平易な意味において聖書を解釈しなければならない
 > のだとしたら、「創造の六日間」は、文字通り一日が24時間の日が、六日あって、
 > 世界が創造されたことになります。これが、六日間創造説です。
 >
 > すると、同じ解釈原則を適用して、地上におけるキリストの一千年間の支配は、
 > 文字通りの一年が、1000年あることになります。文字通りの千年王国です。

キリストが地上に千年王国をつくと聖書のどこに書いてあるんですか？

>
 >

28080 / inTopicNo.23) Re[9]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 細木 はしため(768回)-(2004/01/15(Thu) 03:11:05)

No28063に返信(プレテリストさんの記事)

> No28051に返信(山谷さんの記事)

>>> マタイ、16:28、は主イエスご自身の言葉です。

>>> 主はウソをついたと考えるべきなのでしょうか？

>>

>> ファンダメンタリストが尊重する「聖書テキストの、最も平易な字義通りの
 >> 意味における解釈法」は、幼稚な解釈として、再建主義者がつねづね否定する
 >> ものです。

>>

>> 再建主義者が通常行う解釈学的操作を駆使するなら、マタイ16:28は実に
 >> さまざまな意味に取ることが可能になるでしょう。

>>

>> しかし、絶対に、字義通りの平易な意味において聖書を解釈しなければならない
 >> のだとしたら、「創造の六日間」は、文字通り一日が24時間の日が、六日あって、
 >> 世界が創造されたことになります。これが、六日間創造説です。

>>

>> すると、同じ解釈原則を適用して、地上におけるキリストの一千年間の支配は、
 >> 文字通りの一年が、1000年あることになります。文字通りの千年王国です。

>

> キリストが地上に千年王国をつくと聖書のどこに書いてあるんですか？

そういう立場の人がどの聖書の箇所ですら判断するかぐらいは知った上で参加されたほうが無難かと思いますが・・・。

28164 / inTopicNo.24) Re[9]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(8回)-(2004/01/16(Fri) 17:03:03)

> キリストが地上に千年王国をつくと聖書のどこに書いてあるんですか？

ヨハネの黙示録20:4に、こうあります。

彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。

ヨハネの黙示録20:6にも、こうあります。

第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。
この者たちに対して、第二の死は何の力もない。
彼らは神とキリストの祭司となって、千年の間キリストと共に統治する。

千年を文字通りの千年と受け取らないのであれば、聖書のほかの箇所における日・年・月も、象徴的に解釈するものでなければ、単に「恣意的に変更可能な解釈原則」になってしまって、聖書解釈に一貫性がなくなってしまいます。

つまり、六日間創造説を採るのであれば、「ある箇所は文字通りの日付として受け取り、他の箇所では象徴的な日付とするのは、いかなる解釈学的原則によるのであるか」を明確にさせなければなりません。

28167 / inTopicNo.25) ウーマンリブ

投稿者/ プリティーウーマン 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/16(Fri) 17:13:59)

つーか、うちの教会女の人が多いんだからしょうがないじゃん

28176 / inTopicNo.26) Re[10]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(7回)-(2004/01/16(Fri) 18:18:14)

No28164に返信(山谷さんの記事)

山谷さん、レス有難うございました。

>> キリストが地上に千年王国をつくと聖書のどこに書いてあるんですか？

>

>

> ヨハネの黙示録20:4に、こうあります。

>

> 彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。

私も黙示録の19～20章を何度も繰り返し読んで見ましたが
「主が地上に来た」とは書いてありませんでした。

>

> ヨハネの黙示録20:6にも、こうあります。

>

> 第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。

> この者たちに対して、第二の死は何の力もない。

> 彼らは神とキリストの祭司となって、千年の間キリストと共に統治する。

この人々が「肉体で地上に生き返った」とは書かれていませんでした。

>

> 千年を文字通りの千年と受け取らないのであれば、聖書のほかの箇所における

> 日・年・月も、象徴的に解釈するものでなければ、単に「恣意的に変更可能な

> 解釈原則」になってしまって、聖書解釈に一貫性がなくなってしまいます。

ペテロは「主にあっては一日は千年のようであり、千年は一日のよう…」と書いています。

>

> つまり、六日間創造説を採るのであれば、「ある箇所は文字通りの日付として

> 受け取り、他の箇所では象徴的な日付とするのは、いかなる解釈学的原則に

> よるのであるか」を明確にさせなければなりません。

私は再建主義者ではありません。フルプレテリストです。

六日間創造説を信じていますが、神の六日間と人の六日間は同じ時間の長さではないと思っています。

山谷さん、ご免なさい、もうレスは結構です。私は議論するのは好きではないのです。お互いに自分の信じる道を歩んで行きましょう。それではこれにて失礼します。m(____)m

>
>

28209 / inTopicNo.27) Re[11]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(10回)-(2004/01/16(Fri) 23:10:30)

> 私も黙示録の19～20章を何度も繰り返し読んで見ましたが
> 「主が地上に来た」とは書いてありませんでした。

確かに、この箇所には、主が地上に来たとは言われていませんが、復活した信者がキリストと共に千年の間統治する、ということは明確に記されています。

統治する、という場合、当然のことながら、創世記に記されている「地を従わせよ」（地を統治せよ）という主の言葉を念頭に置いて解釈すべきだと思われます。ドミニオン（地の統治権）は、アダムが墮罪した結果、天使的勢力のもとに移されてしまいました。これが、地上の国家の起源であることを、アウグスティヌスは『神の国』において論じています。

天使的勢力のもとに移された「地の統治権」が、千年王国において、キリストと諸聖徒の手に取り戻されることによって、創世記の「人間が地を統治するように」と言われている神の意志が、完全に成就することになります。なぜなら、キリストは、まったく神にして、まったく人でありますから、そのキリストが、キリストに贖われた人々と共に統治するときに、神の御言葉通りに「人間が地を統治することになるからです。

ヨハネの黙示録は、終末についての書ですが、旧約聖書の中で、終末を描いている預言書、ゼカリヤ書には、主の再臨の様子がこう記されています。

その日、主は御足をもって
エルサレムの東にある
オリーブの山の上に立たれる。
オリーブ山は東と西に半分に裂け
非常に大きな谷ができる。
山の半分は北に退き、半分は南に退く。

このゼカリヤ書12:4の預言は、紀元70年のエルサレム陥落の際には成就しませんでした。現在に至るまで、オリーブ山は、二つに裂けてはおらず、主イエス初臨当時の姿をとどめています。

ここから、「イエスの再臨は、まだ起きていない」と考えることが出来ます。

主イエスは、オリーブ山の山頂から天に昇って行かれました。そのときの様子が、使徒言行録の冒頭に記録されています。

こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに

天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。
「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」
使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。

オリーブ山の山頂から天に上げられたイエスは、上げられたのと同じ有様で、再び降りて来られるというのです。そうして、イエスの御足がオリーブ山の山頂に触れた瞬間に、ゼカリヤ書の預言の言葉、

その日、主は御足をもって
エルサレムの東にある
オリーブの山の上に立たれる。

・・・という言葉が成就するものと思われます。そうして、オリーブ山は二つに裂けて、谷が出来ることになります。

フルブレテリストは、イレナエウスやエウセビオスの残した資料の信頼性をゆるがすだけでは、「紀元70年イエス再臨説」を立証することは出来ないのです。その前に、まず、オリーブ山をゆるがさなければなりません。ブルドーザーか何かで、山を崩し、谷間を作りでもない限りは、自説を完璧に論証することは出来ないのです。

あるいは、「聖書は字義通りに解釈すべきではない。聖書に書かれている多くの言葉は、シンボリックな言語であり、象徴として解釈すべきである」ということになれば、逃げ道は、あります。

しかし、「象徴として解釈する」のであれば、首尾一貫してその解釈原則を貫かなければなりませんし、また、「自分が読み込ませたい意味を恣意的に読み込ませているに過ぎない」という批判を受けるリスクが、多くなることも、覚悟しなければなりません。

> この人々が「肉体で地上に生き返った」とは書かれていませんでした。

新共同訳では、「生き返った」とだけ書かれています。

「生き返った」という表現は、マタイによる福音書27:53にも出て来ます。こう記されています。

イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。
そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、
地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた
多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の
後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。

ここに記録された謎めいた事件は、字義通りに解釈するなら、こうです。
イエスが十字架で息を引き取られた瞬間、エルサレム城外の墓地に納められていた多くの聖徒たち（旧約時代の信者たち）が身体をもって生き返り、墓穴の中で息をひそめていたが、三日目にイエスが復活すると、これらの生き返った聖徒たちも墓穴から続々と出て来て、エルサレム城内に入り、多くの人々に現れて、驚かせた、というのです。

これは、十字架によってキリストが贖罪を達成し、死に打ち勝たれた結果、死んだ人間が「身体をもって」生き返ることができるようになった、という歴史的事実を示しています。

これを字義通り、歴史的事実として受け取るならば、当然のことながら、黙示録で「生き返った」と言われている表現も、「身体をもって生き返ることだ」と解釈するのが妥当であると思われます。

つまり、プレテリストの説く、「身体をもって復活したのはイエスだけであり、ほかの人間はすべて、霊において復活する」という主張は、マタイ27:53を明らかに見落としているのです。

> ペテロは「主にあっては一日は千年のようであり、千年は一日のよう...」と
>書いています。

この聖句は、プレテリストがディスペンセーションナリストの聖書解釈を批判するためによく持ち出される聖句です。

黙示録の末尾において、主は「すぐに来る」と言われているのに、ディスペンセーションナリストは、「主はまだ来ていない」と主張する。そのときに、ディスペンセーションナリストが自説の根拠として出してくる聖句は「千年は一日、一日は千年」という、これ一か所しかないではないか？という批判です。

その同じ聖句を引証しなければならないということは、「なぜ遅延しているのか？」という問題が、ディスペンセーションナリストだけでなく、プレテリストにとっても、逃れられない問題であることを示しています。

ディスペンセーションナリストの場合は、キリスト初臨と再臨の間の二千年近くの遅延について、説明しなければなりません。

プレテリストの場合は、紀元70年のキリスト再臨と、紀元1070年の千年王国終了後、なぜ2004年の現在に至るまでも、まだ「新天新地」が到来していないのかについて、説明しなければなりません。

前者は、約1970年の「再臨」の遅延を。後者は、約930年の「新天新地」の遅延を、説明しなければなりません。いずれの場合も、説明するためには、相当困難な神学的・聖書解釈学的努力が必要です。しかし、オリーブ山がまだ二つに裂けていないという現状は、あきらかに、前者に利するのです。

28217 / inTopicNo.28) Re[12]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ レフリー富山 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/16(Fri) 23:50:16)

おいおい、これって↑

下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。

「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気で強要する人達。」

「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他的表現を露骨にする人達。」

の規定にあてはまらないのかい？

No28209に返信(山谷さんの記事)

>> 私も黙示録の19～20章を何度も繰り返し読んで見ましたが

>> 「主が地上に来た」とは書いてありませんでした。

>

> 確かに、この箇所には、主が地上に来たとは言われていませんが、
> 復活した信者がキリストと共に千年の間統治する、ということは
> 明確に記されています。

>

> 統治する、という場合、当然のことながら、創世記に記されている
> 「地を従わせよ」（地を統治せよ）という主の言葉を念頭に置いて
> 解釈すべきだと思われます。ドミニオン（地の統治権）は、アダムが
> 墮罪した結果、天使的勢力のもとに移されてしまいました。これが、
> 地上の国家の起源であることを、アウグスティヌスは『神の国』に
> おいて論じています。

>

> 天使的勢力のもとに移された「地の統治権」が、千年王国において、
> キリストと諸聖徒の手に取り戻されることによって、創世記の
> 「人間が地を統治するように」と言われている神の意志が、完全に
> 成就することになります。なぜなら、キリストは、まったき神にして、
> まったき人でありますから、そのキリストが、キリストに贖われた
> 人々と共に統治するときに、神の御言葉通りに「人間が地を統治する」
> ことになるからです。

>

> ヨハネの黙示録は、終末についての書ですが、旧約聖書の中で、
> 終末を描いている預言書、ゼカリヤ書には、主の再臨の様子がこう
> 記されています。

>

> その日、主は御足をもって
> エルサレムの東にある
> オリーブの山の上に立たれる。
> オリーブ山は東と西に半分に裂け
> 非常に大きな谷ができる。
> 山の半分は北に退き、半分は南に退く。

>

> このゼカリヤ書12:4の預言は、紀元70年のエルサレム陥落の際には
> 成就しませんでした。現在に至るまで、オリーブ山は、二つに裂けては
> おらず、主イエス初臨当時の姿をとどめています。

>

> ここから、「イエスの再臨は、まだ起きていない」と考えることが
> 出来ます。

>

> 主イエスは、オリーブ山の山頂から天に昇って行かれました。そのときの
> 様子が、使徒言行録の冒頭に記録されています。

>

> こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに
> 天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から
> 見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、
> 彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の
> 人がそばに立って、言った。
> 「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。
> あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に
> 行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、また
> おいでになる」
> 使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに
> 戻って来た。

>

> オリーブ山の山頂から天に上げられたイエスは、上げられたのと同じ

> 有様で、再び降りて来られるというのです。そうして、イエスの御足が
> オリーブ山の山頂に触れた瞬間に、ゼカリヤ書の預言の言葉、
>
> その日、主は御足をもって
> エルサレムの東にある
> オリーブの山の上に立たれる。
>
> . . . という言葉が成就するものと思われます。そうして、オリーブ山は
> 二つに裂けて、谷が出来ることになります。
>
> フルプレテリストは、イレナエウスやエウセビオスの残した資料の信頼性を
> ゆるがすだけでは、「紀元70年イエス再臨説」を立証することは出来ないのです。
> その前に、まず、オリーブ山をゆるがさなければなりません。ブルドーザーか
> 何かで、山を崩し、谷間を作りでもしない限りは、自説を完璧に論証することは
> 出来ないのです。
>
> あるいは、「聖書は字義通りに解釈すべきではない。聖書に書かれている
> 多くの言葉は、シンボリックな言語であり、象徴として解釈すべきである」と
> いうことになれば、逃げ道は、あります。
>
> しかし、「象徴として解釈する」のであれば、首尾一貫してその解釈原則を
> 貫かなければなりませんし、また、「自分が読み込ませたい意味を恣意的に
> 読み込ませているに過ぎない」という批判を受けるリスクが、多くなることも、
> 覚悟しなければなりません。
>
>
>> この人々が「肉体で地上に生き返った」とは書かれていませんでした。
>
> 新共同訳では、「生き返った」とだけ書かれています。
>
> 「生き返った」という表現は、マタイによる福音書27:53にも出て来ます。
> こう記されています。
>
> イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。
> そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、
> 地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りにについていた
> 多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の
> 後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。
>
> ここに記録された謎めいた事件は、字義通りに解釈するなら、こうです。
> イエスが十字架で息を引き取られた瞬間、エルサレム城外の墓地に
> 納められていた多くの聖徒たち（旧約時代の信者たち）が身体をもって
> 生き返り、墓穴の中で息をひそめていたが、三日目にイエスが復活
> すると、これらの生き返った聖徒たちも墓穴から続々と出て来て、
> エルサレム城内に入り、多くの人々に現れて、驚かせた、というのです。
>
> これは、十字架によってキリストが贖罪を達成し、死に打ち勝たれた結果、
> 死んだ人間が「身体をもって」生き返ることができるようになった、という
> 歴史的事実を示しています。
>
> これを字義通り、歴史的事実として受け取るならば、当然のことながら、
> 黙示録で「生き返った」と言われている表現も、「身体をもって生き返ること
> だ」と解釈するのが妥当であると思われます。
>
> つまり、プレテリストの説く、「身体をもって復活したのはイエスだけであり、
> ほかの人間はすべて、霊において復活する」という主張は、マタイ27:53を
> 明らかに見落としているのです。

>
>
>> ペテロは「主にあっては一日は千年のようであり、千年は一日のよう...」と
>>書いています。
>
> この聖句は、プレテリストがディスペンセーションナリストの聖書解釈を批判する
> ためによく持ち出される聖句です。
>
> 黙示録の末尾において、主は「すぐに来る」と言われているのに、ディスペン
> セーションナリストは、「主はまだ来ていない」と主張する。そのときに、ディス
> ペンセーションナリストが自説の根拠として出してくる聖句は「千年は一日、
> 一日は千年」という、これ一か所しかないではないか？という批判です。
>
> その同じ聖句を引証しなければならないということは、「なぜ遅延しているのか？」
> という問題が、ディスペンセーションナリストだけでなく、プレテリストにとっても、
> 逃れられない問題であることを示しています。
>
> ディスペンセーションナリストの場合は、キリスト初臨と再臨の間の二千年近くの
> 遅延について、説明しなければなりません。
>
> プレテリストの場合は、紀元70年のキリスト再臨と、紀元1070年の千年王国終了後、
> なぜ2004年の現在に至るまでも、まだ「新天新地」が到来していないのかについて、
> 説明しなければなりません。
>
> 前者は、約1970年の「再臨」の遅延を。後者は、約930年の「新天新地」の遅延を、
> 説明しなければなりません。いずれの場合も、説明するためには、相当困難な神学
> 的・聖書解釈学的努力が必要です。しかし、オリーブ山がまだ二つに裂けていない
> という現状は、あきらかに、前者に利するのです。
>

28223 / inTopicNo.29) Re[13]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(11回)-(2004/01/17(Sat) 00:14:52)

> 「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界
> の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平
> 気で強要する人達。」
> 「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他
> 的表現を露骨にする人達。」
> の規定にあてはまらないのかい？

本当ですね。実は、自分でも書きながら、うすうすICFのスタンダードに
抵触しているのでは？という感覚を、正直言ひまして、持っておりました。

引き時だと思いましたので、これもちまして、議論を終わらせて頂きます。
だいたい言いたいことは全部「吠え尽くした」という思いもあります。

最後に、スコットランド長老教会が「再建主義」に関して行った
大会決議を紹介して、終わらせていただきます。ありがとうございました。

2001年9月スコットランド長老教会大会決議
「セオノミーと信仰告白」

http://gratias.cube-web.net/html/Scottish_Anti_Theonomy.html

28259 / inTopicNo.30) ひとつ、いやふたつだけ...

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(8回)-(2004/01/17(Sat) 10:19:53)

No28209に返信(山谷さんの記事)

>> 私も黙示録の19～20章を何度も繰り返し読んで見ましたが
>> 「主が地上に来た」とは書いてありませんでした。

> ヨハネの黙示録は、終末についての書ですが、旧約聖書の中で、
> 終末を描いている預言書、ゼカリヤ書には、主の再臨の様子がこう
> 記されています。
>
> その日、主は御足をもって
> エルサレムの東にある
> オリーブの山の上に立たれる。
> オリーブ山は東と西に半分に裂け
> 非常に大きな谷ができる。
> 山の半分は北に退き、半分は南に退く。
>
> このゼカリヤ書12:4の預言は、紀元70年のエルサレム陥落の際には
> 成就しませんでした。現在に至るまで、オリーブ山は、二つに裂けては
> おらず、主イエス初臨当時の姿をとどめています。
>
> ここから、「イエスの再臨は、まだ起きていない」と考えることが
> 出来ます。

ゼカリヤ書に関してはここを読んでみてください。
<http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/Zechariah.html>

>
> プレテリストの場合は、紀元70年のキリスト再臨と、紀元1070年の千年王国終了後、
> なぜ2004年の現在に至るまでも、まだ「新天新地」が到来していないのかについて、
> 説明しなければなりません。

黙示録の出来事は全て紀元70年に終わったと私は考えています。
そのとき以来「新天新地」は来ているのです。

>
> 前者は、約1970年の「再臨」の遅延を。後者は、約930年の「新天新地」の遅延を、
> 説明しなければなりません。いずれの場合も、説明するためには、相当困難な神学
> 的・聖書解釈学的努力が必要です。しかし、オリーブ山がまだ二つに裂けていない
> という現状は、あきらかに、前者に利するのです。
>

28280 / inTopicNo.31) Re[13]: ひとつ、いやふたつだけ...

□投稿者/ 細木 はしため(776回)-(2004/01/17(Sat) 12:30:20)

No28259に返信(プレテリストさんの記事)

> 黙示録の出来事は全て紀元70年に終わったと私は考えています。
> そのとき以来「新天新地」は来ているのです。

いつも言い切りのスタイルで、十分に説明してくださいませんか。
御自身の判断と理由をお持ちですか？

28312 / inTopicNo.32) 今度は・・・

□投稿者/ 見物人 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/17(Sat) 18:05:21)

今度だれか佐倉哲さんよんでくれないかなあ。

28315 / inTopicNo.33) やっぱり佐倉さんはやめとく

□投稿者/ 見物人 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/17(Sat) 18:25:45)

↑やっぱり取り消す、疲れそうだから。
素直に信じて心豊かになりたいもーん。

28342 / inTopicNo.34) 最後に質問、よろしいでしょうか？

□投稿者/ カルチヨファン 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/17(Sat) 23:50:03)

この度は、山谷大尉殿がご自分の掲示板において、再建主義を御批判なさり、富井先生がそれに対して反論するという経緯だったと思いましたが、その始まりにおいて、大尉殿は再建主義のことを、「アメリカでは一般的には過激なキリスト教右翼思想として認知されてる」と仰り、再建主義者のゲーリー・ノースは特に過激であるとしています。

その理由として、ゲイリー・ノースは「旧約聖書の律法に根拠した司法制度の下で「死刑」を執行させよ」と主張していることを挙げていますが、大尉殿は「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法は過激だとお考えなのでしょうか？

これは富井先生からの問いかけでもありましたが、大尉殿は未だお答えになっていなかったように記憶しています。

現代に生きるキリスト者の旧約律法に対する姿勢を考えるうえで、この問いに対する回答は重要のようと思われます。議論終了宣言が出てしまいましたが、一読者として是非ご回答の方お願いしたく、よろしく申し上げます。

28344 / inTopicNo.35) Re[14]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ カルチヨファン 兄弟姉妹(5回)-(2004/01/18(Sun) 00:03:14)

No28223に返信(山谷さんの記事)

>> 「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界>>の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平>>気で強要する人達。」

>> 「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他>>的表現を露骨にする人達。」

>>の規定にあてはまらないのかい？

>

> 本当ですね。実は、自分でも書きながら、うすうすICFのスタンダードに> 抵触しているのでは？という感覚を、正直言ひまして、持っていました。

>

> 引き時だと思いましたので、これをもちまして、議論を終わらせて頂きます。

> だいたい言いたいことは全部「吠え尽くした」という思いもあります。

>

> 最後に、スコットランド長老教会が「再建主義」に関して行った

> 大会決議を紹介して、終わらせていただきます。ありがとうございました。

>

> 2001年9月スコットランド長老教会大会決議

> 「セオノミーと信仰告白」

> http://gratias.cube-web.net/html/Scottish_Anti_Theonomy.html

再建主義に関するスコットランド長老教会大会決議をご紹介しますが、これだけでは不公平なので、これに対する富井先生の反論をリンクします。読者は双方の意見を聖書から吟味することができると思いますので。

●富井先生の反論

2001年9月スコットランド長老教会大会決議」への批判

<http://www.path.ne.jp/~millnm/scot.htm>

28422 / inTopicNo.36) Re[6]: やっぱり佐倉さんはやめとく

□投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/18(Sun) 15:55:12)

<http://www.geocities.jp/inri7000/>

No28315に返信(見物人さんの記事)

> ↑やっぱり取り消す、疲れそうだから。

> 素直に信じて心豊かになりたいもーん。

疲れそうだから、取り消されるのですか？

次の聖句に関しては、見物人さんは何も感じられませんか？

あなたがたの中には、仲間の者と争いを起こしたとき、それを聖徒たちに訴えないで、あえて、正しくない人たちに訴え出るような人がいるのでしょうか。

あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。

私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということを、知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。

それなのに、この世のことで争いが起こると、教会のうちでは無視される人たちを裁判官に選ぶのですか。

私はあなたがたをはずかしめるためにこう言っているのです。いったい、あなたがたの中には、兄弟の間の争いを仲裁することのできるような賢い者が、ひとりもないのですか。

それで、兄弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信者の前でするのですか。

28494 / inTopicNo.37) Re[15]: 最後に質問、よろしいでしょうか？

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(12回)-(2004/01/19(Mon) 12:11:36)

> 議論終了宣言が出てしまいましたが、一読者と

> して是非ご回答の方お願いしたく、よろしく申し上げます。

・・・それでは、教義と聖書に関する議論は再開しないことにして、回答させていただきます。

わたしが、自分の掲示板において行った書き込みは、だいたい次のようなものでした。そのひとつひとつについて、判断根拠を説明いたします。

1. 再建主義は、アメリカでは一般的には過激なキリスト教右翼思想として認知されている。

キリスト教サイトで、再建主義を「過激思想」と断定しているのは、次のサイト：

<http://www.apologeticsindex.org/r10.html>

さらに、過激な右翼思想のひとつに分類しているのは、次のサイト：

<http://www.qrd.org/qrd/www/rrr/rrrpage.html>

また、スコットランド長老教会大会声明では、再建主義の主張はウェストミンスター信仰告白とも、聖書教理とも、相容れないものである、と断定しています。

http://gratias.cube-web.net/html/Scottish_Anti_Theonomy.html

以上から判断して、「一般的には過激なキリスト教右翼思想として認知されている」と表現しました。

2. その内容は、現代社会に神政政治を樹立し、旧約聖書の律法に基づいた司法を行って、聖書に示された「正義」を「社会正義」として実現させることを目論むものである。

これについては、再建主義者からの異論は、ないものと思います。

3. ゲイリー・ノースの主張は特に過激であることで知られている。

「墮胎した母親を公開処刑せよ」等の言論をノース氏は行っており、また、「アウシュビッツでのガス室によるユダヤ人大量虐殺は幻だった」という主張。さらに、Y2K問題に関する氏の主張から、「ノース氏の主張は過激であることで知られています」。

Y2K問題当時のノース氏の主張は、『ワイアード』などメジャーなメディアでも取り沙汰されましたが、当時氏は、次のような主張をしていました。

- ・ コンピューターチップのバグで、2000年1月1日午前0時0分に、全世界で電子機器が故障し、先進諸国のインフラストラクチャーは崩壊状態となり、これを境に、西欧文明は一挙に衰退する。
- ・ 各地で暴動や内乱、犯罪が多発し、無政府状態となる。
- ・ アメリカ市民は、紙幣・有価証券・動産・不動産をすべて売却して、金を購入し、人里離れた地域に引越し、食糧と燃料と生活物資を大量にストックし、銃で武装し、自家発電機を備え付けて、「連邦政府と社会の崩壊に対して備えをせよ」

上記のY2K問題に関する氏の主張は、アメリカの右翼武装諸団体である「ミリシア」にとって、武装強化の理論的支柱となりました。しかし、実際には、氏の預言は、すべて外れてしまいました。

これだけでなく、1980年代から、氏は、核戦争や社会の崩壊を、何度となく「預言」して来ましたが、その都度、外れて来ました。

このようなことを繰り返し主張しているために、アメリカでは、一般には「過激な論者」として、氏は知られています。これは事実として、そうでありまして、そう取られても仕方のない発言を、これまで氏が繰り返しして来られたのですから、わたしとしては、なんともいたしかたのないところです。

4. 旧約聖書の律法に根拠した司法制度の下での「死刑」執行を主張し、対象者は、レイプ、殺人、誘拐犯、墮胎した母親、異端、冒瀆罪、魔法、魔術、占星術、姦淫、近親相姦、親を殴る子ども、矯正不能な非行少年、

婚前交渉等である。

再建主義は、一定の条件での量刑の緩和を言いはいしますが、原則的には、上記のリストに該当する人たちについて、すべて「処刑」を主張しています。あるいは、「公開処刑」を主張しています。

5. 理論的背景はこうである。「人間は自律的存在ではなく他律的存在であり、結局のところ、人間のすべての理性的判断は、神を信じる信仰と旧新約聖書の啓示に根拠して下されなければならない。聖書が『処刑せよ』と命じている限り、人間は純粋にそこだけを出発点として社会や司法を構築しなければならない」

これは、「公開処刑」のような主張が、なぜ出てくるのかについての理論的背景を説明したものです。再建主義者にとっては、この説明は、まちがっておらず、その論拠を正確に指摘したものであると思います。

これに対して、わたしの立場は、聖書の司法律法を現代社会で厳格に施行する必要はない、というものです。この立場は、スコットランド長老教会や救世軍をはじめとして、世界のすべてのキリスト教会に共通する立場です。

そうして、わたしが富井様に投げかけた疑問は、「もし旧約律法を現代社会に厳格に適用しなければならないのなら、公開処刑だけでなく、奴隷制度の容認、女性の権利の否定、異人種間結婚の禁止、利子付債務の禁止も、行われることになるのではないか？」というものでした。

これに対して、富井様の答えは、「奴隷制度のような残忍な制度を、神が容認するはずがない」というものでした。また、「女性解放は否定しないが、ウーマンリブには反対する」というものでした。さらに、「超人種の経綸の時代なので、異人種間結婚を禁止する必要はない」というものでした。

そこで、わたしがさらに投げかけたのは、「神が容認するはずがない、と考えるのは、前提主義に反するのではないか？」「超人種の経綸があるのなら、超性別的経綸もあるのではないか？」「女性解放運動とウーマンリブは、どこが違うのか？」という疑問でした。

6. 世俗的民主主義国家であるアメリカは、自由を重んじるので、上記のような考え方が広く一般に受け入れられるわけではない。今後アメリカで再建主義が支配的思潮になるとはとても考えにくい。

現在のアメリカが、世俗的民主主義国家であるというのは、事実です。そして、宗教多元主義・文化多元主義的価値観に基づいた政治が行われているのも事実です。

ですから、再建主義が、アメリカでは一般的に「過激思想・右翼思想」とみなされ、広く一般に普及していない、というのも、事実です。

ゲイリー・ノース氏が描いた青写真では、Y2K問題を境に、西欧文明は崩壊して、キリスト教再建主義が勝利する、という動きが展開するはずでした。これは、白人分離主義団体の「ミリシア」が思い描いている世界の終末の構図と、実質的には同じものです。

つまり、「物事を楽観的に見るポストミレニアニズム」という主張とは裏腹に、西欧文明の悲惨な崩壊を経なければ再建主義は勝利できない、と見ている点では、再建主義は、前千年期再臨論者と大差ないのです。

28496 / inTopicNo.38) 亀井さんへ

□投稿者/ 見物人 兄弟姉妹(6回)-(2004/01/19(Mon) 12:24:07)

亀井さんへ

なぜ佐倉さんにかかわりたくないか、それは

いったん疑いだした人はいくら説明しても、ましてやインターネットで公になった以上、「では受け入れます」とは簡単に言ってくれないと思うから、

ここで引っ張ったために聖書のまちがいなど気にもとめた事もない人を混乱させたくないから。です。

あと、聖書をふつうの小説みたいに読めない、文法が変だとか言うことは、ヘブル語原本や翻訳の問題、聖書のなりたちを知らないといっかかる事だし、そういう点で佐倉さんはあたりまえのことに疑問をいだきならべたてて、ではどうしてそういう矛盾があるのかという事には答えを提示していないからです。

提示する気はないのかもしれませんが。

私も佐倉のさんの提示する疑問を調べてわかった事がたくさんありますが、説明する時間の余裕がありませんので余裕のある方、聖書推進委員会に燃える方はぜひ彼と討論なさってはいかがですか！

いちおう私のおすすめ本書いときますね。

佐藤文男氏の書いたアブラハムの足跡
ヘンリーモリス博士の創世記の記述
中川健一氏の日本人に贈る聖書物語
などなどです。

とにかく、私たちをつまずかせるものがみつかったとき、できるだけよく知っている人、信仰の熱い人がこのサイトでも反論してくれたらいいなと願うこのごろです。

28507 / inTopicNo.39) Re[16]: 最後に質問、よろしいでしょうか？

□投稿者/ kingdoman777 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/19(Mon) 13:48:40)

山谷様

山谷様に対していくつか質問がなされていますが、そのお答えを知りたいもののひとりであるとともに、加えて質問させてください。

公にひとつの考え・神学をご批判しておられるわけですが、そのためにセカンドハンドでない資料、すなわち著名な再建主義者（ラッシュドゥーニー、ノース、バーンセン・・・最低でもこの三人）の著作を直接お読みになり批判をお加えになっておられるのでしょうか？

読まれた著者名、著作をお教えいただきますようお願いします。

[No28494](#)に返信(山谷さんの記事)

>> 議論終了宣言が出てしまいましたが、一読者と

>> して是非ご回答の方お願いしたく、よろしく申し上げます。

>

>・・・それでは、教義と聖書に関する議論は再開しないことにして、

> 回答させていただきます。

- >
> わたしが、自分の掲示板において行った書き込みは、だいたい次のようなもの
> でした。そのひとつひとつについて、判断根拠を説明いたします。
- >
> 1. 再建主義は、アメリカでは一般的には過激なキリスト教右翼思想として認知さ
> れている。
- >
> キリスト教サイトで、再建主義を「過激思想」と断定しているのは、
> 次のサイト：
> <http://www.apologeticsindex.org/r10.html>
>
> さらに、過激な右翼思想のひとつに分類しているのは、次のサイト：
> <http://www.qrd.org/qrd/www/rrr/rrrpage.html>
>
> また、スコットランド長老教会大会声明では、再建主義の主張は
> ウェストミンスター信仰告白とも、聖書教理とも、相容れないものである、
> と断定しています。
> http://gratias.cube-web.net/html/Scottish_Anti_Theonomy.html
>
> 以上から判断して、「一般的には過激なキリスト教右翼思想として認知さ
> れている」と表現しました。
- >
>
> 2. その内容は、現代社会に神政政治を樹立し、旧約聖書の律法に基づいた司法を
> 行って、聖書に示された「正義」を「社会正義」として実現させることを目論
> むものである。
- >
> これについては、再建主義者からの異論は、ないものと思います。
- >
>
> 3. ゲイリー・ノースの主張は特に過激であることで知られている。
- >
> 「墮胎した母親を公開処刑せよ」等の言論をノース氏は行っており、また、
> 「アウシュビッツでのガス室によるユダヤ人大量虐殺は幻だった」という
> 主張。さらに、Y2K問題に関する氏の主張から、「ノース氏の主張は
> 過激であることで知られています」。
- >
> Y2K問題当時のノース氏の主張は、『ワイアード』などメジャーな
> メディアでも取り沙汰されましたが、当時氏は、次のような主張をして
> いました。
- >
> ・コンピューターチップのバグで、2000年1月1日午前0時0分に、
> 全世界で電子機器が故障し、先進諸国のインフラストラクチャーは
> 崩壊状態となり、これを境に、西欧文明は一挙に衰退する。
- >
> ・各地で暴動や内乱、犯罪が多発し、無政府状態となる。
- >
> ・アメリカ市民は、紙幣・有価証券・動産・不動産をすべて売却して、
> 金を購入し、人里離れた地域に引越し、食糧と燃料と生活物資を
> 大量にストックし、銃で武装し、自家発電機を備え付けて、
> 「連邦政府と社会の崩壊に対して備えをせよ」
- >
> 上記のY2K問題に関する氏の主張は、アメリカの右翼武装諸団体である
> 「ミリシア」にとって、武装強化の理論的支柱となりました。しかし、
> 実際には、氏の預言は、すべて外れてしまいました。
- >
> これだけでなく、1980年代から、氏は、核戦争や社会の崩壊を、何度と

- > なく「預言」して来ましたが、その都度、外れて来ました。
- >
- > このようなことを繰り返し主張しているために、アメリカでは、一般
- > には「過激な論者」として、氏は知られています。これは事実として、
- > そうでありますし、そう取られても仕方のない発言を、これまで氏が
- > 繰り返しして来られたのですから、わたしとしては、なんともいたしかた
- > のないところです。
- >
- >
- > 4. 旧約聖書の律法に根拠した司法制度の下での「死刑」執行を主張し、
- > 対象者は、レイプ、殺人、誘拐犯、堕胎した母親、異端、冒瀆罪、魔法、
- > 魔術、占星術、姦淫、近親相姦、親を殴る子ども、矯正不能な非行少年、
- > 婚前交渉等である。
- >
- > 再建主義は、一定の条件での量刑の緩和を言いはしますけれども、原則的
- > には、上記のリストに該当する人たちについて、すべて「処刑」を主張し
- > ています。あるいは、「公開処刑」を主張しています。
- >
- >
- > 5. 理論的背景はこうである。「人間は自律的存在ではなく他律的存在であり、
- > 結局のところ、人間のすべての理性的判断は、神を信じる信仰と旧新約聖書
- > の啓示に根拠して下されなければならない。聖書が『処刑せよ』と命じてい
- > る限り、人間は純粋にそこだけを出発点として社会や司法を構築しなければ
- > ならない」
- >
- > これは、「公開処刑」のような主張が、なぜ出てくるのかについての
- > 理論的背景を説明したものです。再建主義者にとっては、この説明は、
- > まちがっておらず、その論拠を正確に指摘したものであると思います。
- >
- > これに対して、わたしの立場は、聖書の司法律法を現代社会で厳格に施行
- > する必要はない、というものです。この立場は、スコットランド長老教会や
- > 救世軍をはじめとして、世界のすべてのキリスト教会に共通する立場です。
- >
- > そうして、わたしが富井様に投げかけた疑問は、「もし旧約律法を現代
- > 社会に厳格に適用しなければならないのなら、公開処刑だけでなく、
- > 奴隷制度の容認、女性の権利の否定、異人種間結婚の禁止、利子付債務の
- > 禁止も、行われることになるのではないか？」というものでした。
- >
- > これに対して、富井様の答えは、「奴隷制度のような残忍な制度を、神が
- > 容認するはずがない」というものでした。また、「女性解放は否定しない
- > が、ウーマンリブには反対する」というものでした。さらに、「超人種の
- > 経綸の時代なので、異人種間結婚を禁止する必要はない」というものでし
- > た。
- >
- > そこで、わたしがさらに投げかけたのは、「神が容認するはずがない、と
- > 考えるのは、前提主義に反するのではないか？」「超人種の経綸があるの
- > なら、超性別的経綸もあるのではないか？」「女性解放運動とウーマンリブ
- > は、どこが違うのか？」という疑問でした。
- >
- >
- > 6. 世俗的民主主義国家であるアメリカは、自由を重んじるので、上記のような
- > 考え方が広く一般に受け入れられるわけではない。今後アメリカで再建主義が支
- > 配的思潮になるとはとても考えにくい。
- >
- > 現在のアメリカが、世俗的民主主義国家であるというのは、事実です。
- > そして、宗教多元主義・文化多元主義的価値観に基づいた政治が行われて
- > いるのも事実です。

>
 > ですから、再建主義が、アメリカでは一般的に「過激思想・右翼思想」と
 > みなされ、広く一般に普及していない、というのも、事実です。
 >
 > ゲイリー・ノース氏が描いた青写真では、Y 2 K問題を境に、西欧文明は
 > 崩壊して、キリスト教再建主義が勝利する、という動きが展開するはず
 > でした。これは、白人分離主義団体の「ミリシア」が思い描いている
 > 世界の終末の構図と、実質的には同じものです。
 >
 > つまり、「物事を楽観的に見るポストミレニアニズム」という主張とは
 > 裏腹に、西欧文明の悲惨な崩壊を経なければ再建主義は勝利できない、と
 > 見ている点では、再建主義は、前千年期再臨論者と大差ないのです。
 >

28589 / inTopicNo.40) 再度質問です。

□投稿者/ カルチョファン 兄弟姉妹(6回)-(2004/01/19(Mon) 23:45:36)

丁寧なご回答ありがとうございます。
 大尉殿がゲイリー・ノースについていくつかの理由を挙げて、その主張が過激である
 と評価していることは解りました。
 これについては別投稿でレスをしたいと思いますが、残念ながら私の質問の対するお
 答えにはなっておりませんので、前回の投稿を再掲いたします。（質問の核心のみ）

○質問-----

大尉殿は「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法は過激
 だとお考えなのでしょうか？

繰り返しになって恐縮ですが、よろしくお願い致します。

28592 / inTopicNo.41) Re[17]: 再度質問です。

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(13回)-(2004/01/20(Tue) 00:27:18)

> 大尉殿は「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法は
 > 過激だとお考えなのでしょうか？

処刑せよ、と命じている旧約聖書の律法を、そのまま厳格に現代社会に適用せよ、
 と主張する、再建主義の考え方が「過激」だと、考えています。

28641 / inTopicNo.42) 本質とは・・・

□投稿者/ 知ってた？ 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/20(Tue) 15:51:32)

時代の風潮にあわせて過激になっていくのも自称クリスチャンだよね。
 聖書の本質的な事をちゃんと読み取っているのかな？！

28666 / inTopicNo.43) Re[12]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(9回)-(2004/01/20(Tue) 19:31:59)

No28209に返信(山谷さんの記事)

>>

>> この人々が「肉体で地上に生き返った」とは書かれていませんでした。

>

> 新共同訳では、「生き返った」とだけ書かれています。

>

> 「生き返った」という表現は、マタイによる福音書27:53にも出て来ます。

> こう記されています。

>

> イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。

> そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、

> 地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた

> 多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の

> 後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。

>

> ここに記録された謎めいた事件は、字義通りに解釈するなら、こうです。

> イエスが十字架で息を引き取られた瞬間、エルサレム城外の墓地に

> 納められていた多くの聖徒たち（旧約時代の信者たち）が身体をもって

> 生き返り、墓穴の中で息をひそめていたが、三日目にイエスが復活

> すると、これらの生き返った聖徒たちも墓穴から続々と出て来て、

> エルサレム城内に入り、多くの人々に現れて、驚かせた、ということです。

>

> これは、十字架によってキリストが贖罪を達成し、死に打ち勝たれた結果、

> 死んだ人間が「身体をもって」生き返ることができるようになった、という

> 歴史的事実を示しています。

>

> これを字義通り、歴史的事実として受け取るならば、当然のことながら、

> 黙示録で「生き返った」と言われている表現も、「身体をもって生き返ること

> だ」と解釈するのが妥当であると思われます。

>

> つまり、プレテリストの説く、「身体をもって復活したのはイエスだけであり、

> ほかの人間はすべて、霊において復活する」という主張は、マタイ27:53を

> 明らかに見落としているのです。

何も見落としてはいません。

マタイ27、53は「血肉の身体」で復活したとは書かれていません。

復活については下記をお読みください。

http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/Challenging_Concepts_Of_The_Resurrection.html

>

28689 / inTopicNo.44) Re[18]: 再度質問です。

□投稿者/ カルチヨファン 兄弟姉妹(7回)-(2004/01/20(Tue) 23:05:25)

No28592に返信(山谷さんの記事)

>> 大尉殿は「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法は

>>過激だとお考えなのでしょうか？

>

> 処刑せよ、と命じている旧約聖書の律法を、そのまま厳格に現代社会に適用せよ、

> と主張する、再建主義の考え方が「過激」だと、考えています。

では、「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法そのものは過激では無いとお考えなのですね？

さて、そうなりますと、再建主義は過激ではないこと（旧約の司法律法の適用）を主張していることになりまますから、それでは一体何を基準にして再建主義の考え方を「過激」だと断じるのかが今ひとつわかりません。（ゲーリー・ノースは別としてですよ。）

旧約の司法律法を現代社会で厳格に施行する必要はない、という大尉殿の立場からするならば、単に聖書解釈が違うだけの話であって、それを「過激だ」と評するのは、いささか言い過ぎではないかと私は思います。

もっとも、旧約の司法律法は過激だということであれば、再建主義の主張も過激だということでは首尾一貫してますが...。
旧約聖書の律法そのものは過激では無いんですよ>大尉殿。
それとも経緯が違うから、旧約時代は過激でも何でもなかった律法は、現代に入ると過激なものに変身したということになるのでしょうか？

PS1;

しつこいようですが、私は旧約聖書の司法律法というのは果たして「過激」かものなのか？について関心があるため、お話しさせて頂いてますことをご理解下さいませ。

PS2;

ところで、別投稿にあったkingdoman777様のご質問についてのお答えは、未だでしょうか？私も知りたく思いますので、ご回答の方よろしくお願いします。

28712 / inTopicNo.45) Re[19]: 再度質問です。

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(14回)-(2004/01/21(Wed) 12:00:02)

>では、「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法そのものは過激では無いとお考えなのですね？

法には、その法の根拠となる文化的・宗教的バックグラウンドが存在します。旧約律法は、イスラエル共同体の契約成員を対象としたものであり（宗教的バックグラウンド）また、古代パレスチナ社会での生活の文脈において与えられたもの（文化的バックグラウンド）です。

古代パレスチナ社会での生活の文脈に適合したかたちで司法律法が神から与えられたことは、「これからあなたがたがカナンの地に入ろうとするにあたり」という前置きをして、神が司法律法を契約成員に与えたことから明らかです。

ところで、イスラエル契約共同体のパレスチナにおける生活は、その後の歴史的経緯により、中断を余儀無くされました。バビロン捕囚やアンティオコス朝の圧制により、インド・中近東・北アフリカ・中央アジア・ヨーロッパという広範な地域へと、ユダヤ人共同体が拡散することになったからです。

そこで発生した問題は、古代パレスチナ社会の文脈に適合的に与えられた律法を、海外生活の文脈に沿って解釈するには、どうしたらいいか、という問題でした。

律法の解釈と、非パレスチナ社会への適用をめぐる、世界各地のラビたち（律法学者たち）が、個別の問題ごとに回覧状を交換して、議論を戦わせました。律法を非パレスチナ社会の文脈に沿うように解釈するということは、非常に難しい作業であり、100人のラビがいれば、100通りの回答が出ると言っても過言ではありませんでした。

そこで、多くのラビたちの議論と多種多様な見解を、すべて集成した大資料集として、『パレスチナ・タルムード』と『バビロニア・タルムード』が編纂されたのです。

『タルムード』を読めば、個別問題について、まったく正反対の意見が堂々と戦わされているのがわかります。そうして、タルムードは、正反対の意見の両方を収めているのです。

結局のところ、多くの個別問題については、百家争鳴状態で議論が戦わされた

末に、なお、結論は出ていない状態です。ですから、『タルムード』編纂以降も、世界各地のラビたちの議論は「トセフタ」という回覧状を通して、古代から現在に至るまで、今なお続けられているのです。

世界各地のラビは、自分のコミュニティにおいて、個別問題が起きたときに、過去から現在に至る多くの議論を読み、自分自身の見解を示して、そのコミュニティにおける解決をします。しかし、当然のことながら、示されたその見解に対して、反対意見を示す他のコミュニティのラビも、大勢いるわけです。

姦淫の問題にしても、現在のラビたちは、「姦淫の張本人を公開処刑せよ」という解決を示すことは、まったくありません。過去数千年にわたる世界各地のラビたちの議論を通して、「厳密な意味での姦淫とは何か？」「姦淫の罪を犯したと一切の疑念の余地無く推定するに足る証拠とは何か？」「石で打って殺すという処刑の厳密な意味は何か？」「石を投げて、殺すには力が足りず、二度目に石を投げることは、厳密な意味での石打ちの処刑と言えるか」など、数千ページに及ぶ、さまざまな見解が示されて来たのです。そうして、現在のラビたちは、それらを踏まえて、「公開処刑せよ」という判断を示すことは、もはや、ないのです。

律法の解釈について、ヘブライ語の特性、ユダヤ的思考方法、律法の解釈と敷衍と適用の職人技的技能など、わたしたち異邦人クリスチャンが到底及ばない専門家集団であるラビたちであっても、「たったひとつの問題についてすら、一致した見解は存在しない」のです。

ユダヤ教には、このような考え方があります。「律法の解釈をめぐり、議論が対立し、異なる見解の間の距離が、大きくなればなるほど、それは、やがて、真のトーラーの教師であるメシアが来られたときの『メシアの栄光』が、大きくなることになる。なぜなら、人間たちが議論しても、到底埋まらなかった、対立する見解の溝を、メシアはもののみごとに解決してくださるはずだから」

そうであるのに、再建主義者は、聖書に処刑せよと書いてあるから、そのとおり処刑すればいいのだと、主張するわけです。このような、あまりに単純なものの考え方で、社会を規制する司法システムを構築することが出来るという発想が、「過激」なのです。

ラッシュドゥーニー氏は、ご自分の著作で、タルムードからも引用していますが、それは、「タルムードにこう書いてあるから」と、自分の主張に都合の良い部分を引いて来ているに過ぎません。もし「タルムード的な物の考え方」を、きちんと捉えているのであれば、再建主義のような発想は、本来出てこないはずなのです。

「タルムード的な物の考え方」とは、次のようなことです。

- ・ 海外のユダヤ人コミュニティに起きた個別問題について、解決を探るために、世界各地のラビたちが過去に行った、多種多様な議論にすべて当たり、多くの相互にぶつかり合う異論の中から、自分の置かれたコミュニティの状況に適合した「落ち着きどころ」を見出していく作業。
- ・ しかも、そうして落ち着きどころを得た「ラビとして自分が出した見解」は、ほかのラビたちから反対意見をつきつけられることも、十分予想し、覚悟しなければならない。
- ・ それゆえ、自分の見解は、回覧状として、他のコミュニティにも示し、他のラビたちの「異なる意見」を聞かなければならない。

- ・そうした手続きをすべて経た上で、なお、ひとつの個別問題について、すべてのラビたちが完全に意見の一致を見ることは、あり得ない。
- ・あり得ないどころか、ないのが普通であり、もし「完全な意見の一致」を見るようなことがあれば、むしろ、それこそ、異常事態である。

ですから、「殺せと書いてあるから、何も考えずに、殺せばいいのだ」というような、単純なものでは、ないのです。

「殺せと書いてあるから、殺せばいい」という再建主義は、自説の補強にタルムードを使用した時点で、すでに論理的に矛盾しています。

28718 / inTopicNo.46) Re[13]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(15回)-(2004/01/21(Wed) 14:07:19)

> マタイ27:53は「血肉の身体」で復活したとは書かれていません。

上記箇所のギリシャ語本文（連合聖書協会修正第三版）によると、

πολλα σωματα των κεκοιμημενων αγιων ηγερθησαν

とあります。

各語の意味は、次のとおりです。

πολλα (多くの)
σωματα (からだ) 単数形σωμα
των κεκοιμημενων αγιων (眠りについた聖徒たちの)
ηγερθησαν (復活した)

問題の「からだ」(σωμα)については、キッテル新約聖書神学事典は、次のように説明しています。

1. ヘブル語の相当語バーサールは、肉体を意味する。
2. 七十人訳は、サルクス、ソーマ、ネクロスを身体（または死体）の意味に使用している。
3. 七十人訳でのソーマの使用例は、「身体を傷つける」「苦しむ人間の身体」「性器」「肉体」「病気にかった身体」「身体の朽ち易さ」「身体のいやし」「身体の復活」
4. 後期ユダヤ教でのソーマの使用例は、「人間の身体」「動物の身体」「数えられる単位としての身体」「苦痛、病気、死、誘惑を受ける身体」「靈魂と身体の不可分性」「族長は靈魂と身体を持って天国に行く」「死は靈魂と身体の分離である」「トランス状態において、靈魂は身体から離れる」「天体」「原人アダム（宇宙的アダム）の身体」
5. 哲学者フィロによるソーマの使用例は、「靈魂の牢獄としての身体」
6. 歴史家ヨセフスによるソーマの使用例は、「人間の身体」「死に際して靈魂は身体を離脱する」
7. 新約聖書におけるソーマの使用例は、「人間の身体」「死んで復活したイエスの身体」「これはわたしのからだである、と言われた、イエスの聖餐制定句

における『からだ』」「肉と血である身体」「復活の身体」「性生活における身体」「聖霊の神殿である身体」「宇宙的なキリストのからだ」
「信者の共同体であるキリストのからだ」「十字架につけられたキリストの身体」

8. 初代教父におけるソーマの使用例は、「身体」「十字架につけられた身体」「キリストのからだなる教会」「動物の身体」

以上を総合的に判断しますと、マタイ27:53の「眠りにについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った」と言われている「からだ」は、通常の意味における身体として解釈するべきであると思われます。

28726 / inTopicNo.47) 本質とは・・・

□投稿者/ 武田哲屋の弟 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/21(Wed) 16:53:29)

そいでもってうちらになんの益があるのか、わかりやすくしてくんしゃい。

28734 / inTopicNo.48) Re[20]: 再度質問です。

□投稿者/ レフリー富山 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/21(Wed) 17:52:53)

No28712に返信(山谷さんの記事)

ちょっと、ちょっと、またまたひとり相撲してないかい、まことチャン、おっと、失礼、大尉殿。

あなたは質問されたことは無視して、聞かれてないことで論点をそらそうとしているのはミエミエですよ。

ディベートはきちんと相手の質問に答えつつ、一步一步進めましょうね、まことチャン、おっと失礼、大尉殿(- -)へ（敬礼！）

28735 / inTopicNo.49) Re[21]: 再度質問です。

□投稿者/ GreenZebra 兄弟姉妹(4回)-(2004/01/21(Wed) 18:06:51)

No28734に返信(レフリー富山さんの記事)

> No28712に返信(山谷さんの記事)

>

> ちょっと、ちょっと、またまたひとり相撲してないかい、まことチャン、おっと、失礼、大尉殿。

>

> あなたは質問されたことは無視して、聞かれてないことで論点をそらそうとしているのはミエミエですよ。

>

> ディベートはきちんと相手の質問に答えつつ、一步一步進めましょうね、まことチャン、おっと失礼、大尉殿(- -)へ（敬礼！）

>

No28712に関しては、間接的かもしれないけれど、きちんと答えたことになりませんか？

28754 / inTopicNo.50) 復活

□投稿者/ kingdoman777 兄弟姉妹(2回)-(2004/01/21(Wed) 23:11:28)

山谷様

No28718に返信(山谷さんの記事)

>> マタイ27:53は「血肉の身体」で復活したとは書かれていません。

> 以上を総合的に判断しますと、マタイ27:53の「眠りについてた多くの聖なる
> 者たちの体が生き返った」と言われている「からだ」は、通常の意味における
> 身体として解釈するべきであると思われます。

プレテリスト様は少々早とちりをしておられますが、山谷様も少々早とちりをして
おられるかもしれません。

マタイ27章52、53節は復活は肉体を伴うのサポートにはならないように思います。
なぜなら、マタイ27章52、53節で復活した人々はまた死んだからです。
彼らの復活はラザロの復活と同じものです。

1コリント15章42節は「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、
朽ちないものによみがえらせ、」とあります。

復活が朽ちないものをもたらすならば、マタイ27章で復活した人々は二度と死な
なかったことでしょう。

パウロによると「からだ」とは何も「肉体」だけでなければならないというのでは
ないようです。1コリント15章をもう一度お読みいただけますでしょうか？
そのことのためにパウロは「サルクス（サークス）」ではなく、「ソーマ」という
ことばを用いたのでしょうか。

28762 / inTopicNo.51) **Re[20]: 再度質問です。**

□投稿者/ 通りすがり 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/22(Thu) 01:14:42)

> そうであるのに、再建主義者は、聖書に処刑せよと書いてあるから、そのとおり
> 処刑すればいいのだと、主張するわけです。

あなた、本当に嘘つきですね。
再建主義者は、それをはっきり否定してるでしょ。

> 「殺せと書いてあるから、何も考えずに、殺せばいいのだ」というよう
> な、単純なものでは、ないのです。

一体誰が、そんなこと言ってるんですか？ また再建主義者ですか？
あなた、本当にしつこくて懲りないウソつきですね。

28768 / inTopicNo.52) **Re[21]: 再度質問です。**

□投稿者/ 細木 はしため(789回)-(2004/01/22(Thu) 02:36:05)

No28762に返信(通りすがりさんの記事)

>
>> そうであるのに、再建主義者は、聖書に処刑せよと書いてあるから、そのとおり
>> 処刑すればいいのだと、主張するわけです。

>
 > あなた、本当に嘘つきですね。
 > 再建主義者は、それをはっきり否定してるでしょ。
 >
 >> 「殺せと書いてあるから、何も考えずに、殺せばいいのだ」というよう
 >> な、単純なものでは、ないのです。
 >
 > 一体誰が、そんなこと言ってるんですか？ また再建主義者ですか？
 > あなた、本当にしつこくて懲りないウソつきですね。

繰り返し正せばよいだけのことはありませんか。
 あなたとはそうとう認識の異なる人間なだけかもしれませんよ。
 「うそつき」という言い方は止めてください。

28798 / inTopicNo.53) 細木さんへ

□投稿者/ 見物人 兄弟姉妹(8回)-(2004/01/22(Thu) 12:43:08)

無学はよくてうそつきはだめなの？

28799 / inTopicNo.54) Re[15]: 復活

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(10回)-(2004/01/22(Thu) 12:48:07)

No28754に返信(kingdoman777さんの記事)

> 山谷様
 >
 >
 > No28718に返信(山谷さんの記事)
 >>> マタイ27:53は「血肉の身体」で復活したとは書かれていません。
 >
 >
 >> 以上を総合的に判断しますと、マタイ27:53の「眠りについてた多くの聖なる
 >> 者たちの体が生き返った」と言われている「からだ」は、通常の意味における
 >> 身体として解釈するべきであると思われます。
 >
 > プレテリスト様は少々早とちりをしておられますが、山谷様も少々早とちりをして
 > おられるかもしれません。
 >
 > マタイ27章52、53節は復活は肉体を伴うのサポートにはならないように思いま
 > す。
 > なぜなら、マタイ27章52、53節で復活した人々はまた死んだからです。

すみませんが二つばかり質問をさせて下さい。

この復活した人々がまた死んだとは聖書のどこに書かれていますか？
 もうひとつは...聖なる都とはどこですか？

以上です。
 よろしく願います。

> 彼らの復活はラザロの復活と同じものです。
 >
 >

28802 / inTopicNo.55) Re[15]: 復活

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(16回)-(2004/01/22(Thu) 12:57:14)

>マタイ27章52-53節は復活は肉体を伴うのサポートにはならないように
>思います。
>なぜなら、マタイ27章52-53節で復活した人々はまた死んだからです。
>彼らの復活はラザロの復活と同じものです。

生き返ったラザロ（ヨハネ12:1）、生き返った旧約聖徒（マタイ27:52）、
生き返ったイエス（マタイ27:53）については、いずれも、エゲイローという
動詞が使用されています。

ラザロの場合	「生き返らせてもらった」	エーゲイレン	<エゲイロー
旧約聖徒の場合	「生き返った」	エーゲルテーサン	<エゲイロー
イエスの場合	「よみがえり」	エゲルシン	<エゲイロー

ラザロは、生き返った後、キプロス島の司教となり、そこで死没して、墓が
同地に残っています。
イエスは、復活の40日後、オリーブ山の山頂から天に昇りました。
旧約聖徒は、その後、どうなったのか、聖書自体に記録がありませんし、伝説
にも、残っていないようです。生き返った旧約聖徒が、ヨミに降下したキリスト
の目撃談を語ったという新約外典文書が存在しますが、それに、さらなる
「後日談」が記載されているかもしれません。残念ながら、手元にないので、
確認が出来ませんでした。

そうしますと、旧約聖徒がその後どうなったかについては、次の四つの可能性が
あります。

- ・ラザロと同様に、その後、死没した。
- ・死ぬことなく、今も地球上のどこかで、生き続けている。
- ・モーセ伝説のように、死んで生き返った後、天に引き上げられた。
- ・エノク、エリヤと同様に、生きながらにして、天に引き上げられた。

さて、「前提主義」によれば、聖書が沈黙していることについては、判断は
自由であるはずですから、上記の四つの可能性のいずれをも決定的に排除する
ことは、できないはずです。

そこで、蓋然性としては、生き返った旧約聖徒が後日天に引き上げられた可能性
もあるわけですから、論理的には、「マタイ27:53は、肉体を伴う復活を支持し
ない」とは断定できないことになります。

28806 / inTopicNo.56) Re[21]: 再度質問です。

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(17回)-(2004/01/22(Thu) 13:10:50)

>> 「殺せと書いてあるから、何も考えずに、殺せばいいのだ」というよう
>> な、単純なものでは、ないのです。

> 一体誰が、そんなこと言ってるんですか？ また再建主義者ですか？

アメリカ在住の開業医で、再建主義者であるジョンストン博士は、セオノミー
を受け入れたのなら、当然、司法律法に規定された「死刑」を現代社会に
導入せよと主張することになるし、死刑導入を公然と主張したために「人々から
恐れられる結果になる」としても、何も気にする必要はない、と述べています。

また、現在の世俗法のもとにおけるアメリカの死刑執行は、死刑判決が出て
から20年、30年という長い年月を置いた後に、ようやく死刑執行命令が出て実行
されるというスタイルになっていますが、ジョンストン博士は、死刑の遅延に
ついて批判しており、「死刑は、判決後、ただちに実行すべきである」と
主張しています。また、死刑は、犯罪に対する抑止効果を持つことから、

当然、公開で行うべきである、ともしています。

以上の主張についての根拠を、ジョンストン博士は、「旧約の司法律法がそう命じているから」としています。

しかし、もし異論がおりでしたら、「再建主義を主張しているが、再建主義者からは、再建主義者とはみなされない、極端な人たちのリスト」に、上記のジョンストン博士を加えても、わたしとしては、かまいません。

すでに、ゲイリー・ノース氏については、上記リストに入れることにしましたので、今後はノース氏の主張については、触れないようにするつもりです。

28816 / inTopicNo.57) Re[11]: 細木さんへ

□投稿者/ 細木 はしため(790回)-(2004/01/22(Thu) 15:46:54)

No28798に返信(見物人さんの記事)

> 無学はよくてうそつきはだめなの？

はい？

なんでこんな質問が？

状況によって違いますでしょう。

単語だけ並べて聞かれても答えられませんね。

28845 / inTopicNo.58) 28712山谷大尉殿 へのレス～その1

□投稿者/ カルチョファン 兄弟姉妹(8回)-(2004/01/22(Thu) 23:45:56)

律法とラビについてのお話、たいへん興味深く読ませて頂きました。
ありがとうございます。

さて、いくつかレスしたいと思いますが、ポイント別に分けて投稿したいと思います。
まずは、当初からのテーマであった「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の司法律法は過激なのか？についてです。

大尉殿は上記の司法律法を現代に適用しようとする再建主義の考え方が「過激」だ、とおっしゃっていることは重々承知しました。
しかしながら、もう何度も書くのは気が引けるものの、あえて書かせていただきますと、

—Question—

大尉殿は、「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約聖書の律法そのものを「過激」と評価しておられるのですか？

というのが、私の問いなのです。さて、お答えは如何に？

28846 / inTopicNo.59) 28712山谷大尉殿 へのレス～その2

□投稿者/ カルチョファン 兄弟姉妹(9回)-(2004/01/22(Thu) 23:49:40)

No28712に返信(山谷さんの記事)

> 律法の解釈について、ヘブライ語の特性、ユダヤ的思考方法、律法の解釈と

> 敷衍と適用の職人技的技能など、わたしたち異邦人クリスチャンが到底

> 及ばない専門家集団であるラビたちであっても、「たったひとつの問題についてすら、一致した見解は存在しない」のです。

>

> ユダヤ教には、このような考え方があります。「律法の解釈をめぐり、議論が

> 対立し、異なる見解の間の距離が、大きくなればなるほど、それは、やがて、
> 真のトーラーの教師であるメシアが来られたときの『メシアの栄光』が、大きく
> なることになる。なぜなら、人間たちが議論しても、到底埋まらなかった、
> 対立する見解の溝を、メシアはもののみごとに解決してくださるはずだから」
>
>
> そうであるのに、再建主義者は、聖書に処刑せよと書いてあるから、そのとおり
> 処刑すればいいのだと、主張するわけです。このような、あまりに単純なものの
> 考え方で、社会を規制する司法システムを構築することが出来るという発想が、
> 「過激」なのです。

これは、律法というのは専門家集団であるラビたちでさえ一致出来ないほどの難題である。

従って、律法の解釈や適用について再建主義者はお呼びではない、ということですね。

ふむ....。

ところで、このラビたちは勿論イエス・キリストをメシアとは認めていないのですよね。当然、新約聖書も「聖書」とは認めていないので、イエス・キリストや使徒たちの律法解釈は考慮しないのですよね。

新約聖書には（律法の授与者である）イエス・キリストやパウロをはじめとする使徒たちの律法に関する数多くの言及がみられますが、果たして、これらを無視して正しい律法解釈が出来るのだろうか？という素朴な疑問が湧いてきました。
これについてはいかがでしょうか？

28847 / inTopicNo.60) 28712山谷大尉殿 へのレス～その3

□投稿者/ カルチヨファン 兄弟姉妹(10回)-(2004/01/22(Thu) 23:58:39)

No28712に返信(山谷さんの記事)

> ～前略
> ですから、「殺せと書いてあるから、何も考えずに、殺せばいいのだ」というよう
> な、単純なものでは、ないのです。

これはその通りだと私も思います。
ただし、私の見たところ再建主義者は「殺せと書いてあるから、・何・も・考・え・ず・に、
殺せばいいのだ」などとは言ってませんが。

これまでの大尉殿の主張を拝見するに、一体「どの再建主義者」の「何の著作」をお読みになったうえで、このような批判を展開されているのか？を疑問に思うのです。そういった意味でも 28507でkingdoman777様がなされた質問のお答えを期待しているのです。

例えば旧約律法の有効性について論じたバーンセンの非常に優れた著書がありますが、もしこれを読まれたのなら、少なくとも「再建主義者は・何・も・考・え・ず・に殺せばいい」
というようなトンデモ主張をしていないことがわかると思うのです。

この 28507の質問に対してお答えがないと、読者としては大尉殿がおっしゃることを検証出来ないのですよ。これまで幾人かの名前を挙げて再建主義をご批判なさってますが、このままですと、それは伝聞からなのではないだろうか？1次資料をあたっているのだろうか？再建主義を批判するのに都合のよい部分だけを取り上げているのではないか？という疑念が晴れません。

さて、如何でしょうか？

28849 / inTopicNo.61) Re[16]: 復活

□投稿者/ kingdoman777 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/23(Fri) 00:00:26)

プレテリスト様

ご質問を感謝します。

>> マタイ 27 章 52、53 節は復活は肉体を伴うのサポートにはならないように思います。

>> なぜなら、マタイ 27 章 52、53 節で復活した人々はまた死んだからです。

>

> すみませんが二つばかり質問をさせて下さい。

>

> この復活した人々がまた死んだとは聖書のどこに書かれていますか？

この箇所はスタンド・アロンの（並行記事がない）箇所なので、解釈が別れるところではあります。

山谷様がすでに上げておられる可能性があります。（ところで、聖徒たちを山谷様は旧約の聖徒としておられますが、これもまたいくつかの説があります。）

私が彼らはまた死んだと言いましたのはその可能性の中からより聖書的ではないかと考えるからです。

「また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエスキリスト・・・」（黙示録 1：5）

「すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死人の中から最初によみがえって・・・」（使徒行伝 26：23）

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」（1 コリント 15：20）

「・・・死者の中から最初に生まれた方です。・・・」（コロサイ 1：8）

聖徒たちがだれであれ、彼らはイエスが十字架で息を引き取られたときに生き返ったとマタイ 27：52 に書かれていますから、キリストの復活よりも先に復活したことになります。しかし上記のようにキリストは初穂ですから、これらの聖徒たちキリストよりも先に生き返っていながら初穂ではないとするなら、ラザロやヤイロの娘のように生き返って、また死んだと考えることができるのではないかと考えるわけです。

> もうひとつは...聖なる都とはどこですか？

エルサレムです。

山谷様

レスしたいことは多々あるのですが、どうもレスをすると（このスレッドの）本質からはずれるようです。

元に戻るためにもう一度繰り返し質問いたします。

「山谷様は今までに再建主義者の著書をいくつかお読みになった上で、批判を公にしておられるのでしょうか？それともセカンドハンドの資料に頼っておられるのでしょうか？」

28851 / inTopicNo.62) 28712山谷大尉殿 へのレス～その4

□投稿者/ カルチョファン 兄弟姉妹(11回)-(2004/01/23(Fri) 00:03:43)

No28712に返信(山谷さんの記事)

> ラッシュドゥーニー氏は、ご自分の著作で、タルムードからも引用していますが、
 > それは、「タルムードにこう書いてあるから」と、自分の主張に都合の良い
 > 部分を引いて来ているに過ぎません。
 > -長いので引用略させていただきます-
 > 「殺せと書いてあるから、殺せばいい」という再建主義は、自説の補強に
 > タルムードを使用した時点で、すでに論理的に矛盾しています。

ラッシュドゥーニーがどのような文脈の中でタルムードを引用したのか存じませんので断定は出来ませんが、それにしてもこれは少し強引な言い回しじゃないでしょうか。
 ラッシュドゥーニーがタルムードのすべてを否定しているのならばともかく、自説と一致する事柄を引用したからといって「論理的に矛盾している」ことにはならないでしょう。

例えば、アンチ再建主義（異論は無いと思われますのであえてこのように言わせて頂きます）

の大尉殿が自説の論拠に再建主義の主張の一つである、

*** 聖書は、誤りのない神の御言葉であり、この基準にしたがって、 ***
 *** 世界に存在するあらゆるものを評価しなければならない ***

ということばを引用した場合、「山谷大尉は自分にとって都合の良い部分を引用しており、
 論理的に矛盾している」と指摘することは的はずれであるのと同義じゃないでしょうか。
 （※もっとも大尉殿が再建主義を全否定しているのならばこの例えは当てはまりませんけど。）

28877 / inTopicNo.63) Re[16]: 復活

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(11回)-(2004/01/23(Fri) 09:08:37)

No28802に返信(山谷さんの記事)

>> そこで、蓋然性としては、生き返った旧約聖徒が後日天に引き上げられた可能性
 > もあるわけですから、論理的には、「マタイ27:53は、肉体を伴う復活を支持し
 > ない」とは断定できないことになります。

それでは、彼らは肉体の身体のまま天で今でも生きているのですか？

28879 / inTopicNo.64) Re[17]: 復活

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(12回)-(2004/01/23(Fri) 09:16:11)

No28849に返信(kingdoman777さんの記事)

> プレテリスト様
 >
 > ご質問を感謝します。

kingdoman777様、お答えいただき有難うございました。

また何か疑問点などあった場合に質問させていただきますので
 その時はよろしくお願いします。

>

>

28902 / inTopicNo.65) まとめてレスします

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(18回)-(2004/01/23(Fri) 13:44:48)

カルチョファンさまへ

>大尉殿は、「レイプ、殺人、誘拐犯等を処刑せよ」と命じている旧約
>聖書の律法そのものを「過激」と評価しておられるのですか？

こんな見え見えの「トラップ」にひっかかるわけがないではありませんか。

わたしが「聖書の律法そのものが過激である」と回答したならば、
「聖書の権威を軽んじる不敬虔者」との非難を浴びせる容易をしておられる
はずです。

わたしが「聖書の律法そのものは過激ではない」と回答したならば、
「聖書が過激でないのなら、聖書に基づく再建主義も過激ではない」との
単純論法を用意しておられるはずです。

そこで、わたしは敬虔な者らしく、このように回答することにいたします。
「聖書は靈感された神の言葉であるから、それを尊重するわたしは、
『聖書そのものの値踏み』など、とてもではないが、畏れ多くて、出来ません」

それにしても、聖書の言葉を二者択一の剣のように喉もとに突きつけて、
「さあ、答える、どうなんだ？」と問い詰めるやり方は、やはり、過激だとは思いますが。

>例えば、アンチ再建主義の大尉殿が自説の論拠に再建主義の主張の一つである、
> *** 聖書は、誤りのない神の御言葉であり、この基準にしたがって、 ***
> *** 世界に存在するあらゆるものを評価しなければならない ***
>ということばを引用した場合、「山谷大尉は自分にとって都合の良い部分を引用
>しており、論理的に矛盾している」と指摘することは的はずれであるのと同義じ
>やないでしょうか。

「聖書は無誤無謬の神の言葉であり、世界に存在するあらゆるものは、聖書に
よって評価しなければならない」というのは、なにも、再建主義者だけの専売
特許ではありません。

ファンダメンタリストなら、だれでも、そのように考えるものです。

わたしが言いたいのは、むしろ「聖書は無誤無謬の神の言葉であり、世界に存在
するあらゆるものは、聖書によって評価しなければならないから、『再建主義も
また聖書に照らし合わせて評価しなければならない』」ということなのです。

聖書が無誤無謬の権威と考えた場合、新約聖書の世界観的パラダイムと再建主義
パラダイムの不整合性が、いくつも出て来るのです。以下、聖書と再建主義とを
ひとつずつ対比させてみましょう。

1. 中間時の中間領域は天使的勢力（位、主権、支配、権威）である国家権力が占有している。

これに対して、再建主義は「中間領域はヒューマニズムが占めている」
という、非聖書的思考方をしています。

2. 天使的勢力（＝国家権力）が中間領域から排除されるのは、キリスト再臨のときである。

「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます」

キリストが再臨しなければ排除されないはずの天使的勢力を、再建主義者は自分たちの理論の中で考慮していないので、「キリスト者が現在において中間領域に司法律法を適用し、支配すべきである」という、非聖書的考え方をしています。

3. キリストが再臨し、地上を千年間支配し、その後、最後の敵である「死」を滅ぼす。
「キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。最後の敵として、死が滅ぼされます」

「キリスト再臨→地上支配→死が滅びる」という順序で進むと聖書は言っているのに、パーシャル・プレテリストの再建主義者は、
「地上支配→キリスト再臨→死が滅びる」という、非聖書的順序を唱えています。フル・プレテリストの再建主義者は、
「キリスト再臨→死が滅びる→地上支配」という、非聖書的順序を唱えています。

4. キリストの千年の支配の後、最後の審判が行われ、最初の天と地は去って万物が更新され、新しい天と新しい地が到来する。

フル・プレテリストの再建主義者は、紀元70年のキリスト再臨とキリスト者の復活を唱え、その結果、千年王国の終焉が西暦1070年となり、従って2004年現在、すでに「新天新地」になっている、ということになります。

ところで、ドミニオン神学は、「地を従えよ」という創世記における神の命令を「この地を統治せよ」という命令として受け取ることが、最初の、そして、すべての神学的思考の出発点となります。
しかし、神が「統治せよ」と言われたところの「この地」は、最後の審判の後に消滅してしまい、新しい天と新しい地が到来することになるので、すから、「新天新地」が実現した時点で、ドミニオン神学も終焉してしまうのです。
つまり、フル・プレテリストの再建論者は、「現在が新天新地である」と考えることによって、再建主義が拠って立つ最も重要な根拠を、自ら否定してしまうことになるのです。

聖書は無誤無謬の権威であり、すべてのものは聖書を基準に価値判断しなければなりませんから、当然のことながら、上記の「聖書との不整合」のひとつひとつについて、再建主義者は明快に説明が出来なければなりません。

そうでなければ、「世界信条とウェストミンスター信仰告白その他の歴史的信仰告白に、ポストミレニアニズム条項とセオノミー条項を加筆して、これに違反するすべての教団教派を、異端として断罪することにしよう」などという遠大な願望は、到底実現できないと思いますが。

kingdoman777さまへ

>聖徒たちがだれであれ、彼らはイエスが十字架で息を引き取られたときに生き返ったとマタイ27:52に書かれていますから、キリストの復活よりも先に復活したことになります。しかし上記のようにキリストは初穂ですから、これらの聖徒たちキリストよりも先に生き返っていながら初穂ではないとするなら、ラザロやヤ

>イコの娘のように生き返って、また死んだと考えることができるのではないかと
>考えるわけです。

イエスが十字架上で息を引き取った瞬間、多くの聖徒たちの体が生き返った、と聖書記者は記していますが、その聖徒たちは、「すぐ墓から出て来なかった」という微細な描写に、大いに注目する必要があると思います。
聖書記者は、続けて、こう書いています。
「イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入った」

リベラルな聖書学者によれば、「マタイ伝の記者は、パウロの手紙に述べられている『初穂であるキリスト』の神学を知っていたので、聖徒たちはすぐ墓から出ず、初穂であるキリストが墓を破って出てくるまで、墓の中で自分の順番を待っていた、というようにして、書いた」と考えます。
つまり、マタイ27:52-53は、「初穂キリスト」と矛盾するものではなく、むしろ、「初穂キリストを明らかに意識して書かれた」ということになるのです。

さて、ファンダメンタリストのわたしとしては、生き返った聖徒たちは、キリストが初穂だとの明確な認識を神から啓示されて知っていたので、キリストが墓から出て来るまでの二晩の間、じっと自分の墓の中で息をひそめていたに違いはない、と考えます。

>山谷様は今までに再建主義者の著書をいくつかお読みになった上で、批判を公に
>しておられるのでしょうか？それともセカンドハンドの資料に頼っておられるの
>でしょうか？

富井さまとストレイシーブさまは、わたしが個人掲示板に書いた書き込みをお読みになって、ミレニアム新着情報掲示板で、「救世軍山谷大尉の再建主義論に反論する」という議論を開始され、「男なら男らしく、正々堂々と出て来て議論しなさい」と、わたしを誘ってくださったわけです。そのときのお誘いは、「男なら男らしく、正々堂々と出て来て、議論しなさい。ただし、ラッシュドゥーニー、ノース、バーンセンの本に全部目を通していないのなら、来てもらっては困ります」というものでは、なかったと記憶していますが。

そこで質問ですが、「救世軍山谷大尉の再建主義論に反論する」という議論を開始されるにあたり、救世軍の英文及び和文の出版物をいくつかお読みになった上で、議論しておられるのでしょうか？ それとも、セカンドハンドの資料に頼っておられるのでしょうか？

マルクス・レーニン主義への批判的議論も展開しておられるようですから、当然そういう再建主義者の方々は、マルクス・レーニン全集に目を通しておられるのだらうと想像しますが。

29110 / inTopicNo.66) ファンダメンタリストの山谷閣下に質問です。

□投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(3回)-(2004/01/26(Mon) 04:08:46)
<http://www.geocities.jp/inri7000/>

No28046に返信(山谷さんの記事)
> 聖書と同等の権威は存在しません。聖書のみです。

No28902に返信(山谷さんの記事)
> さて、ファンダメンタリストのわたしとしては、

ファンダメンタリストの山谷閣下に質問です。

以下の聖書箇所は、水によるバプテスマを行なうように使徒も主キリストご自身も命令しておられると私は思うのですが、これらの聖句にもかかわらず、「入隊式」に転じることを指示する聖書箇所をご教示下さい。

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

【マタイ福音書28：18-20】

それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」

【マルコ福音書16：15-18】

そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」

【使徒行伝2：38-39】

そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。

【使徒行伝10：48】

さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。

【使徒行伝22:16】

[No28046](#)に返信(山谷さんの記事)

> 洗礼を廃棄したのではなく、入隊式という洗礼に相当するものを行っています。

> また「聖霊と火のバプテスマ」という転機的聖化を重視しています。

では、以下の初代教会で実際行なわれていたバプテスマを示す聖書箇所は、「水のバプテスマ」を行っていたのでしょうか？あるいは、「入隊式」を行っていたのでしょうか？

そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊まりください。」と言って頼み、強いてそうさせた。

【使徒行伝16：15】

看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。

【使徒行伝16：33】

会堂管理者クリスポは、一家をあけて主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。

【使徒行伝18：8】

これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってバプテスマを受けた。

【使徒行伝19:5】

それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

【ロマ書6:3-4】

キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたのはパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名によるのでしょうか。

【コリント前書1:13】

バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

【ガラテヤ3:27】

尚、大変申し訳ありませんが、私の読んでいる聖書は、原典ではなく、写本の写本。。。翻訳の翻訳。。。(新改訳や口語訳や文語訳など)です。ネスレー以前の底本からの訳はときどき、永井訳か欽定訳を参照する程度です。以上

29226 / inTopicNo.67) 未来派の人へ

投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(13回)-(2004/01/27(Tue) 09:27:20)

黙示録の出来事が未来に起こると考えている人は下記を読んでみてください。

<http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/GWTJ.html>

29536 / inTopicNo.68) Re[9]: ファンダメンタリストの山谷閣下質問です。

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(19回)-(2004/01/31(Sat) 00:24:36)

>ファンダメンタリストの山谷閣下に質問です。

>以下の聖書箇所は、水によるバプテスマを行なうように使徒も主キリストご自身
>も命令しておられると私は思うのですが、これらの聖句にもかかわらず、「入隊
>式」に転じることを指示する聖書箇所をご教示下さい。

水のバプテスマは、悔い改めを象徴する行為として、バプテスマのヨハネによって行われました。

ここで重要なのは、「水に浸ること」ではなくて、「罪を悔い改めること」です。
「水に浸ることによって、悔い改めの心が発生する」のではなく、
「悔い改めの心が先に存在して、それが水に浸るという行為を通し『悔い改め』という
内面的事実を可視的に表明する」のです。

そうでなければ、「悔い改めの心が全然存在しなくても、ただ水に浸りさえすれば、それでよい」ということになってしまいます。

それでは、もし本当に悔い改めの心が存在するならば、水に浸ることは、本当に必要なのか、どうか？

本当に悔い改めの心が存在するならば、その外的表明は、必ずしも全浸礼でなくてもよい。滴礼でもよい、と考える教団教派があります。カトリックや長老教会がそうです。

それでは、もし本当に悔い改めの心が存在するならば、滴礼の「一滴、二滴のしずく」が、本当に必要なのか、どうか。

本当に悔い改めの心が存在するならば、その外的表明は、必ずしも「ひとしずくの

水」でなくてもよい。神のきよさ、神の洗いの水を象徴する「青色の旗」のもとで行う入隊式でもよい、と救世軍は考えるのです。

しかし、聖書的なバプテスマは、水のバプテスマだけなのだろうか？
主イエスは、「聖霊と火のバプテスマを受ける」と、聖書で言われているのではないだろうか？

仮に、悔い改めのバプテスマに「水が絶対的に不可欠な要件」として要求されるのであれば、聖霊のバプテスマにおいては「火が絶対的に不可欠な要件」として、同じように要求されることになるのではないかと。なぜなら、「イエスは聖霊のバプテスマだけを授ける」と言われているのではなく、「聖霊と火のバプテスマを授ける」と言われているのだから。

しかし、キリスト教の長い歴史の中で、「火のバプテスマ」を文字通り受け取り、信者に火の中を通らせるような儀式は、原始幕屋を別にすれば、かつて一度も行われて来ませんでした。

それは、「全身を水に浸す」という行為が、「古い自分が死んで、墓に葬られる」ことを象徴するものであるように、「火のバプテスマ」とは、「聖霊によって心がきよめられ、聖化される」ことを象徴するものであると、理解されて来たからです。

さて、聖書は、父と子と聖霊の御名の中へとバプテスマするようにと、命じています。ここで重要なのは、水の中へとバプテスマすることではなく、また、火の中へとバプテスマすることでもなく、三位一体の神との交わりの中へと人をもたらすバプテスマが重要なのだ、ということです。

そこで、救世軍では、三位一体を象徴する「青・赤・黄」の三色の旗のもとで、洗礼に相当する入隊式を行うのです。

青は、洗いの水を象徴すると共に、聖なる父なる神を表します。

赤は、子なる神イエスキリストの贖罪の血を表します。

黄は、聖霊の火を表します。

この三色の旗のもとで、入隊式を執り行うことにより、「水が象徴する悔い改めの心」「火が象徴する聖霊によるきよめ」「父と子と聖霊の御名の中へとたらず三位一体的バプテスマ」の、いずれもが、カバーされているのです。

さて、サクラメントの原義は、「入隊式」ですから、ラテン語で会話をするならば、「救世軍にはサクラメントがある」「救世軍はサクラメントを行っている」ということになります。また、「救世軍のサクラメントはサクラメントである」と言うことになります。

しかし、有効な秘蹟には、聖別された物質としての「水」が絶対に必要だ、と言うのであれば、救うのは、キリストの力だけでなく、水の力も借りなければならない、ということになってしまいます。

救うのに、水の力が必要であるならば、その水の用いる方法や量についても、正確かつ詳細に検討しなければならなくなってしまいます。なぜなら、全身を浸すほどの大量の水の力が必要であるならば、どうして、一滴二滴のしずくで人を救うことができるだろうか？あるいは、一滴二滴のしずくで人を十分救うことができるのであれば、どうして、身を浸すほどの大量の水を用意する必要があるのだろうか？

新約聖書に見えるバプテスマは、川の流水や池のたまり水など、自然界の水に全身を浸すこと、として描かれています。

川や池の水で「なければならない」のであれば、説教壇の下に作られた洗礼槽の

中での洗礼の有効性は、どうなるのだろうか？

また、全浸礼だけが、聖書的なバプテスマであると考えるのであれば、滴礼の有効性は、どうなるのだろうか？

全浸礼だけが、真のバプテスマであるとするならば、洗礼を行っていないのは、救世軍だけでなく、長老派もカトリックも同様に「洗礼を行っていない」ことになってしまうのではないかな？

割礼が、肉の包皮を切り捨てることによって、「かたくなな心の覆いを脱ぎ捨てる」という心の割礼を象徴しているゆえに、パウロは、「肉の割礼が重要なのではなく、心の割礼が重要である」と説き、肉の包皮を切り取ることは、救いについての絶対要件ではない、とみなしました。

水の洗礼が、水にくぐり、ふたたび水から上がることによって、「古い自分の死とキリストに結ばれた新しい自分の復活」を象徴しているのであれば、「水による洗いが重要なのではなく、心の深みまで新たにされることこそ、重要である」と、言えるのではありませんか？ 事実、パウロは「心の深みまで新たにされなさい」と命じています。

しかし、それでもなお、「絶対に水を用いなければ、有効な洗礼とは、みなされない」と主張されるのであれば、それは、いたしかたないことです。

ですが、そこまで聖書を字義通り解釈して、主張されるのであれば、わたしは次のように、質問をなげかけさせていただきます。

- ・聖霊のバプテスマと別に、火のバプテスマを儀式として行わないのはなぜか？
- ・「あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない」と明確に主は命じておられるのに、洗足の儀式を行わないのは、なぜか？
- ・「片手や片目が罪を犯させるなら、切り落とし、えぐり出してしまいなさい」と明確に主は命じておられるのに、手を切ったり、目をえぐったりしないのはなぜか？
- ・女は礼拝でベールをかぶらなければならないと言われているのに、ベールをかぶらないで礼拝する女性が容認されているのは、なぜか？

上記の点を考察してみると、聖書の命令を文字通り受け取り、そのすべてを実行している教会は、現実には、ほとんど存在しないことが、わかります。ほぼすべてを実行していると考えられる教会は、正教会ぐらいでしょう。全浸礼、洗足の儀式、ベール等が、行われて来ました。しかし、正教会と言えども、火のバプテスマを行っていませんし、身体切除も行っていません。

パウロが言うように、「律法は、ほとんどすべて守っていて、ひとつだけ破ったなら、律法の全体を破ることになる」のです。聖書の字義通りの実行をやっていると誇っている教会が仮に存在するとしても、「ひとつ、ふたつ、行っていない」のであれば、律法の全体を破ることになるのではありませんか？

しかし、人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、イエスキリストを信じ、口で公に告白し、自分の身体を聖なるいけにえとして聖別し、神に身をささげることこそ、大切なのです。それが、神の救いの恵みに対する人間の側の応答です。

そうして、「信じる」「公に告白する」「身体を聖別する」などの要素は、救世軍の入隊式の中に、すべて含まれているのです。だからこそそれは、実際に洗礼に相当するものとみなされているのです。

そうでなければ、あるカトリックの司祭が、救世軍の『軍令及び軍律兵士の巻』を多数買い求めて、自分の教会の求道者の洗礼準備テキストとして使用していたという話を、どう説明すればよいのでしょうか？

29543 / inTopicNo.69) Re[10]: ファンダメンタリストの山谷閣下に質問です。

□投稿者/ でんこちゃん 兄弟姉妹(1回)-(2004/01/31(Sat) 02:26:26)
<http://www.tepco.co.jp/denkochan/index-j.html>

節水にご協力、ありがとうございました。

29546 / inTopicNo.70) Re[22]: まとめてレスします

□投稿者/ カルチョファン 兄弟姉妹(12回)-(2004/01/31(Sat) 02:42:33)

山谷大尉殿、御回答ありがとうございました。
 諸事情によりレスが遅くなりましたことお詫び申し上げます。

さて、大尉殿のレスを拝見し、なかなかご回答を頂けなかった理由がわかりました。
 なるほど、私が単純な罫を仕掛けておいて山谷大尉に非難を浴びせるべく手ぐすね
 引いているのでは、と警戒しておられたのですね。

本件についてはこれが最後になりますが、2点ほどレスさせていただきます。

(1) No28902に返信(山谷さんの記事)

> カルチョファンさまへ
 >
 > そこで、わたしは敬虔な者らしく、このように回答することにいたします。
 > 「聖書は靈感された神の言葉であるから、それを尊重するわたしは、
 > 『聖書そのものの値踏み』など、とてもではないが、畏れ多くて、出来ません」
 >
 > それにしても、聖書の言葉を二者択一の剣のように喉もとに突きつけて、
 > 「さあ、答える、どうなんだ？」と問い詰めるやり方は、やはり、過激だとは
 > 思います。

律法は神がイスラエルの民に与えられたものであり、民は「私たちは主が仰せられたことを、みな行います。」といて契約を結び、イスラエルの民はこの律法の適用を受けるものとなりました。この律法には「神の基準」が記されています。当然のことながら、神の基準は普遍性を持ちますから、律法にある刑罰基準は当時律法の適用を受けなかった異邦人にとっても、我々現代人にとっても変わらない「神の基準」であります。つまり、旧約時代のイスラエルの民にとって死罪に相当する罪は、異邦人にとっても現代人にとっても死罪に相当する罪であるということです。これは、神ご自身が、「これにつけ加えてはならないし、減らしてはならない」とおっしゃっている通りです。

そこで、再建主義は「宣教が進み、クリスチャンの数が国民のかなりの割合を占め、国民の世論が、キリスト教的世界観を喜んで受け入れる段階になってから司法律法を適用すべし」、と主張しています。
 また、司法制度にしても例えば、姦淫＝問答無用の死刑などとは述べていません。
 (※この点は大尉殿の再建主義観と一致していないようです。)

以上がこれまで私が理解している再建主義の主張です。

大尉殿は、神の普遍的基準である司法律法を上記の手順で適用しようという再建主義の考え方を指して「過激」と言いますから、では、司法律法そのものに「過激」な要素があるとお考えなのだろうか？それは司法律法は現代にはそぐわない古い基準で、これを適用しようとするのには無理があり、従って過激である、という事なのだろうか？最初の質問の際にも申し上げましたが、現代に生きるキリスト者の旧約律法に対する姿勢を考えるうえで、この問いに対する回答を知り

たいがためにお尋ねしたという次第でした。

ようようにしてお答え下さいましたが、おまけまで頂戴してしまいました。
過激者のレッテル貼られるのは御免ですので、これについては了解しました。

(2) > kingdoman777さまへ

>
>> 山谷様は今までに再建主義者の著書をいくつかお読みになった上で、批判を公に
>>しておられるのでしょうか？それともセカンドハンドの資料に頼っておられるの
>>でしょうか？

>
> 富井さまとストレイシープさまは、わたしが個人掲示板に書いた書き込みを
> お読みになって、ミレニアム新着情報掲示板で、「救世軍山谷大尉の再建主義論
> に反論する」という議論を開始され、「男なら男らしく、正々堂々と出て来て
> 議論しなさい」と、わたしを誘ってくださったわけです。そのときのお誘いは、
> 「男なら男らしく、正々堂々と出て来て、議論しなさい。ただし、ラッシュドゥー

ニー、

> ノース、バーンセンの本に全部目を通していないのなら、来てもらっては困ります」

> というものでは、なかったと記憶していますが。

kingdoman777様は、

* 山谷様は今までに再建主義者の著書を・い・く・つ・か お読みになった上で... *
とお書きになっています。

ラッシュドゥーニー、ノース、バーンセンの本に ・全・部・目・を・通・し・て
とは書いてません。

至極残念ですが、これについてはお答え頂けないものと了解しました。

●最後に、

これまでの経緯をからして、どうもお話がかみ合いません。しばし考えましたが、このまま続けても私が大尉殿の発言に異議を唱え、大尉殿が再建主義を批判するといった構図がエスカレートするだけであろうと思います。従って、ここら辺が潮時と考え、はじめにも書いたとおり、本件についてこれでやめにしたいと思います。

山谷大尉殿には一度終了宣言されたところをご足労頂く形になりましたが、
ここまでお相手頂きましたことについて感謝します。ありがとうございました。

29734 / inTopicNo.71) Re[23]: まとめてレスします

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(20回)-(2004/02/02(Mon) 16:39:55)

>●最後に、

>これまでの経緯をからして、どうもお話がかみ合いません。しばし考えました
>が、このまま続けても私が大尉殿の発言に異議を唱え、大尉殿が再建主義を批判
>するといった構図がエスカレートするだけであろうと思います。従って、ここら
>辺が潮時と考え、はじめにも書いたとおり、本件についてこれでやめにしたいと
>思います。

>

> 山谷大尉殿には一度終了宣言されたところをご足労頂く形になりましたが、
> ここまでお相手頂きましたことについて感謝します。ありがとうございました。

了解いたしました。こちらもこれで刀を収めることといたします（ガチャリ）

30814 / inTopicNo.72) ウェストミンスター信条の毒麦

投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(4回)-(2004/02/16(Mon) 02:02:49)
<http://www.geocities.jp/inri7000/>

No28018に返信(山谷さんの記事)

> 再建主義陣営の中では、パーシャル・プレテリズムか、フル・プレテリズムかを
 > めぐって、議論が進行中のようですが、論理的には、フル・プレテリズムに
 > 向かって収束して行くのではないかと予想します。

「再建主義」陣営という言葉に関してですが、私が所属する教会では「再建主義」という言葉は全く使われていません。（おそらく、教会員の大多数が「再建主義」という言葉自体も知りません。再建主義「陣営」という意識もほとんど皆無と思われる。）

「パーシャル・プレテリズムか、フル・プレテリズムかをめぐって、議論」を行なっているのは「再建主義陣営」と山谷閣下が呼んでおられるカテゴリーにおそらく含まれるであろう神学者達のごく一部の間での議論と思われます。少なくともうちの牧師は興味がないでしょう。w

「フル・プレテリズムに向かって収束して行く」のはあくまでも山谷閣下の頭の中だけでの想像の産物であって、歴史的事実でもなければ、現在進行形の出来事でもないことを申し添えておきます。

No28046に返信(山谷さんの記事)

> そして、フル・プレテリストになるのであれば、それは、世界信条とも歴史的
 > 信仰告白とも不整合が生ずることになるのですから、フル・プレテリストの選択
 > 肢は、カンバーランド長老教会がウェストミンスター信仰告白に「解釈学的修正
 > 条項」を加えたように、フル・プレテリストによる修正版ウェストミンスター信
 > 仰告白を制定することであろうと思われます。

プレテリズムの話ではなくて、ウェストミンスター信条は二重契約の神学を土台にしており、実はカルヴァン自身がその宗教改革途上（綱要の後期改版作業で）で気付き、「聖書に忠実ではない！」と考え、捨てた中世的な「救済の秩序（オールド・サルティス）」への逆戻りであるが故に、根本的な修正が必要だと私は考えます。

カルヴァン系教会の歴史的信条には、大陸系改革教会の「ベルギー信仰告白（1561）」「ハイデルベルク信仰問答（1563）」「ドルトレヒト信仰規準（1619）」等があり、他方、スコットランド系長老教会の「ウェストミンスター信仰告白（1647）」があります。

ウェストミンスター信仰告白に代表されるウェストミンスター信仰基準はカルヴァンの宗教改革を純粋に継承したものではなく、イングランドのピューリタンに端を発する「契約の図式（フェデラル・スキーム）」を中心に据えており、歴史上の事実としては、スコットランド教会の正統性の絶対基準となってしまうが故に、所謂「カルヴァン主義」と同一視されるに至っているに過ぎないものです。

「契約の図式」は恵みよりも律法を優先する。カルヴァンは「キリスト教綱要(1536)」辺りでは、ルターが「小教理問答」でいう律法—恵みの形式に従っていましたが、後年、その形式は極めて非聖書的であると認識し、棄却しました。

則ち、律法は、[恵みと対立しない]恵みによる賜物であって、恵みの義務を詳述し、恵み—キリストにおける律法の成就—に導くものである。それこそは旧約律法の内的意味である。それはイスラエルとの契約にあてはまるだけではなく、創造の契約にもあてはまるとカルヴァンは考え、「業の契約（フォエドス・オペルム）」「自然契約（フォエドス・ナトゥラエ）」を決して説きませんでした。

ところが、イギリスのピューリタンは、律法をキリストのもとに人間を導く教師として用いる実際的関心から、そのような律法の用法（律法—業）を一般化し、それを創造や神の教理の中に読込み、そこに二重の契約を基礎付けたのです。

これは前述の通り、人間—律法—罪—悔改め—恵み、という中世的な「救済の秩序」（ヘイルズのアレクサンデル—イギリス生まれのスコラ学者—らの教え）への逆戻りであります。

この二重契約の図式こそが、実に晩年のカルヴァンが覆そうとして苦闘した「救済の秩序」そのものだったのです。
この二重契約の図式は、前述の大陸系改革信条においては見られません。

神論において観れば、「自然法」「契約法」等、西方教会的概念から抽出され、聖書の中に読込まれた神概念でありました。一方、カルヴァンの探求した聖書の神概念は三位一体論でありました。

このように、ウェストミンスター信条は、西方教会的な「自然」―「恵み」の形式を採用し、実は中世へと、カルヴァン以前へと逆戻りさせるという、それ以降の長老教会の歩みに時限爆弾を埋込んだのでした。

サタンは実に巧妙ですね。
毒麦の喩えが人間だけでなく、このような優れた歴史的信条にも適用できる好例と言えましょう。

この「自然」―「恵み」の二元論的認識は、60年代には、フランシス・シェーファーによって問題提起され、70年代には、「理性からの逃走」の邦題で出版されました。
(彼の場合は、提起逃げですが。。。w)

神学的観点から、セオノミーに対してスコットランド長老教会が反応しているのは、今までタラタラ述べてきた問題が内包されているので、歴史的必然とでもいうべき神の摂理の働きであり、非常に面白くなってきたぞ！と言うのが私の所感ですね。w

[No28046](#)に返信(山谷さんの記事)

> 最も頑強な反対論者は、ウェスレアン・アルミニアンわたしなどではなく

念の為追記しますが、北米のセオノミストは、Van Tilの種たち（つまり大陸オランダ系）なんですね。

一方、日本の論客ラルフ・スミス師、富井氏、kingdoman777師等は実はスコットランド系でもオランダ系でもなく、バックグラウンドはアルミニアンであったり、バプテストであったりするのです。

ウ信条に骨抜きにされている日本の改革教会・長老教会からカルヴァンの種が芽をふくのはまだまだ先なんですかね〜。

あ〜、これからが楽しみ楽しみ♪

「白・黒つけてやるぜ！！」w

30851 / inTopicNo.73) 毒麦！？ やっぱり過激じゃないですか？

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(21回)-(2004/02/16(Mon) 17:35:07)

> 「フル・プレテリズムに向かって収束して行く」のはあくまでも山谷閣下の頭の中だけでの想像の産物であって、歴史的事実でもなければ、現在進行形の出来事でもないことを申し添えておきます。

わたしが関心を一番よせている問題点は、果たして、再建主義者が言うように「真空の中間領域」というようなものが、現実存在しているのかどうか、ということです。

再建主義者の考えでは、真空の中間領域を現在満たしているのは、世俗的なヒューマニズムと文化多元主義です。

しかし、新約聖書神学、特に、パウロ神学を見た場合に、国家権力は主権の霊、位の霊、支配の霊、権威の霊などと共に「この世の諸霊」とも呼ばれる天使的勢力であるとされているのです。

つまり、中間領域を満たしているのが天使的勢力であり、それが国家権力の実体であるとするならば、パウロがコリント書で言うように、キリストが地上の国家を掌握するのは、その再臨によって「主権の霊、位の霊、支配の霊、権威の霊を滅ぼした後」ということになるのです。

すると、再建主義者が言うように、「真空の中間領域」がもし存在するようになるとしたら、それは、キリスト再臨の後、ということになるのです。

こう考えると、紀元70年キリスト再臨説を説くフルプレテリストの再建主義者の方が、新約聖書神学的に整合性がある、ということになります。なぜなら、紀元70年キリスト再臨説を採用した場合にのみ、「真空の中間領域に司法律法を適用して、地上に神の国を実現する」という再建主義者のテーゼが、パウロ神学と矛盾しない「かたち」になるからです。

一方、パーシャルプレテリストの再建主義者の場合は、「キリストがまだ再臨していないのなら、中間領域は天使的勢力が占めているのであり、そこに司法律法を適用することは可能なのかどうか？」という神学的問題にすっきりした回答を出せない限りは、新約聖書神学との不整合性が残ってしまうのです。

これに対して、フルプレテリストの再建主義者の場合は、再臨問題をクリアしているので、司法律法を現代の国家と社会に適用することが論理的には可能になりますが、「すでに新天新地に入っているのに、なぜ、サタンの働きが今も続いているのか？」「古い天地が過ぎ去ったのに、律法はなぜ廃れないのか？」という、別の神学的問題に直面することになります。

>ところが、イギリスのピューリタンは、律法をキリストのもとに人間を導く教師として用いる実際的関心から、そのような律法の用法（律法一業）を一般化し、それを創造や神の教理の中に読込み、そこに二重の契約を基礎付けたのです。

>これは前述の通り、人間一律法一罪一悔改め一恵み、という中世的な「救済の秩序」（ヘイルズのアレクサンデルーイギリス生まれのスコラ学者一らの教え）への逆戻りであります。

>この二重契約の図式こそが、実に晩年のカルヴァンが覆そうとして苦闘した「救済の秩序」そのものだったのです。

>この二重契約の図式は、前述の大陸系改革信条においては見られません。

カルヴァンがオールド・サルティスを晩年に否定していたとは、不学にして知りませんでした。カトリックもルーテルも正教会も聖公会も、オールド・サルティスの考え方を神学の中に持っていますし、カトリックとルーテルと正教会の神学を折衷させたウェスレーの神学も、それに沿っています。再建主義者が旧約も新約も区別せず、平板的な聖書解釈をするのは何故なのだろうかと、以前から不思議に思っていたのですが、その疑問が氷解したような気がします。

> 神論において観れば、「自然法」「契約法」等、西方教会的概念から抽出され、聖書の中に読込まれた神概念でありました。一方、カルヴァンの探求した聖書の神概念は三位一体論でありました。

自然法は、「異教徒の心にも良心という律法が記されている」というパウロのローマ書に見える考え方から、「一般恩恵」の範疇の中で形成されて来た概念であると思います。

しかし、一般恩恵を否定してしまうと、「異教徒にも司法律法を適用することが可能である」とする再建主義者の政治的テーゼが崩壊してしまうではありませんか？

本来的には契約共同体にのみ適用される司法律法が、異教徒にも適用可能である

とするならば、一般恩恵から論じるしか道がないと思うのですが。
 ヴァンティルの「クリスチャンは、聖霊の内住によって、異教徒に比べて、知的活動が活性化される」という考え方も、どうも一般恩恵を軽視する傾向から来ているのではないかと思います。いったい、前提主義の中には、一般恩恵というものの場所が、きちんと想定されているのでしょうか？

> このように、ウェストミンスター信条は、西方教会的な「自然」―「恵み」の形式を採用し、実は中世へと、カルヴァン以前へと逆戻りさせるという、それ以降の長老教会の歩みに時限爆弾を埋込んだのでした。

>

> サタンは実に巧妙ですね。

> 毒麦の喩えが人間だけでなく、このような優れた歴史的信条にも適用できる好例と言えましょう。

「ウェストミンスター信仰告白にサタンの毒麦が混じっている」とまで言うとは！

いくらウェスレアン・アルミニアンわたしでも、そこまで過激な発言はしません
 が・・・

やはり、再建主義というのは「過激な思想」という感じを抱かざるを得ません。

ウェストミンスター信仰告白にサタンの毒麦が混じっていると本気で思っておられるとすれば、

「ウェストミンスター信仰告白とセオノミーとは相容れない」というスコットランド長老教会大会声明の

言っていることを、論理的には正しい、と認めることになってしまいますね。

オールド・サルティスを否定するとしても、聖書の中で「救済の歴史」が、ある順序を持って進行している

ことまでも、カルヴァンは、否定していないと思います。

わたしの理解する限りでは、救済の歴史は、次のように聖書に示されています。

1. アダムに「地を支配せよ」との命令が与えられた
2. アダムの墮罪により、地の支配権が失われた
3. 神は、ケルビムと剣を設置した（中間領域を占める天使的勢力と、悪を罰する国家権力の設置）
4. アブラハムに、地を支配する前提となる「地を相続せよ」との命令が与えられた
5. 地の相続は、信仰により、恵みによって与えられる
6. 地の相続に付随するものとして、律法が与えられたが、地の相続は律法の行いに基づくのではなく、
 信仰により、恵みによるという原則は不変である
7. 律法は、仲介者（天使的勢力）の手を経て制定され、後見人及び養育係（複数形の場合、
 天使的勢力を指す）が、「律法の下にある者」を監督し支配する
8. 律法の機能は、罪を暴露し、キリストのもとに連れて行くことにある
9. キリストの来臨によって、律法はその役目を終焉させ、廃棄された
10. 人間は、キリストを信じる信仰により、恵みによって、地を相続する者とされる
11. 地の相続が完全実現するのは、中間領域を占める天使的勢力と、悪を罰する国家権力が
 除去される、キリスト再臨の時においてである
12. キリストが再臨し、国家権力を天使的勢力の手から神に返し、キリストを信じる者が
 地を相続する。こうして、「地の支配」が開始される

ところで、仲介者として律法を制定し、また、後見人・養育係として律法の下にある人

間を監督する

天使的勢力は、パウロによれば、キリスト再臨の際に滅ぼされてしまうことになりま
す。律法に関わる

天使的勢力もまた、パウロの視点によれば、「この世の諸霊」に過ぎないからです。

そうすると、再建論者がたとえキリスト再臨を紀元70年に設定したとしても、それでも
やはり、

司法律法を現在の社会に適用することは、新約聖書の世界観的パラダイムと不整合に
なってしまう
のです。

それでは、キリスト再臨後の世界には、どのような司法制度が構築されるのでしょ
うか？

これについては、聖書が明言していないのですから、沈黙を守るほか、ないと思いま
す。

> ウ信条に骨抜きにされている日本の改革教会・長老教会からカルヴァンの種が芽をふく
のはまだまだ先なんですかね～。

> あ～、これからが楽しみ楽しみ♪

ウェストミンスター信仰告白に骨抜きにされた・・・ですか。

この感じだと、スコットランド長老教会大会声明に続いて、早晩、日本の改革長老教
会からも、

再建主義を憂慮する声明が出る日が近いのではないかと感じてしまいますが。

しかし、まずは改革長老教会を十分に説得できるのでなければ、ウェスレアン・アルミ
ニアンを

説得するのは、気の遠くなるような時間がかかるかと思いますが。セオノミーが実現す
るのは、

500年後、1000年後でしょうか。まあ、「千年も一日のごとし」という、前千年期再臨
論者好みの

聖句が、その場合には役立つことになるのでしょうか。

30866 / inTopicNo.74) 一般人より

投稿者/ プロテスタントカルバン派 兄弟姉妹(1回)-(2004/02/16(Mon) 20:12:15)

もっといろいろ教えてください。

どんどんやってください。

プロテスタントカルバン派を指示する一般信徒より

31345 / inTopicNo.75) 大陸系改革派諸教会の信仰告白

投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(22回)-(2004/02/21(Sat) 10:57:59)

> カルヴァン系教会の歴史的信条には、大陸系改革教会の「ベルギー信仰告白
(1561)」「ハイデルベルク信仰問答(1563)」「ドルトレヒト信仰規準(1619)」等
があり、他方、スコットランド系長老教会の「ウェストミンスター信仰告白(1647)」
があります。

再建主義者は「ウェストミンスター信仰告白は誤謬を含んでいるから、受け入れられな
い」という立場のようですが、では、それ以外の大陸系改革教会の信仰告白は、本当にど
れも、再建主義者に都合のよいものばかりなののでしょうか？

ベルギー信仰告白(1561)は、律法について、次のように述べています(第25条)

律法の儀式と表象はキリストの到来によって停止した。
律法の真理と実体は、キリストにおいて、存続している。
それゆえ、律法によって、福音を弁証し、また、律法によって
クリスチャンの生活を調整すべきである。

問題は、「クリスチャンの生活を調整する」という表現の中に、司法律法の厳格な適用による処刑制度が想定されているかどうか、ということです。

ベルギー信仰告白は、世俗的政府について、次のように述べています（第36条）

神は、人類の墮落のゆえに、為政者を任命し、世界が法律と政策によって
統治されることを欲された。
人間の乱行が阻止され、社会秩序を維持するために、神は為政者の手に
剣（司法権）を持たせた。

ここでは、世俗的政府がその法律と政策によって統治する、と述べているだけであり、
「司法律法を社会に適用しなければならない」とは言われていません。つまり、自然法に
よる統治によって、正義に対する神の要求は満たされるということです。

この考え方を、さらに明確にしたものが、「ウェストミンスター信仰告白」です。そこで
は、司法律法の廃棄が、次のように明確に述べられています。

政治体としてのイスラエルの民に、神は様々な司法的律法を与えたが
それはこの民族の国家と共に消滅し、今や、その持つ一般的公正さが要求し
得る以上のことは何も義務づけはしない。（ウェストミンスター信仰告白19:4）

ウェストミンスター信仰告白は、世俗的政府が正義の遂行のためにどのような義務を負う
かについては、何も述べていません。ですから、19:4の文言から推定するなら、世俗的政
府は、司法律法に示された一般的公正さが要求すること（犯罪者への処罰）を、自然法の
枠組みの中で行えばよいということになり、個々の犯罪に対する量刑の規定については、
司法律法の条文を厳密に固守する必要はなく、世俗的政府が独自に判断することが出来る
こととなります。

それでは、果たして「自然法」とう概念は、前提主義に立った場合、許容されるのかどう
か？

この点に関して、亀井様は、こう言われました：

> 神論において観れば、「自然法」「契約法」等、西方教会の概念から抽出され、聖書の中
に読込まれた神概念でありました。一方、カルヴァンの探求した聖書の神概念は三位一
体論でありました。

つまり、「自然法という概念は、聖書の中に根拠を持たない、誤った概念である」と主張
しておられるわけです。

ところが、大陸系の信仰告白である「第二スイス信条」（1566年）は、カルヴァンの死
から2年後に作製されたものですが、そこには明白に自然法についての記述を見ることが
出来ます。次の通りです（12:1）

神の律法は善にして聖であると告白する。そして、それは、神の指によって
人間の心の中に書かれ、自然法と呼ばれる。またそれは、同じ指によって
モーセの二枚の板にほられ、モーセの書の大部分にあらわれている。

ここには、自然法も、神定法も、共に同一の神の指によって記されたものであり、「自然
法も神定法も共に善にして聖である」と述べられています。これを根拠にすれば、自然法
によって統治する世俗的政府は、神学的正当性を有することになり、再建主義者の言うよ

うな「真空の中間領域をヒューマニズムが満たしている」という批判は、明らかに妥当性を欠いたものということになります。

欧米法は、司法律法が持つ一般的な公正さについての要求を自然法に採用して形成されて来たものであり、それが現代社会の法の直接の起源となっているわけですから、大陸系改革派教会の信条に拠って考えた場合でも、「司法律法を厳密に現代社会に適用しなくても、世俗的政府の自然法による統治によって、神が要求する正義を実現することが可能である」ということになります。

それでは、「ドルトレヒト信仰基準」（1619）は、自然法について、どう述べているのか？ ドルトは自然法を、「自然の光」という表現を使って、次のように述べています（第7条）

自然の光も、律法もなし得なかったことを、神は、彼の聖霊の働きにより、御言葉あるいは和解の役務を通して実現したもう。

ここでは、「自然の光」と「律法」とが、救いについて無力であるという文脈において併記されています。つまり、ドルトもまた、一般恩恵というものを明らかに想定しており、また、一般恩恵の範疇の中での「自然法」を、考えているのです。

「ハイデルベルク信仰告白」と同様に、ドルトレヒト信仰基準は、世俗的政府の負う義務については、何も述べていません。

このようなわけで、「自然法は聖書に根拠を持たない、誤った概念である」と断定し、「為政者は司法律法を厳格に社会に適用する義務を負う」と主張するならば、ウェストミンスター信仰告白のみならず、大陸系改革派教会の諸信条にも、いわゆる「毒麦」が混入しているということになり、ゲイリー・ノース氏の主張を徹底的に容れるとするならば、ウェストミンスター信仰告白だけではなく、他のあらゆる改革派諸信条をも、書き直すという、途方もない事態になるのは必至です。

つまり、再建主義とは、反信条主義であり、基本的に歴史的諸信仰告白とは相容れないのですから、「歴史的キリスト教の流れには属さない、現代における新しい思潮である」ということになるのでしょうか。

31348 / inTopicNo.76) Re[16]: 大陸系改革派諸教会の信仰告白

□投稿者/ 行司 兄弟姉妹(1回)-(2004/02/21(Sat) 12:16:28)

No31345に返信(山谷さんの記事)

> 再建主義者は「ウェストミンスター信仰告白は誤謬を含んでいるから、受け入れられない」という立場のようですが、では、それ以外の大陸系改革教会の信仰告白は、本当にどれも、再建主義者に都合のよいものばかりなののでしょうか？

刀をカチャリと収めてのに、また始まったちゃったよ。日本栗って粘着。

31358 / inTopicNo.77) Re[16]: 大陸系改革派諸教会の信仰告白

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(2回)-(2004/02/21(Sat) 16:28:04)

No31345に返信(山谷さんの記事)

>> つまり、再建主義とは、反信条主義であり、基本的に歴史的諸信仰告白とは相容れないのですから、「歴史的キリスト教の流れには属さない、現代における新しい思潮である」ということになるのでしょうか。

で、これが結論ってことでもう終わりですか？

再建主義支持者の方々からは何かご意見なり反論なりはありませんでしょうか？

>
>
>
>

31361 / inTopicNo.78) 誤解がありませんように。

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(72回)-(2004/02/21(Sat) 16:50:09)

プレ・ミレの事はここで議論されてもよろしいんでしょうかー？！

(一応このサイト2ちゃんの普通の掲示板にリンクされているように誤解ないようにお願いします。)

ちなみに一般信徒としては、歴史はくりかえされている事が多いので、使徒の時代におこった事(反キリスト的な思想、人物の出現)には気を配るべきだと思っています。

また、昔の時代におこった事を予表として現代社会に適応するというのは、具体的に聖書をどう引用した教義なののでしょうか？！
よかったら教えてください。

31427 / inTopicNo.79) Re[18]: 誤解がありませんように。

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(9回)-(2004/02/22(Sun) 09:18:04)

No31361に返信(のんこさんの記事)

> プレ・ミレの事はここで議論されてもよろしいんでしょうかー？！

> (一応このサイト2ちゃんの普通の掲示板にリンクされているように誤解ないようにお願いします。)

プレ・ミレ説を信じているのですか？それは何故ですか？

>
>

31428 / inTopicNo.80) Re[1]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(22回)-(2004/02/22(Sun) 10:00:10)

No27687に返信(レフリー富山さんの記事)

> 再建主義の新鋭の旗手富井先生と、ここICFでもかの「ハリポタ論争」の張本人となった救世軍のまこと先生(山谷大尉)とのガチンコ対決が勃発した。

>

> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>

> 果てしなく続く応酬に次ぐ応酬。結末はいかに！？

今はもう、話題が変わっていますね。フルかパーシャルかって・・・
私はフル・プレテリズムの方を支持します。

>

>

31447 / inTopicNo.81) Re[2]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 次郎 兄弟姉妹(12回)-(2004/02/22(Sun) 14:24:08)

再建主義もフルプレテリストも なんのことかわからないのだが、
つまりこのスレッドの本論についてはさっぱりわからない。

ただ、28051<しかし、絶対に、字義通りの平易な意味において聖書を解釈しなければならない

のだとしたら、「創造の六日間」は、文字通り一日が24時間の日が、六日あって、
世界が創造されたことになります。これが、六日間創造説です>というのは、情報収集不足ですね。

ウラは取ってないのだが、ある福音派によると、「創世記の「日」はヘブル語で「ヨーム」らしく、これは残念ながら「24時間」という意味ではなく「ある期間」という意味だ」とか言われていましたね。字義通りと言っても翻訳された言葉ではなく、原語に遡れば色んな解釈が可能で、あなたは情報不足のため、一方的に創世記の訳語の「六日」から「六日」と断定されて持論を展開されていますが、なかなか難しいものです汗。

28176<六日間創造説を信じていますが、神の六日間と人の六日間は同じ時間の長さではないと思っています>が、期せずして、字義通りの解釈としても、ヘブライ語「ヨーム」と一致するわけです。「ヨーム」が「ある期間」だとすると、字義通りでも「六日間創造説」に限定されるわけではない。

どうもです。議論の進め方に、論理性を重視されすぎて、現実の情報を確認(相手がなにを言っているか)せずに、こういう主張は論理的必然として、こういう主張になるはずだから、おかしいというような展開になっているのではと。批判される陣営や、読む人からすると、あなたの論は「あなたが想定され相手」に対する批判をされているのだが、それは不正確だと、ということではないかと感想をもちます。

横からの無礼 ご寛恕ください。

31465 / inTopicNo.82) プレテリズムとは

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(23回)-(2004/02/22(Sun) 18:56:49)

No31447に返信(次郎さんの記事)

>

>

> 再建主義もフルプレテリストも なんのことかわからないのだが、

> つまりこのスレッドの本論についてはさっぱりわからない。

もしフル・プレテリズムについてお知りになりたいのであればこちらをどうぞ。

http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/What_is_the_Preterist_View.html

31511 / inTopicNo.83) ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 細木 しもべ(894回)-(2004/02/23(Mon) 02:50:28)

No31447に返信(次郎さんの記事)

> ただ、28051<しかし、絶対に、字義通りの平易な意味において聖書を解釈しなければならない

> ののだとしたら、「創造の六日間」は、文字通り一日が24時間の日が、六日あって、
 > 世界が創造されたことになります。これが、六日間創造説です>というのは、情報収集不足ですね。
 > ウラは取ってないのだが、ある福音派によると、「創世記の「日」はヘブル語で「ヨーム」らしく、これは残念ながら「24時間」という意味ではなく「ある期間」という意味だ」とか言われていましたね。字義通りと言っても翻訳された言葉ではなく、原語に遡れば色んな解釈が可能で、あなたは情報不足のため、一方的に創世記の訳語の「六日」から「六日」と断定されて持論を展開されていますが、なかなか難しいものです汗。
 > 28176<六日間創造説を信じていますが、神の六日間と人の六日間は同じ時間の長さではないと思っています>が、期せずして、字義通りの解釈としても、ヘブライ語「ヨーム」と一致するわけです。「ヨーム」が「ある期間」だとすると、字義通りでも「六日間創造説」に限定されるわけではない。
 > どうもです。議論の進め方に、論理性を重視されすぎて、現実の情報を確認(相手がなにを言っているか)せずに、こういう主張は論理的必然として、こういう主張になるはずだから、おかしいというような展開になっているのではと。批判される陣営や、読む人からすると、あなたの論は「あなたが想定され相手」に対する批判をされているのだが、それは不正確だと、ということではないかと感想をもちます。
 >
 > 横からの無礼 ご寛恕ください。

ヨームは24時間とは限りません。仰る通りです。しかし、24時間と理解することもあります。で、どちらを取る方が信仰的とその方々が思うかの問題になってくるわけです。情報収集不足の人がいないとは申しませんが、ここで発言される方はそこまでは知っている人の方が多いはずだと思います。(細木、期待し過ぎ?)

31514 / inTopicNo.84) Re[4]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 次郎 兄弟姉妹(13回)-(2004/02/23(Mon) 06:11:03)

No31511に返信(細木さんの記事)

よくわからんですが・・・。
 「ある期間」という解釈もあるということを知っていて、なお
 「字義通り解釈=六日間創造説」になるはずだという論の進め方ならば
 悪質ですね。

31529 / inTopicNo.85) 六日間創造説を突いた理由

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(23回)-(2004/02/23(Mon) 10:46:32)

>議論の進め方に、論理性を重視されすぎて、現実の情報を確認(相手がなにを言っているか)せずに、こういう主張は論理的必然として、こういう主張になるはずだから、おかしいというような展開になっているのではと。批判される陣営や、読む人からすると、あなたの論は「あなたが想定され相手」に対する批判をされているのだが、それは不正確だと、ということではないかと感想をもちます。

「六日間創造説を奉じるならば、千年王国も文字通りの『千年』になるのではないか？」という議論を展開したのは、もちろん、再建主義の三重鎮であるラッシュドゥーニー、バーンセン、ゲイリー・ノースの各氏がいずれも一日24時間六日間創造説を主張しているからにはほかなりません。

特に、バーンセン氏は「創造に関する改革派教会の信条」と題する信仰告白文書において、長期説や断絶説を誤りと断定しており、「一日は文字通りの24時間であり、歴史上の実際の時間である」としています。(創造に関する改革派教会の信条、第7条参照)
<http://www.salemreformed.org/AReformedConfessionregardingCreation.html>

同様の議論展開として、「エリコの城壁の倒壊を、文字通りの歴史的事実として信じるなら、キリスト再臨時のオリーブ山の二分裂も、文字通りの出来事として起きるはずではないか？」

あるいは、

「ノアの洪水を文字通りの出来事として信じるなら、終末において『天は焼け崩れ、自然界の諸要素も燃え尽き、溶け去る』というのも、文字通りの出来事として起きるはずではないか？」

という問いを立てることが出来ます。

これらの問いに対して、明快な回答をすることが出来なければ、再建主義は

「字義通りの聖書解釈を尊重するファンダメンタリスト」の大多数を説得することは、おそらく、不可能でしょう。

31535 / inTopicNo.86) Re[3]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ おせっかい 兄弟姉妹(10回)-(2004/02/23(Mon) 12:50:21)

No31447に返信(次郎さんの記事)

>

>

> 再建主義もフルプレテリストも なんのことかわからないのだが、
> つまりこのスレッドの本論についてはさっぱりわからない。

再建主義についてはこちらに書いてあります。

http://www.path.ne.jp/~millnm/CR_info.html

>

31541 / inTopicNo.87) 余談ですが・・・（おこんないでね）

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(73回)-(2004/02/23(Mon) 13:30:51)

いちおう、昨日教会の先生が、千年王国説など知らなくてもイエスの救いを受け入れるか受け入れないかが重要って言ってましたけど・・・

31547 / inTopicNo.88) Re[5]: 余談ですが・・・（おこんないでね）

□投稿者/ ただのおじさん 兄弟姉妹(11回)-(2004/02/23(Mon) 14:26:10)

横レスです。

No31541に返信(のんこさんの記事)

> いちおう、昨日教会の先生が、千年王国説など知らなくてもイエスの救いを受け入れるか受け入れないかが重要って言ってましたけど・・・

終末論は所詮1つの説です。そうでなければならぬと言った時点で偏った考えです。どのような終末論であろうがクリスチャンのやることは変わりません。そうでなければ偏っています。個人的に、前提主義の考えは有益だと思いますが、それを終末論につなげる必然性を覚えません。前提主義は終末論の立場に関わらず学ぶ人を見かけます。

31583 / inTopicNo.89) Re[5]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 細木 しもべ(896回)-(2004/02/23(Mon) 20:14:02)

No31514に返信(次郎さんの記事)

> No31511に返信(細木さんの記事)

>

> よくわからんのですが・・・。
 > 「ある期間」という解釈もあるということを知っていて、なお
 > 「字義通り解釈=六日間創造説」になるはずだという論の進め方ならば
 > 悪質ですね。

悪質？何故ですか？二通りに解釈できる物事の片方を選んだというだけで「悪質」とされる理由は無いと思います。どちらを選ぶかはそれぞれに理由があるわけですから。ひょっとしたら、この解釈をする人達をめぐっては、次郎さんの方が情報不足かもしれませんよ。

31593 / inTopicNo.90) 再建主義とは？

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(24回)-(2004/02/23(Mon) 21:15:55)

> 終末論は所詮1つの説です。そうでなければならぬと言った時点で偏った考えです。どのような終末論であろうがクリスチャンのやることは変わりません。そうでなければ偏っています。個人的に、前提主義の考えは有益だと思いますが、それを終末論につなげる必然性を覚えません。前提主義は終末論の立場に関わらず学ぶ人を見かけます。

前提主義を唱えたコーネリアス・ヴァン・ティルは、聖書の司法律法を現代社会に適用する必要があるとまでは言いませんでした。ですから、ヴァン・ティルは、「再建主義に大きな影響を与えたが、彼自身は再建主義者ではなかった」と言うべきだと思います。

>どのような終末論であろうがクリスチャンのやることは変わりません。

無千年期説、歴史的千年期説、前千年期再臨説、後千年期再臨説のいずれを採ったとしても、クリスチャンのやることは、変わらないと思います。

しかし、再建主義に立った場合、御国の支配を政治や司法の領域まで拡大することがクリスチャンの義務となり、法律や税制や社会保障制度についての具体的な「施策目標」を、現実の政治的アジェンダに載せることになります。つまり、「同性愛者や姦通者や堕胎者を公開処刑する」といったことを実現するために努力することが、クリスチャンの信仰上の目標のひとつとなるのです。ゲイリー・ノース氏は「公開処刑は最も有効な福音伝道のツールのひとつとなるであろう」とさえ、言っています。

その意味では、再建主義を採った場合には、「クリスチャンのやることは、大きく変わる」ことになります。

キリスト教再建主義について、ご存知ない方のために、再建主義を理解する鍵となる12の項目をご紹介します。

1. 前提主義

人間は、聖書から出発しなければ、いかなる事柄についても、正しい認識と思考を持つことは出来ない。

2. 人間の自律の否定

ヒューマニズム、自然法、自然神学、世俗的政府の統治は、神に敵対する「悪魔的」なものである。

3. ドミニオン

「地を支配せよ」との創世記冒頭の命令は、人間が、社会と文化のあらゆる領域において「神の法」の支配を広げるようにとの「文化命令」を意味する。

4. 置換神学

イスラエル契約共同体は、神の法による支配に失敗したので、その地位は、キリスト者共同体（教会）によって取って代わられた。

5. キリスト教の最終的勝利

講解説教、ホームスクーリング、政治運動、社会改革運動によって再建主義のキリスト教が最終的に勝利し、全国民の合意によって聖書の司法律法に基づく「神政政治」が樹立される。

6. カルヴァンのキリスト教制度

「教会・聖礼典・国家」というキリスト教制度が理想的なカタチで実現された、ジュネーブの宗教改革と、マサチューセッツ湾植民地を模範とする。

7. 聖書の司法律法に基づく公開処刑

棄教、異端、冒瀆、魔術、占星術、姦淫、同性愛、近親相姦、親への暴力、矯正不能の犯罪者、女性の婚前交渉、墮胎者は司法律法に基づき、処刑されるべきである。

8. 政府による社会保障と社会福祉と医療制度の全廃

現代社会の手厚い社会保障制度は、「世俗的政府を神の座に祭り上げるもの」である。政府は、救世主となるべきではない。

9. 固定資産税、所得税、相続税の全廃と、十分の一税（教会税）の導入

クリスチャンは神の祝福によって、経済的に繁栄することが約束されている。税金による「富の収奪」を止めれば、クリスチャンは自分たちの豊かな資産によって、自力で問題に対処できる。一方、社会の落伍者に対しては、教会税によって教会が行う救貧制度を適用するが、自助努力が大前提である。

10. 経済活動に対する政府の干渉の全廃

クリスチャンは神の祝福によって、経済的に繁栄することが約束されている。その妨げとなる「政府の干渉」は、すべて廃止されるべきである。政府は、聖書の律法を適用した司法制度を通して悪を罰する「小さな政府」であればよい。

11. 陰謀史観

「歴史とは、陰謀の歴史である」（ラッシュドゥーニー）。ジョン・バーチ・ソサエティーと共に陰謀史観を同じくし、世俗的政府、特に、米連邦政府は秘密結社によって支配され世界的覇権を目論む「サタンの牙城」である。

12. 歴史的信仰告白文書の改定要求

ウェストミンスター信仰告白を始めとする、過去の諸教会の

信条・信仰告白文書は、再建主義に基づいて改定が施されるべきであり、「後千年期再臨説」と「神政政治」を、修正条項として追加するべきである。修正版信仰告白に違反するキリスト者は異端者として処罰を受ける。

31601 / inTopicNo.91) Re[6]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 次郎 兄弟姉妹(17回)-(2004/02/23(Mon) 22:39:43)

(。☉_☉)ん？

私が28051を読みますと、
 1再建主義者とファンダメンタリストの対比が為されているわけです。
 2ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」で、それを再建主義者は「幼稚」と批判するとされています。
 3なぜ幼稚と批判可能かといえ、再建主義者はその方法論により様々な解釈が可能であるのに対し、「字義どおり」解釈には自由度がなく一通りの解釈しかないからです。
 4ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」なので一通りの解釈しかないのだ、という例として字義通り解釈には、必然的に「六日間創造説」しか解釈がないという説明が為されています。

ところが字義通りでも「他の解釈も可能」であれば、例としての4が成立しません。

おわかりでしょうか？

二義の解釈があれば、「字義通り解釈」は一通りの解釈しかないという論が成立しないわけです。情報不足でされているならば、罪はありませんが、知っていてされているならば、字義通りでも「二通りの解釈」あるのをご存知でありながら、持論を都合よく展開するために故意に隠し、「一通りの解釈」しかないと展開されているわけです。

以上より、「持論を有利に進めるために、情報の一部を隠蔽している」と判断し、私は悪質だと見なすわけです。

(あるいは、逆に、字義通り解釈が必ずしも六日間創造説にならないのならば、六日間創造説を説明するのには、「字義通り解釈」だけでは不十分で、「伝統的な訳語に忠実な解釈」と申し添える必要があるのでは、と。)

さて、この解釈する人たちどころか、キリスト教ギョーカイ全体に関して私は圧倒的に情報不足です。何も知らないからこそいっている部分が確かにあります。

昨年暮れからちらほら新約を眺めている程度ですからね。

それでも日本語は少しばかりわかりますからねえー汗。(完璧では勿論ないにしろ、自分なりの言語感覚はあります)

まあ、このギョーカイの人たちに特有の表現方法や論理展開があるならば、私は無知です。私ので私のはまったく的外れだろうと思います。

31614 / inTopicNo.92) Re[16]: 大陸系改革派諸教会の信仰告白

□投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(5回)-(2004/02/24(Tue) 00:27:27)

<http://www.geocities.jp/inri7000/>

No31345に返信(山谷さんの記事)

> 再建主義者は「ウェストミンスター信仰告白は誤謬を含んでいるから、受け入れられない」という立場のようですが、

故R.J.Rushdoonyは、二重契約神学を否定します。

富井健氏は、二重契約神学を肯定します。

私は、最近、二重契約神学は誤りではないかという確信に至りつつあります。

(※以前も投稿で書きましたが、私は一信徒で、どこかの神学校で専門的な教育を受けたわけではありませんので、特定の教団や教会を代表する教説を唱えているわけではなく、己の信仰の確信に関して主張しています。)

No31345に返信(山谷さんの記事)

> この点に関して、亀井様は、こう言われました：

>> 神論において観れば、「自然法」「契約法」等、西方教会の概念から抽出され、聖書の中に読込まれた神概念でありました。一方、カルヴァンの探求した聖書の神概念は三位一体論でありました。

こちら辺の言及に関しては、スコットランド教会大会が設置した教理専門委員会特別小委員会がドイツのErlangen大学の改革神学教授 Alasdair Heron教授を編集長に立てて編纂した論文集 The Westminster Confession in the Church Today からの引用です。

特に、ウェストミンスター信条が土台に据えている二重契約の図式は、西方教会的な自然一恵みの形式を採用し、カルヴァンからも、大陸の改革諸信条からも大きく逸脱した非聖書的神学であるとの主張は、同論文集に収録されている James B. Torrance (スコットランドのUniversity of Aberdeenの組織神学教授)による論文"Strength and Weaknesses of the Westminster Theology" からの要約です。

「反信条主義」という言葉から類推するに山谷閣下と私の歴史的諸信条に対するとらえ方の基本的な違いがあるようです。同論文集の第8章に収録されている、スコットランド教会の著名な牧師達の個人的な意見を集めたもののうちから、私の意見に近いと思われるところを引用します。

改訂や改善の余地のない、ましてや無謬の信条などというものはこの世に存在しない。ウェストミンスター信条に権威が内在するわけではない。それを作ったのも誤り得る人間である。如何なる意味においても、ウ信条を、教義を規定する最終的言葉とすることは不可能である。その教説にいかにも陶醉していようと、責任ある立場の人間は、ウ信条を無謬の最終的権威などと言い立てたりはしない。実際問題として、神学における進歩（発展）の原理が認められるなら—これこそが、改革教会は改革される(ecclesia reformata reformanda est)という言葉の意味するところである—教理基準の発展、更には改定問題が発生するのは必然の理である。

(1958～1997年の間、Edinburgh の Holyrood Abbey Church of Scotland の牧師を勤めていたJames Philip師の意見から)

No31345に返信(山谷さんの記事)

> ウェストミンスター信仰告白だけではなく、他のあらゆる改革派諸信条をも、書き直すという、途方もない事態になるのは必至です。

途方もない事態であっても、汗をかかない片手間の作業であっても、私達は神様に対して責任を負っていると私は考えます。

No31345に返信(山谷さんの記事)

> 再建主義とは、反信条主義であり、基本的に歴史的諸信仰告白とは相容れないのですから、「歴史的キリスト教の流れには属さない、現代における新しい思潮である」

このように、ウェストミンスター信条及び大陸系改革派諸信条を全面的に支持し、改訂を決して許さない山谷閣下ご自身は、「全的墮落」「無条件的選び」「限定的贖罪」「不可抗的恩恵」「聖徒の堅忍」をも全面的に支持されておられるわけですね。

救世軍はアルミニウス主義であると何処かで書いておられたと思いますが、そんなにカルヴィニズムに心酔してしまわれて大丈夫ですか？来月のお給料が振込まれなくても私は知りませんよ。w

31616 / inTopicNo.93) ところで素朴な疑問です。

□投稿者/ 亀井@ドミニオン通信 兄弟姉妹(6回)-(2004/02/24(Tue) 00:44:46)

<http://www.geocities.jp/inri7000/>

> 救世軍はアルミニウス主義であるとは何処かで書いておられたと思いますが、そんなにカルヴィニズムに心酔してしまわれて

ところで素朴な疑問です。

多分、山谷閣下のサイト(?)に以下の記述があります。

http://members.at.infoseek.co.jp/kindoochan/devils_island.html

- > 悪魔島がこの地球上から消え去ったという歴史的事実は、
- > 「救世軍人の聖礼典的な生き方が、社会を漸進的に改良し、
- > 長い年月の果てに、ついに理想郷的な千年王国が出現する」という、
- > ウイリアム・ブースの後千年期王国論が、まさに現実化した

ウイリアム・ブースと山谷閣下の終末論は違うのでしょうか？

31634 / inTopicNo.94) Re[5]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(12回)-(2004/02/24(Tue) 09:25:46)

No31514に返信(次郎さんの記事)

> No31511に返信(細木さんの記事)

>

> よくわからんのですが・・・。

> 「ある期間」という解釈もあるということを知っていて、なお

> 「字義通り解釈=六日間創造説」になるはずだという論の進め方ならば

> 悪質ですね。

よくわからんのですが...誰が悪質なのですか？

>

>

31637 / inTopicNo.95) Re[7]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(25回)-(2004/02/24(Tue) 10:17:10)

> 私が28051を読みますと、

> 1再建主義者とファンダメンタリストの対比が為されているわけです。

> 2ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」で、それを再建主義者は「幼稚」と批判するとされています。

> 3なぜ幼稚と批判可能かといえ、再建主義者はその方法論により様々な解釈が可能であるのに対し、「字義どおり」解釈には自由度がなく一通りの解釈しかないからです。

> 4ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」なので一通りの解釈しかないのだ、という例として字義通り解釈には、必然的に「六日間創造説」しか解釈がないという説明が為されています。

>

> ところが字義通りでも「他の解釈も可能」であれば、例としての4が成立しません。

> おわかりでしょうか？

> 二義の解釈があれば、「字義通り解釈」は一通りの解釈しかないという論が成立しないわけです。情報不足でされているならば、罪はありませんが、知っていてされているならば、字義通りでも「二通りの解釈」あるのをご存知でありながら、持論を都合よく展開するために故意に隠し、「一通りの解釈」しかないと展開されているわけです。

>

> 以上より、「持論を有利に進めるために、情報の一部を隠蔽している」と判断し、私は悪質だと見なすわけです。

>

> (あるいは、逆に、字義通り解釈が必ずしも六日間創造説にならないのならば、六日間創造説を説明するには、「字義通り解釈」だけでは不十分で、「伝統的な訳語に忠実な解釈」と申し添える必要があるのでは、と。)

>

> さて、この解釈する人たちどころか、キリスト教ギョーカイ全体に関して私は圧倒的に

情報不足です。何も知らないからこそいっている部分が確かにあります。
 > 昨年暮れからちらほら新約を眺めている程度ですからね。
 > それでも日本語は少しばかりわかりますからねえー汗。(完璧では勿論ないにしろ、自分なりの言語感覚はあります)
 > まあ、ここのギョーカイの人たちに特有の表現方法や論理展開があるならば、私は無知ですので私のレスはまったく的外れだろうと思います。

黙示録の「千年」という期間は、文字通りの千年（一年365日が1000年の期間）ではない、と再建主義者は主張するわけですが、その再建主義者は、創世記の六日間の創造は、一日24時間が六日間であると主張しているのです。

そこで、創世記の六日間を字義通りに解釈するのであれば、なぜ、黙示録の1000年間は字義通りに解釈しないのか？ということ、再建主義者は説明しなければならない責務を負うことになります。

「聖書のある箇所は字義通りに解釈し、ある箇所は字義通りには取らない」のであれば、それが、どのような解釈学的ルールによって行われるのか、明示できなければなりません。

そうでないと、再建主義者がどのような聖書解釈を提示したとしても、「それは自分の都合の良い意味を、テキストに読み込んでいるだけではないのですか？」という反論を、反対者から受けてしまうことになります。

31638 / inTopicNo.96) 話それてたらすみません。

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(80回)-(2004/02/24(Tue) 10:49:26)

前ちょっとみたんですけど、再建主義のT氏は、人を不安にさせる教理は悪魔からきたと思うので、プレミレは間違っていると書いてありました。

歴史はくりかえされる事がおおいので、教訓として気にとめる必要はあると思いますが、私もたしかに終末、終末とおおると、逆にそれを利用する人がでたり、なんでもそんな風にみえるというのも一理あると思いますが・・・
 （一応教会では終末をかなり意識しているように見える）

31639 / inTopicNo.97) まとめてレスします

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(26回)-(2004/02/24(Tue) 10:55:00)

>このように、ウェストミンスター信条及び大陸系改革派諸信条を全面的に支持し、改訂を決して許さない山谷閣下ご自身は、「全的墮落」「無条件的選び」「限定的贖罪」「不可抗的恩恵」「聖徒の堅忍」をも全面的に支持されておられるわけですね。

わたしは改革派ではありませんので、ウェストミンスター信仰告白のすべてについて同意しているわけではありません。ですので、ウェストミンスター信仰告白に記されている文言によって、わたしの信仰と実行が左右されるわけではありません。

これは、わたしがカトリックではないので、トリエント教会会議教令によってわたしの信仰と実行が左右されることはないのと、同じことです。

しかし、再建主義者は、改革主義教会の唯一正統にして忠実な継承者であると自認しているわけですから、改革派の諸信仰告白によって再建主義者の信仰と実行が規定されるのは、当然のことです。

ところで、ウェストミンスター信仰告白は、司法律法の廃棄を明確に述べていますし、大陸系諸信条は「神の指で記された自然法」や「自然の光」(lumen naturae)

について述べているわけですから、再建主義者のテーゼは、それらによって論理的には覆されてしまうことになるわけです。

ところが、再建主義者は、自説に合うようにウェストミンスター信仰告白を改定し（つまり、ポストミレニウム条項と、セオノミー条項を追記し）、その改定版信仰告白に基づいて、違反者（つまり非再建主義者）を異端として断罪しようと唱えているわけです。

信仰告白に基づいて異端者を断罪するのが、ふつうの信条主義ですが、自分の都合のよいように信仰告白を改定した上で、その改定版で異端者を断罪しようと願う立場は、本当に信条主義だと言えるのでしょうか？

>ウィリアム・ブースと山谷閣下の終末論は違うのでしょうか？

ウィリアム・ブースは後千年期王国論者だったと言われています。

しかし、前千年期再臨説であっても、後千年期再臨説であっても、キリストの再臨は「未来」の出来事であり、キリスト初臨と再臨の間である現在は「中間時」であるというパラダイムは、共通しています。

さて、現在が中間時であるならば、当然のことながら、「中間時の中間領域において、天使的勢力が、神から委任された主権を行使している」ということになりますし、また、キリスト者は「中間倫理」（終末論的倫理）を生きるべきである、ということになります。そして、中間倫理には、ローマ書13章の「エクスーシアへの服従」（国家権力＝主権の天使への服従）が含まれています。

この論理的帰結として、キリスト者は中間領域を征服して司法律法の適用を国家権力に強いることは出来ない、ということになります。ですから、通常のキリスト教では、教会と国家を異なった法領域として捉え、教会と国家の分離を説くわけです。

よって、前千年期再臨説であっても、後千年期再臨説であっても、司法律法の現在の社会への適用は、論理的に不可能ということになります。

これを論理的に可能にするためには、ブルトマンがしたように、新約聖書における天使的勢力についての記述をすべて「非神話化」するか、あるいは、一般恩恵と自然法という概念・範疇が、聖書に根拠を持たないことを、神学的に論証しなければなりません。

それでは、ウィリアム・ブースの後千年期再臨説は、どのようなものであったのか？それは、ウェスレアン・アルミニアンが重視する「聖潔」が、鍵となっています。第二の転機としての聖化を体験する「聖徒」が、宣教を通して地上に増大することにより、聖徒たちは隣人への愛の奉仕を組織的かつ犠牲的に行うようになります。こうして、社会福祉事業、医療事業、教育事業、社会改良事業、地域開発事業が地球規模で進められ、世界は漸進的に改革され、悪が除去され、理想的な社会に近づき、その後、キリストが再臨すると考えました。

これは、再建主義のアジェンダのある部分と類似していますが、再建主義が司法律法の厳格な適用によって悪を除去しようとするのに対して、ウィリアム・ブースは、隣人への愛の奉仕によって悪を除去しようと考えていました。「キリストの愛によって動機づけられた奉仕によって、悪を除去できる」という考え方は、救世軍だけでなく、多くのキリスト教会の社会奉仕事業の「動機」となっています。つまり、再建主義の理論に立たなくとも、キリスト教会は別の理論によって社会を改革することが可能なのです。

31640 / inTopicNo.98) Re[8]: 話それてたらすみません。

□投稿者/ 無教派信徒 兄弟姉妹(59回)-(2004/02/24(Tue) 11:22:03)

横スレですみません。

No31638に返信(のんこさんの記事)

- > 前ちょっとみたんですけど、再建主義のT氏は、
- > 人を不安にさせる教理は悪魔からきたと思うので、
- > プレミレは間違っていると書いてありました。
- >
- > 歴史はくりかえされる事がおおいので、教訓として
- > 気にとめる必要はあると思いますが、
- > 私もちたしかに終末、終末とおおると、逆にそれを利用する人がでたり、
- > なんでもそんな風にみえるというのも一理あると思いますが・・・
- > (一応教会では終末をかなり意識しているように見える)

新約(黙示録を含む)を読む限りでは、不安を仰ぐというより来るべきすばらしい世をにつての希望が語られていると思います。終末はあくまでこの世の終わりを意味していて、女性が子供を出産する時の陣痛のようで生まれてしまえば忘れてしまうものであるとパウロは語っていると思います。自己利益のために終末論を使って人々を脅したり、騙したりする団体や個人があるかもしれませんが、彼らは普通この世の終わりにどんなすばらしい世が待っているかを語ることがありません。福音は「神の国の到来」を告げる希望に満ち溢れたものであるはずだと思います。もちろんこれは来臨(再臨)があるという前提での話ですが。プレミレ派の考えには不安を煽るのではなく、希望を持ち、主の来臨を待ちつづけましょうというのが根底にあると思います。

聖書の終末について書かれている個所だけを引用して、終末論だけを語っている人やグループがいたら、その後どうなりますかと質問して見れば、彼らの意図がよくわかると思います。

31643 / inTopicNo.99) かみあってなかったらすみません。

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(81回)-(2004/02/24(Tue) 12:28:26)

改革派とか長老派とか、いまいち区別がわからないのに、口をはさんでしまってすみません。
再建主義とは、つまり政治活動を目的とした啓蒙団体という事になるのでしょうか？

イエス様もカイザルの物は、カイザルに返しなさいと語られた言葉もありますが、政治と精神的な人間社会の法則は分けて考えられるという一例だと思うのですが・・・

たしかに、私達は涙をぬぐいされら、死も、悲しみも、叫びも、痛みもない中に入れらるという大きな希望があるので、今の世に悲しみがあろうとも絶望する必要はないと思います。

31644 / inTopicNo.100) Re[7]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 細木 しもべ(897回)-(2004/02/24(Tue) 12:29:42)

No31601に返信(次郎さんの記事)

- > (。☉_☉)ん？
- >

> 私が28051を読みますと、
 > 1再建主義者とファンダメンタリストの対比が為されているわけです。
 > 2ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」で、それを再建主義者は「幼稚」と批判するとされています。
 > 3なぜ幼稚と批判可能かといえ、再建主義者はその方法論により様々な解釈が可能であるのに対し、「字義どおり」解釈には自由度がなく一通りの解釈しかないからです。
 > 4ファンダメンタリストの解釈は「字義どおり」なので一通りの解釈しかないのだ、という例として字義通り解釈には、必然的に「六日間創造説」しか解釈がないという説明が為されています。

>
 > ところが字義通りでも「他の解釈も可能」であれば、例としての4が成立しません。
 > おわかりでしょうか？
 > 二義の解釈があれば、「字義通り解釈」は一通りの解釈しかないという論が成立しないわけです。情報不足でされているならば、罪はありませんが、知っていてされているならば、字義通りでも「二通りの解釈」あるのをご存知でありながら、持論を都合よく展開するために故意に隠し、「一通りの解釈」しかないと展開されているわけです。

なんだか次郎さんの感覚が解りません。別に「故意に隠し」たりしていないはずですよ。二通りの解釈が可能なことの方がむしろ前提で、その中でどちらを取るのかという議論じゃないかと思います。どちらを取るかは、信仰とその他のどのソースもしくは理解との整合性を求めるかで変わるのです。どのソースとの整合性を求める方がより信仰的かという部分を巡っての立場が「より字義通りの解釈」であったり、「より科学的解釈」であったりして、それぞれに議論を展開しているだけです。

> 以上より、「持論を有利に進めるために、情報の一部を隠蔽している」と判断し、私は悪質だと見なすわけです。

というわけで、「隠蔽」という事実は無いと思います。仮にこれで「隠蔽」している通りの個人や団体が存在したら、随分お目出度い存在と言わなければならないでしょう。

> (あるいは、逆に、字義通り解釈が必ずしも六日間創造説にならないのならば、六日間創造説を説明するには、「字義通り解釈」だけでは不十分で、「伝統的な訳語に忠実な解釈」と申し添える必要があるのでは、と。)

「字義通り解釈」というのはあくまで「より字義通りに近い解釈」に過ぎません。創造については新約のイエス・キリストや使徒などの記述がサポートとして用いられており、旧約の記述だけ読んで「故に六日間なのだ」とすることはありません。

> さて、この解釈する人たちどころか、キリスト教ギョーカイ全体に関して私は圧倒的に情報不足です。何も知らないからこそいえている部分があります。
 > 昨年暮れからちらほら新約を眺めている程度ですからね。
 > それでも日本語は少しばかりわかりますからねえー汗。(完璧では勿論ないにしろ、自分なりの言語感覚はあります)
 > まあ、ここのギョーカイの人たちに特有の表現方法や論理展開があるならば、私は無知ですので私のレスはまったく的外れだろうと思います。

別にまったく的外れということではないと思います。これまでのレスをお読みになってもつかめない情報はたくさんあるわけですから。

31650 / inTopicNo.101) Re[8]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ ただのおじさん 兄弟姉妹(16回)-(2004/02/24(Tue) 12:53:25)

横レスというか、聖書解釈の原則の問題について少し曖昧なところがあるので質問します。

山谷さんに質問しますが、

> 字義通りに解釈

とはどのような聖書解釈を指しているのでしょうか。
字義通り、を強調する牧師でも、聖書解釈学くらい学んでおり、その原則には従っている
と思います。たとえば下に上げられているような原則にです。

<http://akashichurch.hp.infoseek.co.jp/nt0108.html>

これに従っているからといって終末論が1つになるわけではありません。お分かりのこと
とは思いますが確認のためリンクしておきます。多分、終末論の主要な立場がこの原則に
従っているという人から出てくるでしょう。

私が最初の質問を山谷さんにしたのは、このような言葉の定義は、掲示板においてはきち
んと確認される必要があると考えるからです。掲示板においては、誤解を招く要因は減ら
す必要があります。

また、私が、字義通り、と言う場合、少なくとも上のリンクに書かれている原則を念頭に
置いています。そうでない立場は別の言葉を使った方が良いと考えます。

31653 / inTopicNo.102) Re[7]: 再建主義とは？

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(13回)-(2004/02/24(Tue) 13:10:22)

No31593に返信(山谷さんの記事)

>>

>>どのような終末論であろうがクリスチャンのやることは変わりません。

>

> 無千年期説、歴史的千年期説、前千年期再臨説、後千年期再臨説のいずれを

> 採ったとしても、クリスチャンのやることは、変わらないと思います。

ひとつ質問をさせて下さい。

山谷さんは上記のうちどの説を採用しておられるのですか？

>

>

31655 / inTopicNo.103) Re[8]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(14回)-(2004/02/24(Tue) 13:17:43)

No31637に返信(山谷さんの記事)

>

> 黙示録の「千年」という期間は、文字通りの千年（一年365日が1000年の期間）

> ではない、と再建主義者は主張するわけですが、その再建主義者は、

> 創世記の六日間の創造は、一日24時間が六日間であると主張しているのです。

山谷さんは1日24時間の6日間創造説支持者なのですか？

また、千年王国の千年は千年間でなければならないとお考えなのですか？

31661 / inTopicNo.104) 一般信徒よりお願い

□投稿者/ 一般信徒よりお願い 兄弟姉妹(1回)-(2004/02/24(Tue) 16:07:45)

反キリストのような人物が現れるのかどうかは誤解をまねいたり、
変な解釈をする人がいるので、ここではしないでくださいね。

31671 / inTopicNo.105) Re[8]: ちょっと状況は違うと思います

□投稿者/ 次郎 兄弟姉妹(20回)-(2004/02/24(Tue) 21:24:28)

No31644に返信(細木さんの記事)

細木さん、こんばんは

うん。すれ違っていますね。

「二通りの解釈が可能なことの方がむしろ前提」であるとされる細木さんと、そこが全くわからない私という構図かもです。

私の側から申し上げますと、「いつ、どこで前提されているのか」「28051に明示あるいは暗示されているのか。ならばどこなのか」「28051に至る以前のスレッド内あるいはスレッドの議論が始まる前から前提されていたのか」「あるいは議論以前の問題でクリスチャンならば常識として前提されているのか」さっぱりわかりません。

31700 / inTopicNo.106) かみあってますか？

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(83回)-(2004/02/25(Wed) 09:48:13)

聖書の数字がすべて字義どおりにうけとれないとほかの意味があると解釈するのなら、予表の計算があてにならないという意味ですかね？！

とりあえず、気をつける事気をつけて、イエス様受け入れれば幸せがまっているという事でまとまりますでしょうか？

31703 / inTopicNo.107) まとめてレスします

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(27回)-(2004/02/25(Wed) 10:40:03)

>山谷さんに質問しますが、字義通りに解釈とはどのような聖書解釈を指しているのでしょうか。字義通り、を強調する牧師でも、聖書解釈学くらい学んでおり、その原則には従っていると思います。たとえば下に上げられているような原則にです。

><http://akashichurch.hp.infoseek.co.jp/nt0108.html>

>これに従っているからといって終末論が1つになるわけではありません。お分かりのこととは思いますが確認のためリンクしておきます。多分、終末論の主要な立場がこの原則に従っているという人から出てくるでしょう。

>私が最初の質問を山谷さんにしたのは、このような言葉の定義は、掲示板においてはきちんと確認される必要があると考えるからです。掲示板においては、誤解を招く要因は減らす必要があります。

>また、私が、字義通り、と言う場合、少なくとも上のリンクに書かれている原則を念頭に置いています。そうでない立場は別の言葉を使った方が良いと考えます。

現代のキリスト教会の大勢としては、教義学と聖書学が離婚状態に置かれているわけですが、今回の再建主義とのディベートの場合は、「司法律法を現代社会に適用することが妥当かどうか？」「紀元70年キリスト再臨説は妥当かどうか？」

「世界信条と諸信仰告白を改定してポストミレニウム条項とセオノミー条項を追記すべきかどうか？」という、議論がいずれも教義学上（組織神学上）の問題点に集中しているわけです。（教義学上の問題であるからこそ、再建主義者は諸信仰告白の改定要求をしていることは、そのあかしでもあります）

ところで、宗教改革においては教義学の構築を行う場合に、旧新約聖書を「真理の命題集」として使用して来ました。これは、教理問答や信条のひとつひとつの箇条に対して、引照聖句あるいは証明聖句として脚注を行うような、聖書への態度です。そうして、現代においても、教義学を論じる場合には、聖書を真理の命題集として用いるべきことを、フランシス・A・シェーファーが唱えました。

再建主義者は、フランシス・A・シェーファーから大きな影響を受けています。

（シェーファーはヴァン・ティルと共に、司法律法の現代社会への適用を決して

説きませんでした。)

以上の理由から、再建主義者と教義学上の議論を行うためには、聖書を真理の命題集として捉える立場からディベートを行うのでなければ、有効な議論を展開することができないであろうと、わたしは考えました。

つまり、これまでの議論でわたしが用いて来た「字義通りの意味」とは、教義学が「引照聖句」や「証明聖句」を引っぱって来るような、真理の命題集として聖書を使用する方法、ということになります。

このような聖書解釈方法によって、再建主義者に対して具体的な問題点の提起を相当数行うことが可能であると考えます。たとえば：

- ・再建主義者は一日24時間六日間創造説を採用しているのに、なぜ、1000年の地上支配を、一年365日1000年間支配と考えないのか？
- ・「キリストにあって奴隷も自由人もない」という聖句によって奴隷解放運動が肯定されるのであれば、「キリストにあって男も女もない」という聖句によって女性解放運動が肯定されないのは、なぜか？
- ・聖句に基づいて、公開処刑を命じる司法律法を現代社会に適用しようとするならば、契約共同体成員間の利子付債務の禁止を現代に適用しようとするのは、なぜか？

ところで、聖書を真理の命題集として使用した場合に、当然のことながら、諸命題間に外見上の矛盾が発生しますから、それに対して整理を行わなければなりません。

わたしは、この「諸命題の整理」にあたっては、宗教改革が唱えた「キリスト論的集中」によって整理を行うべきであると考えます。

たとえば、旧約聖書を真理の命題集として使用する場合には、ヘブライ人への手紙に示された「律法に予型され、律法に対して優越し、律法の完成者となったキリスト」というパラダイムを、すべての旧約聖書の文言に適用した上で解釈すべきであると考えます。

このときに重要となるのが、「レビ系の祭司制度に基づいて律法が与えられた」という「鍵概念」です。ヘブライ人への手紙の著者は、この概念から展開して、「非レビ系の祭司が立てられたのであれば、当然のことながら、律法が変更されなければならない」と説き、「ユダ系のイエスがメルキゼデクに等しい大祭司として立てられたことにより、古い律法は廃棄された」と述べています。

古い律法が廃棄された、というヘブライ人への手紙の著者に呼応するようにして、ヨハネはその手紙の中で「互いに愛し合うという掟が、キリストにおいて与えられた」と説いています。ここに、「互いに愛し合いなさい」という、「ユダ系の祭司制度に基づいて与えられた律法」を見ることが出来ます。

上記のような「鍵概念」を「キリスト論的集中」の法則により、旧約聖書のすべての文言に適用した上で、教義学上で必要な聖句引照を行うべきであると考えます。これを別の表現で言い換えるならば、「司法律法は廃棄された」というウェストミンスター信仰告白19：4の考え方になるわけです。

以上をふまえて、聖書を真理の命題集として用いて議論するならば、次の設問：

- ・ナザレのイエスはユダ族出身者として大祭司となったのに、レビ系祭司職に根拠した司法律法を「変更せずに」現代社会に適用することが、可能かどうか

か？

再建主義者は、この問題に対して、ほかの引照聖句から反論できなければなりません。
このようにして、議論が続いて行くわけです。

31704 / inTopicNo.108) Re[10]: かみあってますか？

□投稿者/ わかった 兄弟姉妹(1回)-(2004/02/25(Wed) 11:11:09)

お互い異端宣告するほどゆずれない事やったら、
キリスト教界全体を巻き込む重要な事やで、
かみあってなかったら悪いけど、
掲示版で討論できるレベルなんですかね？！
協調できるんならしたって！

31711 / inTopicNo.109) Re[11]: かみあってますか？

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(17回)-(2004/02/25(Wed) 12:44:38)

No31704に返信(わかったさんの記事)
> お互い異端宣告するほどゆずれない事やったら、
> キリスト教界全体を巻き込む重要な事やで、
> かみあってなかったら悪いけど、
> 掲示版で討論できるレベルなんですかね？！
> 協調できるんならしたって！

協調はしなくていいんじゃないでしょうか？
どちらかが間違っているのでは？
真理はただひとつと言う事で...
私は極力聖書を正しく理解したいと望んでいます。

31727 / inTopicNo.110) Re[12]: かみあってますか？

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(28回)-(2004/02/25(Wed) 16:16:14)

> 協調はしなくていいんじゃないでしょうか？
> どちらかが間違っているのでは？
> 真理はただひとつと言う事で...
> 私は極力聖書を正しく理解したいと望んでいます。

協調できるのであれば、わたしも協調したいと思います。

しかし、再建主義は、米国の右翼思想の思想的バックボーンとなっている理論であり、しかも、改革長老教会そのものから「聖書と相容れない」として距離を置かれているような理論ですから、協調するにしても、細心の注意が必要であると思います。

再建主義の父ラッシュドゥーニー氏の女婿であり、自らも再建主義の理論家であるゲイリー・ノース氏は、義父の逝去に際して、次のように述べているぐら
いですから・・・

「ラッシュドゥーニーの著作は、新キリスト教右翼の思想的中核の源泉である。
新キリスト教右翼は、1980年に突然現れた投票者層として、米メディアの注目を浴びた。この投票者層は、ロナルド・レーガンの圧倒的支持層であった。レーガ

ンの大統領就任の二週間後に出た『ニューズウィーク誌』1981年2月2日号に、この宗教的右翼のシンクタンクが、ラッシュドゥーニーのカルケドン・ファウンデーションであるとする短い記事が掲載された。しかし、米メディアの主流は、まったく関心を払わなかった。宗教右翼の思想的源泉が、いったいどこにあるのかを、米メディアは解明しようとしなかった。テレビ伝道者のジェリー・ファルウェルやパット・ロバートソンを目にしたメディアの知識人は、テレビこそが世界的変革の源泉であろうと考えた。1981年当時、ラッシュドゥーニーは新右翼や新キリスト教右翼の指導者を別にすれば、だれにも知られていなかった。そうして、(2001年2月8日の)死に至るまで、知られないままであった。」

米国の再建主義者は、自分が「右翼」だとの明確な自覚を持っているわけですが、日本の再建主義者は、自分が「右翼」だとは思っていないところが、最大の悲劇であると、わたしは考えます。

31740 / inTopicNo.111) Re[9]: ちょっと状況は違うと思います

投稿者/ 細木 しもべ(900回)-(2004/02/25(Wed) 18:13:36)

No31671に返信(次郎さんの記事)

> No31644に返信(細木さんの記事)

>

> 細木さん、こんばんは

> うん。すれ違っていますね。

> 「二通りの解釈が可能なことの方がむしろ前提」であるとされる細木さんと、そこが全くわからない私という構図かもです。

> 私の側から申し上げますと、「いつ、どこで前提されているのか」「28051に明示あるいは暗示されているのか。ならばどこなのか」「28051に至る以前のスレッド内あるいはスレッドの議論が始まる前から前提されていたのか」「あるいは議論以前の問題でクリスチャンならば常識として前提されているのか」さっぱりわかりません。

一番最後のに近いと細木は思っています。教会によっては殆ど関心を払わずに取り扱ってくれなかったり、ページ数の少ない解説本では自分のグループの解釈だけ載せておしまいというケースもありますが、いろいろ知りたいと思い始めたクリスチャンが手に入れられる書物や情報では複数の議論が掲載されていることの方が多いと感じています。その中のどれを選ぶとそのグループとして都合がいいかを結論に持ってくる書き方もあれば、自分で決めさせようとする書き方も有ります。

31744 / inTopicNo.112) Re[10]: まとめてレスします

投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(20回)-(2004/02/25(Wed) 20:34:44)

No31703に返信(山谷さんの記事)

>> このような聖書解釈方法によって、再建主義者に対して具体的な問題点の提起を

> 相当数行うことが可能であると考えます。たとえば：

>

> ・再建主義者は一日24時間六日間創造説を採用しているのに、なぜ、

> 1000年の地上支配を、一年365日1000年間支配と考えないのか？

>

> ・「キリストにあって奴隷も自由人もない」という聖句によって奴隷解放運動が肯定されるのであれば、「キリストにあって男も女もない」という聖句によって女性解放運動が肯定されないのは、なぜか？

>

> ・聖句に基づいて、公開処刑を命じる司法律法を現代社会に適用しようとするならば、契約共同体成員間の利子付債務の禁止を現代に適用しようとするしないのは、なぜか？

>

> ・ナザレのイエスはユダ族出身者として大祭司となったのに、レビ系祭司職に
 > 根拠した司法律法を「変更せずに」現代社会に適用することが、可能かどう
 > か？
 >
 > 再建主義者は、この問題に対して、ほかの引照聖句から反論できなければなりま
 > せん。

再建主義者の方はこれらの質問について答えてあげてくれませんか？
 沈黙を守られているのは何故ですか？

> このようにして、議論が続いて行くわけです。
 >

31746 / inTopicNo.113) Re[10]: まとめてレスします

□投稿者/ ただのおじさん 兄弟姉妹(17回)-(2004/02/25(Wed) 22:11:50)

再建主義の掲示板を見ました。

No31703に返信(山谷さんの記事)

> このようにして、議論が続いて行くわけです。

本当に議論なのですか。議論ならば再建主義者の掲示板でやればいいじゃないですか。そもそもこの掲示板には以下のような但し書きがついているのです。この但し書きに抵触するかしないかのようなきわどい書き込みをしてまでこの掲示板で議論をつづける理由が分かりません。この一連のやりとりは下の但し書きに抵触するのではないかとさえ思えます。

下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。

「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気で強要する人達。」

「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他的表現を露骨にする人達。」

31758 / inTopicNo.114) Re[2]: 富井氏とT師のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(21回)-(2004/02/26(Thu) 09:00:24)

No31428に返信(プレテリストさんの記事)

>>

> > <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

↑ここまで一方的に言いたい放題だと呆れてしまいます。何か哀れ...
 私はフル・プレテリズムの方を断然支持します。

フルプレを否定する人はイエス・キリストの言葉を否定する事になります。

31768 / inTopicNo.115) 二度目の刀を納めます

□投稿者/ 山谷 兄弟姉妹(29回)-(2004/02/26(Thu) 11:59:56)

>本当に議論なのですか。議論ならば再建主義者の掲示板でやればいいじゃないですか。そもそもこの掲示板には以下のような但し書きがついているのです。この但し書きに抵触するかしないかのようなきわどい書き込みをしてまでこの掲示板で議論をつづける理由が

分かりません。この一連のやりとりは下の但し書きに抵触するのではないかとさえ思えます。

>

> 下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。

> 「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気で強要する人達。」

> 「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他的表現を露骨にする人達。」

・・・本当にそうですねえ。ICFの基準に、ぎりぎりのところで抵触しているような感覚を、自分でも感じています（これは、以前にも書いたことですが）

一度は刀を納めたものの、また刀を抜いてしまったのは、「ウェストミンスター信仰告白には非聖書的概念が混入しているが、大陸系改革派諸信条には、そんなものは混入していない」という書き込みを読んで、思わず頭に血がのぼってしまったからです。

「ちょっとまちなさいよ。再建主義者がさんざんサタンのだと揶揄している『自然の光』『自然法』という概念が、大陸系諸信条には書いてあるじゃないの?!」と、PC画面を前にして叫んでしまったことが、再度刀を抜いた原因です。

一般恩恵と自然法。これはキリスト教2000年の神学の歴史の中で、確固不動の場所を占めている神学的概念であるわけですが、議論を通して明らかになったことは、どうやら、再建主義者はその理論の首尾一貫性を確保するためには「一般恩恵と自然法を完全に否定しなければならない」という、途方もない課題を抱えることになるらしいことです。

そんなことが果たして可能なのかどうか。
わたしはおそらくは、不可能に違いないと思うのですが。
しかし、再建主義者は、その長く、狭く、険しい道を、どうしても進んで行くしかないのであろうと思います。

もうひとつ、今回の議論を通して明らかになったことは、新約聖書の国家観と律法観を理解する上で不可欠であろうと思われる、「中間時の中間領域を占める天使的勢力と中間倫理」という新約聖書神学の重要な概念が、再建主義者の思考の中から、おそらく、ほとんど抜け落ちていて、ということです。

ヴァン・ティルやラッシュドゥーニーほどの博覧強記の神学者たちが、ハインリッヒ・シュリーアやオスカー・クルマンを知らないはずがないだろうとは思いますが、知っていたとするならば、「中間時・中間領域・中間倫理」を明快に論破できない限り、「キリスト者がキリスト再臨の前に、国家という法領域を征服し占領する」という再建主義者のセオリーは、1ミリすらも前に進めないはずなのです。

問題は、では、どうやって論破が可能なのか、ということです。ブルトマンのように「それは古代人の神話的世界観だから、現代人には合わないよ」と言って非神話化することがひとつの方法ではあるのですが、ファンダメンタリストである再建主義者には、それは絶対にできません。

そうなると、聖書の字義通りの意味を尊重しながら「中間時・中間領域・中間倫理」を葬り去らなければならなくなる。これは、一般恩寵と自然法を否定するという仕事に次いで、非常に険しく、困難な作業であろうと思います。

狭く、険しい道を辿った末に、果たして、わたしのようなウェスレアン・アルミニアンの前千年期再臨論・患難期前携挙論者を「ああ、たしかにそうです」と

納得させ、感服させるような神学的回答を、再建主義者が提出できるのかどうか。

しかし、その前に、再建主義者は自分たちのサークル中でまず、フルプレテリズムかパーシャルプレテリズムか、信条主義か非信条主義かの議論を決着させなければならないと思います。その決着がつかないうちは、ウェスレアン・アルミニアンのプレミレニアリストは「再建主義に対して心の不安を感じる必要は一切ない」と断言いたします。

信条主義か非信条主義か、フルプレかパーシャルプレか、一般恩恵・自然法・中間時・中間領域の天使的勢力・中間倫理をどうやって完全否定するのか。それらについての明快な回答が出揃ったときこそ、ウェスレアン・アルミニアンのプレミレニアリストにとって「本格的論戦のときがきた」と言うべきです。

言いたいことは言いましたので、これで二度目の刀を納めることといたします。

しかし、三本目の刀をもし抜くようなことでもあったら、この次は、米国新右翼と陰謀史観と再建主義の密接な関係を突くことになるであります。

「歴史とは、陰謀の歴史である」とする、ラッシュドゥーニー氏の陰謀史観。再建主義は米国新右翼の思想的源泉であり、カルケドンファウンデーションは新右翼のシンクタンクであると明言してはばからないゲイリー・ノース氏の『聖書の陰謀論』。

米国旧右翼ジョンバーチ・ソサエティーを「初代教会の姿を理想的かたちで体現している組織」として高く評価し、人脈を持つラッシュドゥーニー氏とゲイリー・ノース氏。

そうして、エール大学出身者の秘密結社スカルアンドボーンズが合衆国政府と国連を支配し、覇権と新世界秩序を完成しつつあるという、再建主義者の間で流布される陰謀論（参考 <http://tak0719.hp.infoseek.co.jp/qanda/inbousikan.htm>）

・・・またもや陰謀論か・・・と、正直言いまして、全身脱力を感じるような疲れを覚えます。フリッツ・スプリングマイヤーの前千年期再臨説に立つ陰謀論が、米国のプアホワイト向けサブカルチャーであるとするならば、再建主義の陰謀説は、米国の上層中産階級向けサブカルチャーなのであります。

よもや、三度目の刀を抜くことはないと思いますが、今度抜いたらそこに議論が及ぶことは、避けられないと思います。

それでは、刀を納めます（ガチャリ）

31773 / inTopicNo.116) またおじゃましてすみません。

□投稿者/ のんこ 兄弟姉妹(84回)-(2004/02/26(Thu) 12:34:56)

前千年王国説

後千年王国説の方がわかりやすいと思います。

あと、政治的な事を表立ってうたうと、一般ピープルの反発がうるさいと思う。

31790 / inTopicNo.117) Re[4]: またおじゃましてすみません。

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(22回)-(2004/02/26(Thu) 15:16:00)

No31773に返信(のんこさんの記事)

> 前千年王国説

> 後千年王国説の方がわかりやすいと思います。

> あと、政治的な事を表立ってうたうと、一般ピープルの反発がうるさいと思う。

前であれ後であれ地上千年王国というのは無いと思っています。私は。

31794 / inTopicNo.118) Re[12]: 二度目の刀を納めます

投稿者/ ただのおじさん 兄弟姉妹(18回)-(2004/02/26(Thu) 15:34:20)

No31768に返信(山谷さんの記事)

>> それでは、刀を納めます (ガチャリ)

ただのおじさんです。

どうやら一段落のようです。

この一連のやりとりには、クリスチャンとして幾つか参考になる点がありましたが、それは多少私自身に、このような問題に対して関心があったからであり、この掲示板に集われる多くの人にとって、それほど関心の持てるものとは思えませんでした。

個人的な見解を少し申せば、様々な教理も、結局のところ、聖書にどう書いてあるか、聖書をどう読みとるか、という点に収斂されると理解しております。聖書から離れて教理や神学が存在しているわけではない、という立場であります。ですから、○○神学、××神学、という言い方を強調することに対しては、違和感が強いのであります。私自身の信仰も、ある種の神学に影響されていることは確かでしょうが、それをあまりに強調しすぎるのは変なのではないか、と考えております。

さらに申せば、再建主義の主張で問題になった、クリスチャンの言動のありようについても、私自身は、聖書との兼ね合いを超えて存在するもの、クリスチャンの言動を規定するものはない、と考えております。

人間の主義主張には、えてして強調し過ぎる部分があり、極端に走りやすいものであると思います。私自身はどちらかと言えば、中間的な立場を取ることが多いのですが、それも、様々な主義主張が、人間的な都合で強調し過ぎている部分を感じているからであり、その強調し過ぎている部分をならしていった結果、中間的な立場を取っているのではないかと思います。

必ずしも物事は、あれかこれかでなければならないことはないということはないのであり、中間にも幾つもの立場がある、という点を、議論のようなものをするとして人間は忘れがちになるものです。注意が必要ですね。

31813 / inTopicNo.119) Re[3]: 富井氏とT師のガチンコ対決勃発！

投稿者/ 無教派信徒 兄弟姉妹(67回)-(2004/02/26(Thu) 20:25:41)

No31758に返信(横レスさんの記事)

> No31428に返信(プレテリストさんの記事)

>>>

>>> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>

> ↑ここまで一方的に言いたい放題だと呆れてしまいます。何か哀れ...

> 私はフル・プレテリズムの方を断然支持します。

>

> フルプレを否定する人はイエス・キリストの言葉を否定する事になります。

うーん・・・ご自分の意見を主張なさるのはよいとして、ここまで断言しちゃうのは少なくともここでの書き込みでは問題だと思うのですが。

ICFの基準では：

下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。

「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界の有りる存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気で強要する人達。」

「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他的

表現を露骨にする人達。」

になってると思いますので、もう少しお互い慎重になりましょうね。

>

31816 / inTopicNo.120) Re[5]: またおじゃましてすみません。

□投稿者/ 無教派信徒 兄弟姉妹(68回)-(2004/02/26(Thu) 20:40:36)

横レスで失礼します。

No31790に返信(横レスさんの記事)

> No31773に返信(のんこさんの記事)

>> 前千年王国説

>> 後千年王国説の方がわかりやすいと思います。

>> あと、政治的な事を表立ってうたうと、一般ピープルの反発がうるさいと思う。

>

> 前であれ後であれ地上千年王国というのは無いと思っています。私は。

ということは天に千年王国がすでにできたか、これからできるということでしょうか。一応ゼカリヤ書 14・4 に具体的に「その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山に立つ。・・・」とありますが、この山は黙示録 14・1 にあるシオンの山と同じと考えている人もいます。いずれにしても、天で起こった（あるいは起こる）出来事に対する描写であるとするなら、天にもエルサレムがあり、その東の方角にあるオリブ山（シオンの山？）があることになりますが、横レス様はそうにお考えなのでしょうか。別の解釈方法があるならお聞かせ願います。

31817 / inTopicNo.121) Re[4]: 富井氏とT師のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(23回)-(2004/02/26(Thu) 20:45:27)

No31813に返信(無教派信徒さんの記事)

> No31758に返信(横レスさんの記事)

>> No31428に返信(プレテリストさんの記事)

>>>>

>>>> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>>

>> ↑ここまで一方的に言いたい放題だと呆れてしまいます。何か哀れ...

>> 私はフル・プレテリズムの方を断然支持します。

>>

>> フルプレを否定する人はイエス・キリストの言葉を否定する事になります。

>

> うーん・・・ご自分の意見を主張なさるのはよいとして、ここまで断言しちゃうのは少なくともここでの書き込みでは問題だと思うのですが。

> ICFの基準では：

>

> 下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。

> 「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界の存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気で要する人達。」

> 「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他的表現を露骨にする人達。」

>
> になってると思いますので、もう少しお互い慎重になりましょうね。

どうもすみませんでした。m(__)m
自分の聖書解釈を他の人に強要するつもりは全くありません。
ただリンク先のBBSで余りにも一方的にフルプレはサタンだ異端だと決め付けられまして
頭に血が上ってしまいました。反省するとともにもう今後何も書き込みません。

ただ私はイエスさまの次の言葉を素直に信じたいだけです。
「私の全ての預言はこの時代のうちに成就する。しかり、私はすぐに来る。」

>
>>

31818 / inTopicNo.122) Re[6]: またおじゃましてすみません。

□投稿者/ 横レス 兄弟姉妹(24回)-(2004/02/26(Thu) 21:05:16)

No31816に返信(無教派信徒さんの記事)

> 横レスで失礼します。

>

> No31790に返信(横レスさんの記事)

>> No31773に返信(のんこさんの記事)

>>> 前千年王国説

>>> 後千年王国説の方がわかりやすいと思います。

>>> あと、政治的な事を表立ってうたうと、一般ピープルの反発がうるさいと思う。

>>

>> 前であれ後であれ地上千年王国というのは無いと思っています。私は。

>

> ということは天に千年王国がすでにできたか、これからできるということでしょう。一応ゼカリヤ書14・4に具体的に「その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリーブ山に立つ。・・・」とありますが、この山は黙示録14・1にあるシオンの山と同じと考えている人もいます。いずれにしても、天で起こった(あるいは起こる)出来事に対する描写であるとするなら、天にもエルサレムがあり、その東の方角にあるオリーブ山(シオンの山?)があることになりますが、横レス様はそうにお考えなのでしょうか。別の解釈方法があるならお聞かせ願います。

私は聖書の預言は全てすでに終わっていると考えています。
と言っても半年前から過去派に改宗したばかりですが...(^^ゞ
<http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/Zechariah.html>

>
>

31821 / inTopicNo.123) Re[5]: 富井氏とT師のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ 無教派信徒 兄弟姉妹(69回)-(2004/02/26(Thu) 21:12:51)

No31817に返信(横レスさんの記事)

> No31813に返信(無教派信徒さんの記事)

>> No31758に返信(横レスさんの記事)

>>> No31428に返信(プレテリストさんの記事)

>>>>

>>>>> <http://www.path.ne.jp/~robcorp/bbs/wwwboard.cgi>

>>>

>>> ↑ここまで一方的に言いたい放題だと呆れてしまいます。何か哀れ...

>>> 私はフル・プレテリズムの方を断然支持します。

>>>

>>> フルプレを否定する人はイエス・キリストの言葉を否定する事になります。
 >>
 >> うーん・・・ご自分の意見を主張なさるのはよいとして、ここまで断言し
 >> ちゃうのは少なくともここでの書き込みでは問題だと思うのですが。
 >> ICFの基準では：
 >>
 >> 下記に該当する方はBBSへの参加をご遠慮ください。
 >> 「自分の信じている福音理解が全ての領域に渡って誤りが無い（人間という限界
 の有る存在であるにも関わらず）として、他人にも何の配慮もなくその立場を平気
 で強要する人達。」
 >> 「もしくは、その立場を表明するにあたって他への配慮、工夫がなく独善的排他
 的
 >> 表現を露骨にする人達。」
 >>
 >> になってると思いますので、もう少しお互い慎重になりましょうね。
 >
 > どうもすみませんでした。m(____)m
 > 自分の聖書解釈を他の人に強要するつもりは全くありません。
 > ただリンク先のBBSで余りにも一方的にフルプレはサタンだ異端だと決め付けられま
 して
 > 頭に血が上ってしまいました。反省するとともにもう今後何も書き込みません。

誰でも熱くなりすぎてしまうことは、あると思いますので、そう言わずに
 もっとご意見をお聞かせください^^ 熱心さのあまり私も熱くなりすぎて、
 失敗してしまったことは過去に（たぶんこれからも）何度もありますが、
 失敗から学んだことがたくさんあります。時には失敗するのも成長の過程
 の中では大事だったりすると思います。

>
 > ただ私はイエスさまの次の言葉を素直に信じたいだけです。
 > 「私の全ての預言はこの時代のうちに成就する。しかり、私はすぐに来る。」

なるほど、おっしゃることはよくわかります。「この時代」の解釈が、皆
 それぞれ違っているのかもしれませんがね。イエス様がいらした時の時代
 だけを指すと考えるか、それとも現代をも含む時代を指すと考えるかで
 大きく解釈が変わってくるのかもしれませんがね。

横レス様に主の祝福と恵みが豊かにありますように！

>>
 >>>

32332 / inTopicNo.124) Re[6]: 富井氏とまこと大尉のガチンコ対決勃発！

□投稿者/ ただのおじさん 兄弟姉妹(22回)-(2004/03/05(Fri) 01:21:01)

ただのおじさんです。
 山谷さんへお知らせ。

No28018に返信(山谷さんの記事)

>> 「身体の復活がある」と聖書には書かれていません。
 >> 詳しくは下記をお読み下さい。
 >> http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/The_Resurrection_From_The_Dead.html
 >> 再建主義陣営の中では、パーシャル・プレテリズムか、フル・プレテリズムかを
 > めぐって、議論が進行中なのですが、論理的には、フル・プレテリズムに
 > 向かって収束して行くのではないかと予想します。

<http://www.path.ne.jp/~millnm/okumura.htm>

パーシャル・プレテリズムの方からフル・プレテリズムに異端宣言が下されました。
これによりパーシャル・プレテリズムが再建主義の主流となるのでしょうか？

32344 / inTopicNo.125) この時代とはいつか？

□投稿者/ プレテリスト 兄弟姉妹(25回)-(2004/03/05(Fri) 08:59:37)

No31821に返信(無教派信徒さんの記事)

>>> ただ私はイエスさまの次の言葉を素直に信じただけなんです。
>> 「私の全ての預言はこの時代のうちに成就する。しかり、私はすぐに来る。」
>
> なるほど、おっしゃることはよくわかります。「この時代」の解釈が、皆
> それぞれ違っているのかもしれませんがね。イエス様がいらした時の時代
> だけを指すと考えるか、それとも現代をも含む時代を指すと考えるかで
> 大きく解釈が変わってくるのかもしれませんがね。

「この時代」がいつの時代か、に関してはここの記事を読んで見てください。

http://kingdoman777.hp.infoseek.co.jp/The_Great_Triburation.html

>
>>
>>>
>>>>

32347 / inTopicNo.126) 牧師先生方へ

□投稿者/ 牧師先生方へ 兄弟姉妹(1回)-(2004/03/05(Fri) 10:07:30)

まだ全部読んでないから、のみこめてないけど、
インターネットで流すからには、それなりの影響を考えてください。

また、牧師さん達は何が異端なのか、はっきりさせた上で指導ください。

わけがわからず混乱します。

一般信徒よりお願い